

研究報告書第51号

学校評価に関する研究

# 学校改善につながる学校評価の在り方

平成15・16年度

茨城県教育研修センター

—— 研究の概要及び索引語 ——

教育の地方分権化の動きに伴い、自主的・自律的な学校経営の推進が求められる中、学校改善につながる学校評価がますます必要になってきている。本研究では、2か年間の継続研究として、研究助言者の講義及び助言等による理論研究、県内公立小・中学校、県立高等学校及び特殊教育諸学校への意識・実態調査等による調査研究、そして、研究協力校及び研究協力員による実践研究をもとに、学校改善につながる学校評価の基本的な考え及び具体的方策等についてまとめた。

索引語：学校改善，学校評価，授業評価，単元評価，教育課程評価，学校経営の評価

## 目次

本研究の要約	1
学校改善につながる学校評価の研究に寄せて	2
第1 研究の概要	4
1 研究の趣旨	4
2 研究の期間	4
3 研究の方法	4
4 研究のねらい	4
5 研究の構想	5
第2 学校改善につながる学校評価の基本的な考え方	6
1 学校改善とは	6
2 学校改善の必要性	6
3 学校改善を推進していくためには	6
4 学校評価とは	7
5 学校改善につながる学校評価を展開するための10のポイント	8
6 授業評価を起点とした学校評価のイメージ図	12
7 授業評価を起点とした学校評価の目的・方法等一覧	13
第3 研究協力校の実践	14
実践事例1 桂村立坪小学校	14
実践事例2 鹿嶋市立鹿島小学校	24
実践事例3 水海道市立豊岡小学校	34
実践事例4 大洗町立南中学校	44
実践事例5 日立市立泉丘中学校	52
実践事例6 千代田町立千代田中学校	62
実践事例7 茨城県立土浦第二高等学校	72
実践事例8 茨城県立下館工業高等学校	82
実践事例9 茨城県立水戸飯富養護学校	92
第4 学校改善につながる学校評価の在り方に関する意識・実態調査（平成16年度）	102
1 調査の概要	102
2 調査の結果	102
第5 研究の成果と今後の課題	107
1 研究協力校での学校評価実践の歩みから見える成果	107
2 今後の課題	108
〔資料〕 授業評価，単元評価のためのシート例	109
〔参考文献〕	118
〔研究関係者一覧〕	119

## 本研究の要約

### 1 学校改善とは

学校の教育目標の実現を目指し、教育活動を日常的、継続的によりよいものにしていく営み

「わかる授業」の実現こそ、学校改善の中心である。

### 2 学校評価とは

学校の教育目標の実現状況や具体的な教育計画の実施状況を総合的・客観的に評価するとともに、評価結果及びそれに基づいて見いだされた改善策を保護者や地域住民等に公表・説明すること

学校評価は、授業評価を起点として、単元評価、教育課程評価、学校経営の評価へとつながる一連の評価であり、それぞれの評価を積み上げることによって学校改善が図られる。

### 3 特色ある実践

#### (1) 小学校

- ① 児童と教師による単元の1時間ごとの授業評価 (p. 17)
- ② 保護者や地域の方々への学校評価の結果の公表 (p. 19)
- ③ 児童や教師による授業評価の結果を活用した単元指導計画の改善 (p. 27)
- ④ 評価項目を絞り、重点化して実施する教育課程評価 (p. 28)
- ⑤ ゲストティーチャー(専門家)による授業評価 (p. 37)
- ⑥ 児童、保護者、教師の三者が共通項目で実施する学級経営の評価 (p. 38)

#### (2) 中学校

- ① 卒業生とその保護者による学校評価 (p. 47)
- ② 次の学期に生かすための具体策を記入する学期末評価 (p. 48)
- ③ 「確かな学力の定着」プロジェクトによる授業・単元評価 (p. 55)
- ④ 授業・単元評価結果に基づいた教育課程評価 (p. 56)
- ⑤ 単元の理解度に関する評価項目を工夫した単元評価 (p. 65)
- ⑥ 単元計画の改善と個人の伸長に結びつける単元評価 (p. 66)

#### (3) 高等学校

- ① 理解と進度の2項目に絞った単元評価 (p. 75)
- ② マークカードによる自己評価 (p. 76)
- ③ 生徒個々の状況を把握する授業評価 (p. 84)
- ④ 中学校の教員による評価 (p. 85)

#### (4) 特殊教育諸学校

- ① 年間指導計画等の改善につながる単元別・題材別評価 (p. 96)
- ② 卒業生の保護者による学校評価 (p. 97)

### 4 意識・実態調査結果(研究発表会参加者と学校評価研修講座受講者を対象に実施)

- (1) 10月段階において、授業評価を学校全体で実施している学校は約50%であり、実施回数は3回と回答した学校が多い。(p. 103)
- (2) 授業評価を起点とした学校評価を実施して、授業の工夫改善や単元構成の改善が図られたという意見がある。(p. 105)
- (3) 授業評価を起点とした学校評価の方法がよくわからないという意見がある。(p. 105)

## 学校改善につながる学校評価の研究に寄せて

田中 統治（筑波大学人間総合科学研究科教授）

### 改善につながる評価とは

評価は改善を行うための手段です。手段である評価が目的となっていないでしょうか。手段の方が目的化する皮肉な現象です。これを社会学では「目的と手段の転倒」と呼びます。一体、何のための評価だったのか？このような根本的な問い直しが始まっています。ある企業の「成果主義」を質すビジネス書がベストセラーになりました。これは「評価の時代」が成熟期に入ったことを示しています。米国流の評価法に内在するメリットとデメリットについて、日本流の観点から見極めようとする動きです。

この動きが学校評価にも影響を及ぼしています。その一つが、説明責任を果すための外部評価と、改善を図るための内部評価を分けて考える見方の登場です。前者は外向け、後者は内向けの評価と言ってもよいでしょう。大事な点は、二つをどう関連づけ、学校改善を図るかということです。外向けと内向けの評価を「タテマエとホンネ」ように使い分けると、やがて「評価疲れ」に陥ります。こうした使い分けが日本の慣習的なスタイルでした。しかし、グローバル化によって、これが世界では通用しなくなっており、そこに日本社会の課題があります。

外と内をつなぐ評価が本来の改善につながります。このことは企業社会では強く認識されています。学校の場合、外と内をつなぐ評価をどう工夫すればよいでしょう。私は授業評価がその鍵を握っていると考えます。

### 本研究のねらいと経過

この研究では、「授業評価→単元評価→カリキュラム評価（教育課程評価）→学校評価⇒学校改善」という一連のループを考えました。評価は改善の手段です。そう考えれば、授業評価を起点として学校改善につながる道が切り開けるはずですが、現実にはそう甘くはありません。では、どこにその問題点が潜んでいるのでしょうか？この問いを解くことが本研究のねらいです。問題点の在り処が分れば、学校改善につながる学校評価が可能になります。

2年間、研究協力校の先生方と一緒に、どうすれば授業評価を学校改善につなげられるかを協議してきました。その結果、ここに提案するような成果が得られました。15年度は、「わかる」授業を実現するため、授業評価と単元評価から始め、それをカリキュラム評価にまでつなげる手立てを検討しました。そして、16年度は、引き続き全体的な視野から、授業評価を起点に学校改善にまでつなぐ学校評価の在り方を検討しました。

## 授業評価から学校改善への道

本研究が明らかにした成果については、この報告書をお読みいただければ幸いです。ここでは、授業評価を学校改善につなげるための方策を具体的に提案したいと思います。学校評価を形式だけに終わらせないため、その評価結果を学校改善に生かさなければなりません。その方策は、つぎのようにまとめられます。

- ① 教育目標の内容について、評価することを前提として具体的に書くことです。たとえば、「授業の理解度を70%に上げる」というように数値目標化することができます。
- ② 単元の終末時に行う授業評価の中で、授業の理解度を調べることです。これを単元末テストの結果と共にデータとして蓄積すれば、過去との比較ができます。
- ③ 各単元の理解度とテスト結果をもとに、単元計画を見直すことがカリキュラム評価につながります。教育課程を検討するために時間を確保しましょう。
- ④ 学校評価の項目の中に、「授業の理解度」と「学力テストの結果」を加えて、学力向上と教育課程の改善を一体として進めていることを数値で示しましょう。
- ⑤ 「わかる授業」の実現を中心に、学校経営に努めている姿を外部に向けて発信しましょう。学校内にこうした学校改善の回路を定着させましょう。

# 第1 研究の概要

## 1 研究の趣旨

中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」（平成10年9月）において、各学校における自己評価の実施と、保護者や地域住民への説明が求められた。その後、教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（平成12年12月）において、自己点検や自己評価の内容が具体的に示された。さらに、「21世紀教育新生プラン」（平成13年1月）や総合規制改革会議答申「規制改革の推進に関する第1次答申」（平成13年12月）では、各学校における自己評価システムの確立等が提言されている。

これらを受けて、平成14年3月29日に、小学校と中学校では、新たに学校設置基準が制定され、高等学校では、学校設置基準の一部改正がなされ、「自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。」等が加えられた。この自己点検や自己評価の目的としては、評価結果等をただ単に公表するというのではなく、文部科学事務次官通知（平成14年3月29日）に示されているように、教育活動等の改善があげられる。この教育活動等の改善は、教育の地方分権化の動きに伴い、そして、自主的・自律的な学校経営の推進が求められる中、各学校において今後ますます必要になってくる。

このようなことから、各学校においては学校評価の在り方が大きな課題となっており、県教育委員会においても、平成14年度に文部科学省「学校の評価システムの在り方に関する調査研究」の委嘱を受け、学校評価に関する研究を進めているところである。

本教育研修センターでは、平成13・14年度には「特色ある学校づくりと教育課程経営の在り方」を研究主題に掲げ、特に教育課程の評価に視点をあてた研究を行ってきた。その結果、より客観的な評価方法の在り方や評価結果を改善につなげていくための方策などの明確化が、今後の課題としてあげられた。

これらの経緯や課題を踏まえ、平成15・16年度は、研究主題を「学校改善につながる学校評価の在り方」と設定し、2か年間の継続研究を進めることにした。

## 2 研究の期間

平成15年度から平成16年度までの2か年間とする。

## 3 研究の方法

- (1) 研究助言者の講義等をもとに学校評価に関する理論研究を行う。
- (2) 学校評価についての県内公立小・中学校、県立高等学校及び特殊教育諸学校への意識・実態調査を行うとともに、先進校視察を行い、研究の参考とする。
- (3) 小・中学校それぞれ3校、高等学校2校、特殊教育諸学校1校に研究協力校を、それぞれ協力校から1人の研究協力員を委嘱した。その研究協力員と教育庁指導主事、教育研修センター指導主事等をメンバーとし、学校改善につながる学校評価の在り方に関する研究協議会を開催するとともに、研究協力校との連携を図りながら、実践研究を進める。

## 4 研究のねらい

学校改善につながる学校評価の具体的な方策を明らかにし、各学校での学校評価の工夫改善に資する。

## 5 研究の構想

### 研究主題

<b>学校改善につながる学校評価の在り方</b>		
<b>主題設定の理由</b>		
<b>教育の今日的課題</b> ・教育の地方分権化 ・自主的・自律的な学校経営	<b>各学校の課題</b> ・特色ある学校づくり ・学校評価の充実	<b>本課の研究の経緯・課題</b> ・教育課程の改善につながる評価の在り方の研究
<b>研究のねらい</b> ・学校改善につながる学校評価の具体的な方策を明らかにし、各学校での学校評価の工夫改善に資する。		
<b>研究の視点</b> ・教育課程経営の研究の課題を踏まえる。 ・県教育委員会が進めている学校評価の研究との連携を図る。 ・理論研究と調査研究に基づいた実践研究を進める。		
<b>研究の内容・方法</b>		
<b>1年次（平成15年度）</b>		
<b>研究の重点</b> ・学校改善につながる学校評価の基本的な考え方及び具体的な方策をまとめる。		
<b>研究内容</b>		
<b>理論研究</b> ・田中統治先生の講義及び助言 ・文献研究	<b>調査研究</b> ・学校評価に関する意識・実態調査（県内全公立小・中学校，県立高等学校及び特殊教育諸学校） ・先進校視察	<b>実践研究</b> ・研究協議会 ・研究協力校での実践 ・研究協力校訪問
<b>研究成果の公表</b>		
<b>中間報告の配布</b> ・理論研究の内容，意識・実態調査結果，学校改善につながる学校評価の基本的な考え方等の提示		
<b>研究発表会</b> ・研究内容発表（教職教育課），実践発表（研究協力校）		
<b>その他</b> ・学校評価に関するQ&A作成		
<b>2年次（平成16年度）</b>		
<b>研究の重点</b> ・学校改善につながる学校評価の在り方を特に実践的研究を通して明らかにする。		
<b>研究内容</b>		
<b>理論研究</b> ・田中統治先生の講義及び助言 ・文献研究	<b>調査研究</b> ・平成15年度に実施した意識・実態調査に関する内容の追調査（県内公立小・中学校，県立高等学校及び特殊教育諸学校） ・先進校視察	<b>実践研究</b> ・研究協議会 ・研究協力校での実践 ・研究協力校訪問
<b>研究成果の公表</b>		
<b>研究報告書の配布</b> ・学校改善につながる学校評価の展開のポイント，研究協力校の実践内容等の提示		
<b>研究発表会</b> ・研究内容発表（教職教育課），実践発表（研究協力校）		
<b>その他</b> ・学校評価に関するQ&A作成		



## 第2 学校改善につながる学校評価の基本的な考え方

### 1 学校改善とは

学校改善を次のようにとらえる。

学校の教育目標の実現を目指し、教育活動を日常的、継続的によりよいものにしていく営み

自校の教育目標の実現を目指して日常的に行われるものは、授業である。「わかる授業」の実現こそ、学校改善の中心であると言える。そして、日常の小さな改善の積み重ねを大切にし、学期、年度、そして次年度と継続して改善を行っていくことにより、大きな改善が得られると考えられる。「よりよいものにしていく」とは、まず、よい取組、成果の上がっている取組を継続したり、一層充実させたりしながら、一方大小差異はあるにせよ、各学校の問題点や課題を解決したり、少しずつよくしていくことととらえる。

「営み」とは、経営活動を意味し、各学校が保護者、地域住民等との協働態勢のもとに、組織的、計画的、効果的に行うことと言える。

### 2 学校改善の必要性

各学校においては、教育課程の基準の大綱化と運用の弾力化とともに、自主的・自律的な学校経営の推進が求められるようになってきた。この自主的・自律的な学校経営とは、各学校が、児童生徒の実態や地域の実情等を踏まえて教育目標を独自に設定し、それを効果的に実現するための方策を自ら選択して実施し、その実現状況を自ら把握し、自校の教育活動を日常的、継続的によりよいものにしていくという営みを組織として取り組んでいくことととらえることができる。

自主的・自律的な学校経営を行っていくためには、この定義からもわかるように、「学校改善」が必要不可欠であり、自主的・自律的な学校経営が求められるのに伴い、今後ますます重要視されると言える。

### 3 学校改善を推進していくためには

各学校が学校改善を推進していくためには、次のようなことが大切になる。

#### (1) 学校経営のとらえ方の転換

学校改善を推進していくためには、校長や教頭はもとより、校内の各組織のリーダーをはじめ多くの教職員が、学校経営のとらえ方を、これまでの一般的な学校経営観とも言える「静態的に『運営』する」受け身的・消極的な学校経営観から「動態的に『経営』する」いわゆる主体的・積極的な学校経営観へと転換していかなければならない。

#### (2) 学校改善の必要性を感じる

次に、教職員一人一人が学校改善の必要性を感じなければ、学校改善は進まない。「必要性を感じる」とは、学校改善への切実感が高まることと言える。この切実感を高めるためには、何よりも学校の教育活動の中心である教育課程に視点をあて、教職員一人一人が創意工夫を生かしながらも、学校として組織的に教育課程を編成し、実施していかなければならない。このことにより、編成し、実施したことがよかったのか否か等を「評

価したい」、「評価しなければならぬ」という思いが生じ、そして、「改善しなければならぬ」という思いが高まっていくのである。

### (3) 学校改善の具体策の明確化と実践

学校改善の必要性が感じられるようになると、次の段階として、学校改善のための具体策を明確にし、実践することが求められる。この「具体策の明確化と実践」とは、だれが又はどんな組織が、いつ、どのようなことを、どのように取り組むかを明確にし、そして、その明確にした具体策を確実に実践することを意味する。

### (4) 学校改善までのシステムの確立

学校改善を組織として、計画的に推進していくためには、各学校において、学校改善に至るまでの一連の取組を「システム化」することが求められる。

これら(1)から(4)を可能にし、また、より充実させるためには、「学校評価」への積極的な取組が必要となる。

## 4 学校評価とは

県教育委員会が刊行した「学校評価の手引 中間のまとめ（高等学校の部）」（平成15年3月）では、学校評価について、「学校評価とは、学校が適切に設定した中期的目標や重点目標を保護者や地域住民等に公表し、学校の教育目標とそれに基づく具体的な教育計画やその達成状況を学校内外から総合的・客観的に評価するとともに、その結果を保護者や地域住民等に公表・説明すること。」と示している。

また、学校評価システムについては、「学校評価システムとは、学校が適切に設定した教育目標を保護者や地域住民等に公表し、それがどのように実現されているかを総合的・客観的に評価し、その結果に基づいて教育全般について改善策を講じ、自校の教育活動の一層の充実を図るために行われるもの。」と説明している。

本研究においては、この手引に示されたことを踏まえつつ、学校評価を学校改善につなげるという視点を大切にして、「学校評価」を次のようにとらえることとする。

**学校の教育目標の実現状況や具体的な教育計画の実施状況を総合的・客観的に評価するとともに、評価結果及びそれに基づいて見いだされた改善策を保護者や地域住民等に公表・説明すること**

ここでの「教育目標」は、「今年度の重点教育目標」を含めたものであり、「具体的な教育計画」は、重点教育目標の実現を目指すための方策、学年・学級経営、教科経営、道徳教育、特別活動、進路指導等の計画を含めたものととらえる。特に強調したいことは、単に、学校の教育目標の実現状況や具体的な教育計画の実施状況を評価し、その評価結果等のみを公表・説明したりするだけではなく、その評価結果に基づいて見いだした改善策についても示すことが大切であるという点である。

また、学校評価は、授業評価、単元評価、教育課程評価、学校経営の評価につながる一連の評価であり、教育活動の基盤となる授業評価を起点として、それぞれの評価がつながってこそ、学校改善が図られると考える。

## 5 学校改善につながる学校評価を展開するための10のポイント

学校評価をどのように展開したら学校改善につなげることができるのか、理論研究、調査研究、実践研究及び中間報告をもとにその基本的な視点や留意点等を、次の10項目にまとめて示す。

### (1) 学校評価の目的と主体を全教職員で共通理解する

学校評価の目的は、「管理職としての経営責任を果たすこと」や「保護者や地域住民等への説明責任を果たすこと」等である。その根幹にある目的は、「学校の教育目標の実現のために、自校の学校改善に生かすこと」である。そして、学校改善の主体は教職員であり、当然、学校評価の主体も教職員となる。教職員以外からの評価も重要であるが、これらの評価は、教職員では見えにくい部分の資料を得、また、教職員の評価結果と比較してより客観的な資料を得るために行うものである。

まず、これらのことについて全教職員で共通理解することが大切である。

### (2) 具体的に評価可能な学校経営計画を策定する

学校評価においては、とかく学校評価をどのように行うかなど方法や内容のみ論じられる傾向にある。しかし、評価を行うには評価可能な目標が必要であり、目標実現のための方策も明確にされていなければならない。

そこで、まず具体的に評価可能な目標や方策を含めた学校経営計画の策定が必要になってくる。この学校経営計画には、学校の教育目標の実現を目指した学校の中・短期(年度)それぞれの視点からの今年度取り組むべき重点施策を明示したものが含まれる。

そのため、この学校経営計画の策定にあたっては、校長のリーダーシップが求められることはもちろんのこと、その学校経営計画は、全教職員、児童生徒、保護者、地域住民、教育委員会等の学校関係者間で共有化しておくことも大切になってくる。

### (3) 学校評価の起点をなす授業評価を実施する

学校の教育活動の中で、教師が日々行っているのが授業である。学校改善は、教育活動を日常的、継続的によりよいものにしていく営みであり、その改善のためには、授業改善は必須の取組である。この授業改善には、授業評価が有効に機能する。

授業評価には、1時間の授業を評価するもの、1単元等の授業全体を評価するもの、そして、広く日頃の授業全般を学期毎等に評価するものがある。特に、1時間の授業や1単元等の授業全体を評価する授業評価は、学校評価の起点をなすものととらえることができる。これらの授業評価を行うことによって、1時間1時間の授業の指導法を改善するために必要な資料が得られることはもとより、単元等の指導計画等を改善する資料をも得られるからである。

その評価者としては、授業者や児童生徒、そして、授業参観者があげられる。授業評価者に応じた評価シート等を活用することによって、授業改善や単元全体の指導計画等の改善につながる資料を得ることができる。特に、児童生徒による授業理解度に関する調査結果は、「わかる授業」の実現のための指導法の改善につながる貴重な資料となる。

#### (4) 学校評価の中核をなす単元評価を実施する

教育活動の一つのまとまりが単元や題材等である。1時間毎の授業は、単元や題材等の指導計画に基づいて展開されている。この単元や題材等は、編成された教育課程の実施場面であり、教育課程の中核をなすものと言える。

単元や題材等の評価（以下、単元評価と略す）を実施することで、単元や題材等の指導・評価計画の改善が図られることはもとより、教育課程の編成にあたる年間指導計画の改善を図るための貴重な資料を得ることもできる。単元評価を確実に実施していくことにより、教育課程の評価の資料も得られるのである。

これらを踏まえると、単元評価は学校評価の中核をなす評価ととらえることができる。

単元評価では、まず、単元末テストや授業評価で得られた資料等をもとに、本単元等の目標の実現状況をとらえることが必要となる。次に、この結果を踏まえて、単元等に配当した時間、指導内容、指導形態、指導方法等の評価を行い、これらの評価結果をもとに、単元等の指導・評価計画を改善するとともに、年間指導計画等の改善につなげていくことが大切である。そして、教科会や学年会等において単元評価を積み重ねていくことによって、年間指導計画や全体計画の改善が一層図られ、より質の高い教育課程が編成され、実施されるようになる。

また、単元評価を毎年実施し、過去の同単元等の評価結果と比較することによって、単元の指導計画等のよりよい改善策が得られるようになる。

#### (5) 学校評価の主たる領域をなす教育課程評価を実施する

学校経営の中心は教育課程経営である。教育課程経営は、「編成→実施→評価→改善」という流れで、スパイラルに展開される。この「評価」にあたる部分が教育課程評価である。

教育課程評価では、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の目標の実現状況や教育課程の目標の実現状況を把握し、教育課程の編成や年間指導・評価計画の改善を図るための資料を得ることが求められる。これらに関する資料を得るためには、教育課程の編成や実施を支える諸条件をなす学級経営、学年経営、生徒指導、進路指導、教育資源等に関する評価も行う必要がある。

このことから、教育課程評価は学校評価の主たる領域をなすものとしてとらえるべきである。

この教育課程評価は、評価内容が多岐にわたることから、網羅的に評価し、評価の集計に追われ、改善策が見いだされにくくなる場合がある。そこで、評価項目を絞り込み、組織を生かしながら、「継続して取り組むこと」、「修正を加えて続けること」、「取組をやめること」、「新たに取り組むこと」という四つの視点を持って評価していくことが大切となる（本センター研究報告書第45号「特色ある学校づくりと教育課程経営の在り方」参照）。

また、組織を生かしながら教育課程評価を行い、改善策を見いだしていくためには、教育課程評価に係る時間を確保し、教職員間の話し合いを十分に行うことが大切となる。

## (6) 学校評価の総括をなす学校経営の評価を実施する

学校評価の総括として、学校経営の評価がある。この評価では、特に、その年度の学校の重点教育目標の実現状況や重点施策の実施状況の評価し、成果と課題を明確にするとともに、改善策を見いだすことが求められる。

これらのことを可能にするには、授業評価、単元評価、教育課程評価の評価結果や教職員以外の人々からの評価結果を資料として活用することが大切となる。

## (7) 組織的、計画的に学校評価に取り組む

学校評価を学校改善につなげていくためには、教職員の協働態勢のもと、いかに組織的、計画的に学校評価を行うかが重要な鍵となる。

### ① 組織的に学校評価を行うために

組織的に学校評価を行うためには、まず、校長と各組織のリーダーのリーダーシップが求められる。校長の適切な方針等を常に示していくことにより、組織の進むべき方向性が見いだせ、教職員の共通理解も図られる。また、学校経営、学校評価に関する各組織のリーダーを育て、リーダーを活躍させることで、校長から教職員への指示や教職員から校長への要望等がスムーズに流れていくことが期待できる。

次に、現在ある組織の有効活用があげられる。各学校では、編成された教育課程が教科会や学年会等を単位として実施されている。よって、まず、教科会や学年会等の組織を有効活用し、組織のリーダーを中心に各組織のメンバー全員で学校評価を行っていくことが大切である。また、新たな組織づくりも考えなければならない。学校評価に関する評価結果、特に教育課程に関する評価結果を管理したり、教育課程の編成や実施に貢献したり、学校評価を推進したりしていくための組織が必要になることが考えられる。しかし、組織が多くなると何かと支障をきたし、会議等も多くなるなどの弊害も出てくる。よって、組織を立ち上げる際には、学校の実態を十分見極め、校内組織全体を見直し、改編していくことが併せて求められる。

### ② 計画的に学校評価を行うために

学校評価を学校改善につなげていくためには、学校改善までの過程を明確にし、計画的に学校評価を行っていくことが求められる。そのためには、何のために、だれが、どの組織が、いつ、どのようなことを、どのように行うのかを明確にしておかなければならない。このようなことを明確に示したものが、学校評価の年間計画である。

この計画的な取組は、評価者からの理解・協力を得る上でも大切となる。

組織的、計画的に学校評価が行えるかどうかは、最終的には、教職員の風土、文化に左右される。そこで、日頃から教職員間で、何でも話し合える雰囲気、協力し合っている意識を高めていくとともに、学校評価や学校改善の必要性を確認し合っていくことが大切になってくる。

#### (8) 教職員以外による学校評価も重視する

教職員による評価を充実させるためにも、教職員以外からの評価が必要となる。教職員以外とは、児童生徒、卒業生、児童生徒及び卒業生の保護者、学校評議員、地域住民、学校評価委員等が考えられる。教職員以外からの学校評価によって、教職員の評価では見えにくい部分についての評価情報を得ることができる。また、教職員の評価項目と同様の評価項目を設定することによって、それぞれの評価結果を比較し、特に結果の異なった点などの理由を探ることにより、改善への手がかりを見つけることもできるようになる。

この教職員以外による学校評価で留意すべきこととしては、まず、評価者ごとの評価の目的を明確にすることがあげられる。このことによって、評価内容、評価方法も決まってくる。次に、評価するのに必要な資料を評価者に提供することがあげられる。評価者も評価するのに必要な資料なくしては、適切な評価を行うことはできない。

#### (9) 自校に適した学校評価システムをつくる

学校評価システムとは、学校改善につながる学校評価に取り組んでいくための組織、系統、仕組みなどを意味する。

各学校は、実態が異なるため、これまでの学校評価への取組状況は異なっており、具体的な学校評価の実施方法が異なるのも当然である。従って、各学校ごとに自校に適した学校評価システムを模索し、つくっていかなければならない。

学校評価を先進的に取り組んでいる学校の評価システムや教育委員会等が一例として示している評価システムを参考にすることもあるが、それらの評価システムをそのまま自校のシステムとして取り入れても、学校評価が機能するとは限らない。そのため、これまでの自校の学校評価の在り方を踏まえ、現状において最良と思われる自校の評価システムをつくっていくことが望まれる。

さらに、各学校においては、学校評価の評価項目等を含め、学校評価のシステムづくりについて全教職員で話し合う過程が大切になる。話し合う過程を経る中で、学校評価に対する教職員間の共通理解も図られ、学校評価への意欲も高まり、協働態勢を築くことができるようになるのである。

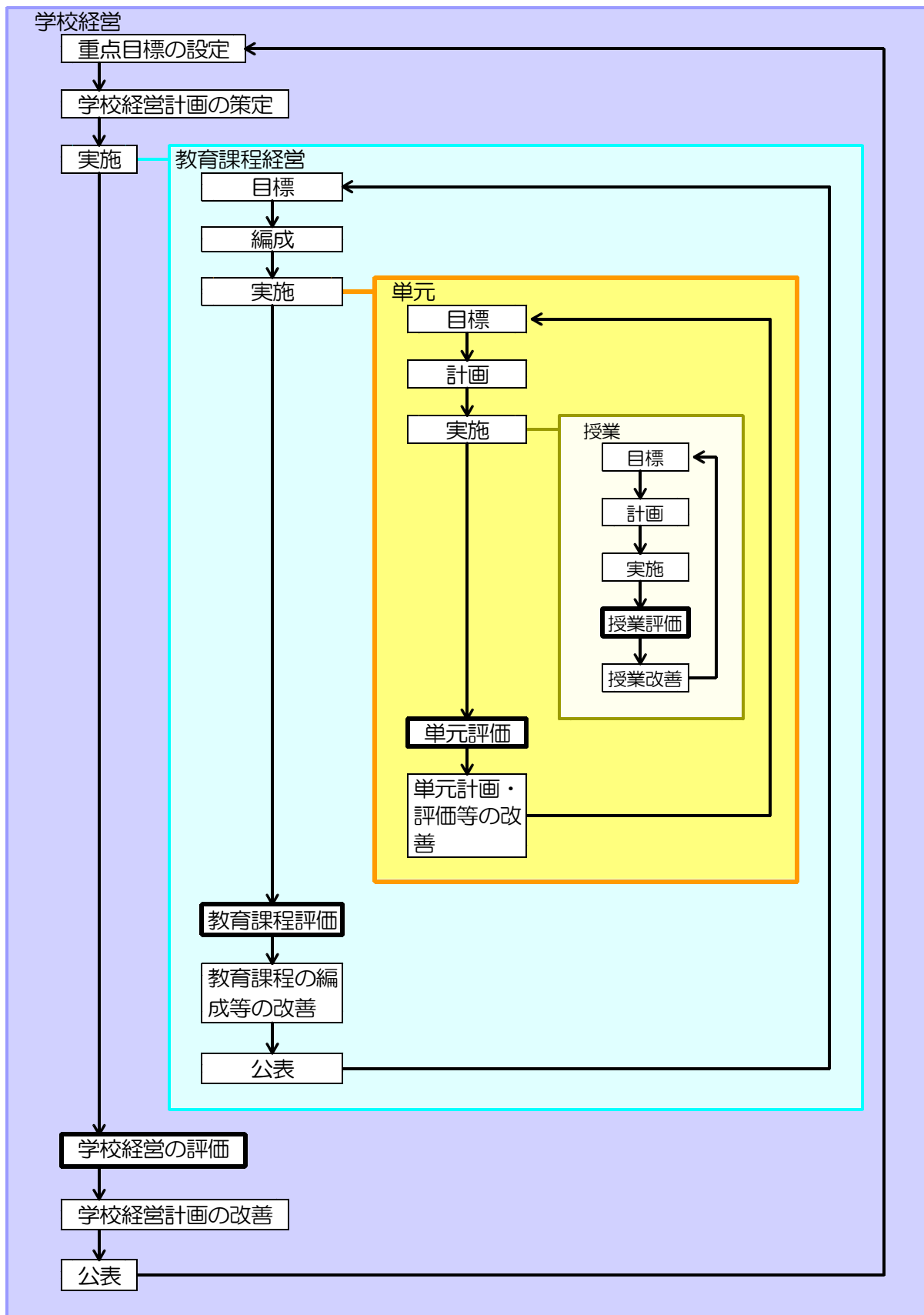
#### (10) 学校評価そのものを評価・改善する

学校改善を行っていくためには、改善策を見いだす手段である学校評価も見直しを行っていかなければならない。つまり、改善策を見いだせない学校評価であっては意味をなさないので、学校評価そのものも評価・改善の対象となるのである。

実際には、授業評価、単元評価、教育課程評価、学校経営の評価に取り組みながら、それぞれの評価時期、評価者、評価内容、評価方法等を評価し、改善していくことが必要になってくる。

このような考えに立つことにより、学校評価の方法等を確立してから学校評価を始めるのではなく、まず、できるところから、できる方法で学校評価を始め、そして、学校評価を行いながら、少しずつ学校評価を改善していくことができるようになるのである。

6 授業評価を起点とした学校評価のイメージ図



7 授業評価を起点とした学校評価の目的・方法等一覧

学	学校経営の評価	<p>目的 学校経営の重点目標の実現状況の把握、学校経営計画の改善</p> <p>評価者 教職員、児童生徒、保護者、地域住民、卒業生、卒業生保護者、学校評議員、学校評価委員</p> <p>方法 <input type="checkbox"/> 教職員による評価では、教職員以外による評価の結果、教育課程評価の結果、前年度の学校経営の評価結果を資料として活用する。 <input type="checkbox"/> 教職員以外による評価では、評価者に評価に必要な資料を提供し、それをもとに、学校経営の重点目標や重点施策について、評価可能な項目について評価してもらう。その際、評価者に応じた評価シートを活用する。</p>	<p>時期 学期末、12月～2月</p> <p>内容 学校経営の重点目標、具体的施策等</p>
	↑		
	校	教育課程評価	<p>目的 教育課程の目標や各教科等の目標の実現状況の把握、教育課程の改善、学校経営の評価の資料</p> <p>評価者 教職員</p> <p>方法 <input type="checkbox"/> 教科会、学年会、各種部会ごとに、単元評価結果、学力テスト（校内テスト、学力調査等）の結果、学期や年間の観点別学習状況の評価結果、意識・実態調査結果等をもとに、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の目標の実現状況や年間指導・評価計画の実施状況等を評価し、改善点を朱書する。 <input type="checkbox"/> 各種部会等から出された評価結果を資料として活用して、全教職員で教育課程経営の条件整備の達成状況等について評価し、改善点を明確にする。 <input type="checkbox"/> これらの評価結果をもとに、教務主任を中心とした教育課程改善チーム等が中心となり、教育課程の編成等に関する改善を行う。</p>
↑			
改	単元評価	<p>目的 単元目標の実現状況の把握、単元指導・評価計画等の改善、教育課程評価の資料</p> <p>評価者 授業者、同じ単元を実施した同僚教師</p> <p>方法 <input type="checkbox"/> 小学校と特殊教育諸学校では、学年会を中心に単元評価を行う。中学校と高等学校では、教科については教科会で、道徳、特別活動等については学年会で単元評価を行う。 <input type="checkbox"/> 単元評価シートを活用する。 <input type="checkbox"/> 授業評価結果を単元評価の資料として活用する。 <input type="checkbox"/> 部会等での話し合いを重視する。 <input type="checkbox"/> 評価結果から改善点を見だし、単元指導・評価計画の改善点については、それを朱書する。</p>	<p>時期 単元終了後</p> <p>内容 単元目標の実現状況、単元の指導・評価計画の展開（実施）状況、単元の指導内容、配当時間、指導形態、指導法、学習環境、評価規準等</p>
↑			
善	授業評価	<p>目的 授業改善（指導力の向上）、単元評価の資料</p> <p>評価者 授業者、児童生徒、参観者</p> <p>方法 <input type="checkbox"/> 評価者に応じた評価シートを活用する。 <input type="checkbox"/> 児童生徒、参観者の授業評価結果と授業者の自己評価結果を資料として活用し、授業改善に生かす。また、単元評価の資料として活用する。</p>	<p>時期 単元途中の1単位時間の終了時、単元の終了時、学期末、学年末</p> <p>内容 授業への興味・関心、授業内容の理解度、指導内容、指導法、授業進度、授業への要望等</p>



## 第3 研究協力校の実践

### 実践事例1 桂村立坏小学校

#### 1 学校の概要

本校は、県都水戸より北西約20キロメートルに位置し、那珂川と山地に挟まれた農村地帯である。保護者の家族構成は、三世代の兼業農家が多く、共働きも多い。学校に対しても学校の教育方針を理解し、協力的である。本校の児童数は117人で、7学級（特殊学級1）編制である。

##### (1) 本校の教育目標

○ 知恵のある子      ○ がまん強く思いやりのある子      ○ じょうぶな子

##### (2) 重点目標（ゴシック体の部分は、本年度の最重点目標）

○学習指導の改善充実を図り、基礎・基本の定着と、自ら学び自ら考える力の育成

○心の教育の充実と、基本的な生活習慣の形成

○たくましく生きるための健康や体力をはぐくむ教育の推進

○社会の変化に対応して主体的に生きる力を育てる教育の推進

○開かれた学校づくりの推進と地域に愛され信頼される学校づくり

##### (3) 目標実現のための具体的施策

・学習指導の改善を図り、基礎・基本の定着と自ら学び自ら考える力の育成を目指す授業評価の実践（国語科・理科・体育科を中心に）

・学校評価の実施とその結果の公表による開かれた学校づくりの推進

#### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

##### (1) 学習指導の改善を目指す授業評価の実施

・教師による学習理解度調査，児童に対する学習点検シート（自己評価表）とフリー参観時における保護者及び外部の方による評価の実施

##### (2) 教育課程の改善を目指す授業評価の実施

##### (3) 授業評価を起点とした学校評価の実施による開かれた学校づくりの推進

#### 3 実践内容

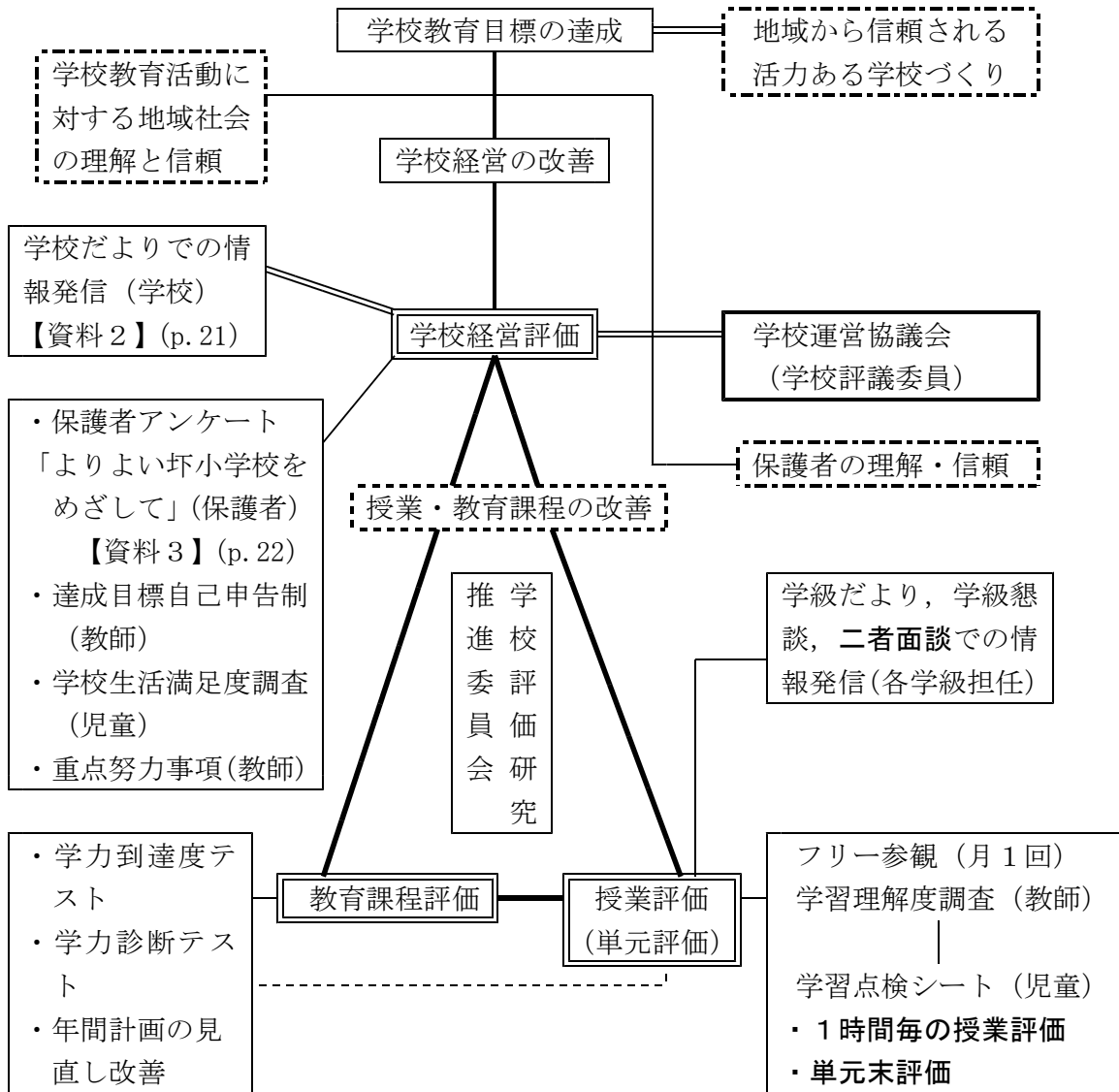
##### (1) 学校評価を実践するための組織と年間計画

授業の改善，教育課程の改善を図るための評価項目，評価方法について協議する学校評価研究推進委員会を設置し，年間計画【資料1】(p.20)を立案して学校評価を実施している。

##### (2) 坏小学校の評価システム

本校の教育目標の達成のために，重点目標の設定とそれに伴う具体策の立案をし職員と学校評議委員・地域への周知を図る。重点目標を達成するために，授業評価（学力の保障）を起点とし，教育課程評価，学校経営評価を互いに関連し合いながら，授業，教育課程の改善と，教師による重点努力事項に対する達成目標を設定し，具現化を目指し，学校目標に近づくよう1年間かけて進める。これらの評価結果を公表するとともに，この取組を，随時，保護者や地域の方に積極的に発信し，要望や意見を聴取しながら，より信頼される開かれた学校づくりに努める。

《 坏小評価システム図 》(ゴシック体は、本年度の重点施策)



(3) 評価の実践

① 授業評価(国語科・理科・体育科を中心に)

ア 児童による1単元を通して毎時間行う学習点検シートを活用した評価(国語科・理科・体育科を中心に)では、各教科の学習内容に対応する8つの基本項目と2つの本時の目標(ねらい)の10項目の観点を評価項目として設定した。評価は児童が自己評価しやすいように、○×式を採った。また、自由記述欄を

学習点検シート(一部)		児童用	
【なまえ】		平成16年度 月 日 ( )	
教科名【国語】単元 ( )			
学んだこと・分かったこと・できたこと	はい	いいえ	
	○	×	
●これから、何を学習するのか分かって授業にのぞめましたか。			
●分からなかったことがあったとき、先生に聞いたり先生がつくってくれた問題がヒントになってできるよう			
●この1時間で学習したことが、よく分かりましたか			
●進んで自分の考えを発表しましたか。			
●			
●			
感想や先生へのお願い	合計	合計	

設け、本時の学習の感想や教師に対する要望等を記述できるようにした。

学習点検シートには、学習の目標（ねらい）を示し、児童自身の課題解決へ資する配慮をした。

イ 児童による単元末の学習点検シートの活用を通じた評価

1単元1時間ごとの学習点検シートの活用による評価と同様に国語科・理科・体育科を中心に、教科別に8つの基本項目と2つの単元の目標（ねらい）の10項目の観点の評価項目として設定し、第4学年以上の児童で実施した。

ウ 授業担当（教師）の自己評価（学習理解度調査）

教科別に授業に対しての取組（導入のし方・展開のし方・まとめのし方・個への関わり方・補助資料活用・観点別評価・単元のねらい等）を中心に評価項目を8つの基本項目と2つの単元目標項目の10項目を設定し、4段階評価で実施した。児童の授業評価や授業参観者の評価をもとにしながら、改善点や次時の計画を授業担当者が書き込みができるように記述欄も設けた。

学習理解度調査（一部）		教師用
「基礎・基本の確実な定着を目指す指導と評価の在り方」 －多様な指導方法の工夫を通して－		
○基礎・基本の定着を目指す多様な指導方法の工夫 ○児童の生活に根ざした課題設定と児童の主体性を生かした学習過程の工夫		
【氏名】平成16年 月 日（ ） 教科 国語		
	点検ポイント	評価（4 3 2 1）
学 習	●本時の指導のねらいを児童に明確に示すことができたか。	
	●児童が興味をもつ課題設定ができ、児童が意欲的に学習に取り組めたか。	
	●学習の形態の工夫があったか。（場所 座席 グループ T.T）	
	●本時の学習内容を、理解させることができたか。	
	●	
	良かった点・改善点・感想等	合計

エ 保護者・地域の方々、学校評議委員による評価（月1回のフリー参観日・年3回の学級懇談会、年3回の学校評議委員会時に実施）

事前に学習・活動内容を記した用紙を全保護者に配布しておく。

学習参観シートは、授業のわかりやすさや児童の意欲等に関する3項目を4段階で評価し、授業に対する感想を記入する自由記述欄、その他の意見や要望を記入する欄を設けて実施した。

学習参観感想シートは回収後、職員間で課題を共有化し、その改善策を立案し実行に努めた。

学習参観感想シート		保護者、一般用			
【氏名】					
平成16年 月 日（ 曜日）					
第 学年					
教科名等【 ． ． ． 】					
授業について	評 価				
	○を記入してください				
	4	3	2	1	
先生は、わかりやすい授業をしている					
児童は、意欲的に学習に取り組んでいる					
学習の「約束」ができている					
ハイ・・・です。ハイ・・・だと思います。・・・さんに質問します。・・・につけくわえます。・・・さんと同じ考えです。					
話を聞く姿勢。文字を書く姿勢。					
児童の全体的な様子についての感想					
その他（ご意見等）					

② 評価結果の公表（ゴシック体は、本年度からの実践）

ア 二者面談・保護者会

保護者と担任による年1回の面談（二者面談）を実施し、授業評価の評価結果の公表を学校だより等を通して行う。また年3回の保護者会においても公表する。

イ 学校だより

教育目標・重点事項等の教育活動内容については、学校だより「あくつ」で地域の方（全戸）・全保護者・全児童・全職員に公表する。

ウ 学校評議委員会

各学期1回の委員会で、教育目標・重点事項等、教育活動内容評価結果（数値・グラフ）を公表する。

③ 各教科での取組

ア 国語（第6学年）

本単元では「自分の考えを文章で表現することができる」という目標を実現するための授業を展開した。児童による学習点検シートの評価結果から、目標を実現するためには「自分の考えをもつこと」「友人の考えを聞くこと」がやや不十分なことが分かった。そこで、単元の学習計画を見直し、同一作者の絵本の教師による読み聞かせ、教材以外の作品の読書、課題ごとに分かれてのグループ学習など単元構成を修正し実践するように工夫した。

このように児童の1単元を通して毎時間行う学習点検シートの活用による評価を実施したことは、児童のつまずきやすい箇所が明確になり、児童の理解の度合いに対する対応がすぐに図れ、学習の流れ・個々の見取り・単元計画の見直しにつながった。

学習点検シート		児童用					
【なまえ】 平成16年度10月13日(水)～							
教科名【国語】単元【海の命】実施児童21名							
学んだこと・分かったこと・できたこと	時間	はい○			いいえ×		
		5時	6時	7時	5時	6時	7時
●これから、何を学習するのか分かって授業にのぞめましたか。	21	21	21	0	0	0	
●分からなかったことがあったとき、先生に聞いたり先生のつくってくれた問題がヒントになってできるようになりましたか。	21	21	21	0	0	0	
●学習の中で、新しく自分でわかったことがありましたか。	21	21	21	0	0	0	
●授業中は落ち着いて学習を進めることができましたか。	21	21	21	0	0	0	
●グループ学習などのときは、みんなと協力してできましたか。	21	21	21	0	0	0	
●この1時間で学習したことが、よく分かりましたか。	21	21	21	0	0	0	
●友達のことを聞くことができましたか。	21	21	21	0	0	0	
●進んで自分の考えを発表しましたか。	19	21	21	2	0	0	
●太一の成長をもとに命について考えることはできましたか。	19	19	21	2	0	0	
●自分の考えを作文に書くことができましたか。	19	21	21	2	0	0	
感想や先生へのお願い 自分の意見を文章に表すのは難しい。	合計						

学習理解度調査		教師用		
「基礎・基本の確実な定着を目指す指導と評価の在り方」 ～多様な指導方法の工夫を通して～ ○基礎・基本の定着を目指す多様な指導方法の工夫 ○児童の生活に根ざした課題設定と児童の主体性を生かした学習過程の工夫				
【氏名】 平成16年10月13日(水)～ 教科国語6時間扱い(7時間に変更)				
点検ポイント	時間	評価(4321)		
		5	6	7
●本時の指導のねらいを児童に明確に示すことができたか。	4	4	4	
●児童が興味をもつ課題設定ができ、児童が意欲的に学習に取り組めたか。	4	3	4	
●学習の形態の工夫があったか。(場所 座席 グループ T T)	4	3	4	
●資料提示、ヒントカード等の補助資料の活用があったか。	4	4	4	
●観点別評価(形成的評価)を行い、結果について手だて(指導)をとったか。	4	3	3	
●児童自ら学習をまとめることができ、次時への課題意識をもつことができたか。	4	3	3	
●児童一人一人の学習についてみとり、(評価表、ノート等)、学力を身に付けさせる手だてがうてたか。	4	3	3	
●本時の学習内容を、理解させることができたか。	3	3	4	
●主人公の太一の成長をもとに命について考えることはできたか。	3	3	4	
●自分の考えを作文を書くことができたか。	2	3	3	
良かった点・改善点・感想等 全員内容が感想程度であったので、他の作品を読み聞かせした。	合計			

イ 理科（第4学年）

学習点検シートの評価項目を理科の学習活動に応じて設定したため、児童は、1時間ごとの学習の流れをはっきりとつかむことができ、進んで学習に取り組めた。また、評価項目を毎時間同じとしたことは、児童一人一人が評価の内容を意識して学習活動を進めることにもつながり、自分なりの予想を立てたり、実験の方法をしっかりとつかもうと教師や友だちの話をよく聞いたり、結果や考察を進んでノートやワークシートにまとめたりすることができることにつながった。結果や考察を発表するときも、毎時間全員が発表することができた。

単元終了後には、全12時間扱いで行った本単元を毎時間の評価結果をもとに、児童の

興味や関心、理解度に合わせ、小単元の組み替えを行い、10時間で実施するよう指導計画を改善した。

学習点検シート		児童用								
【なまえ】 平成16年10月20日(水)～										
教科名【理科】単元【ものの温度とかさ】実施児童19名										
分かったこと・分らなかったこと	はい ○			いいえ ×						
	1時	2時	3時	1時	2時	3時	時間			
●これから、何を学習するかわかりましたか。	19	19	19	0	0	0				
●課題について予想をたてることができましたか。	19	19	19	0	0	0				
●課題を解決するための方法がわかりましたか。	18	18	19	0	0	0				
●実験の結果をノートやワークシートなどに、記入することができましたか。	19	19	18	0	0	0				
●自分の考えや気づいたことなどをノートやワークシートにまとめることができましたか。	19	19	19	0	0	0				
●友達の考えや意見をよく聞くことができましたか。	19	19	19	0	0	0				
●自分から進んで調べたり考えたりすることができましたか。	19	19	19	0	0	0				
●学習した内容が、よくわかりましたか。	19	19	19	0	0	0				
●実験の準備や片づけを進んで行うことができましたか。	19	18	16	0	1	0				
●実験のための器具を正しく安全に使うことができましたか。	18	18	19	1	1	0				
感想や先生へのお願い 実験を進めることが楽しい。分かりやすい。	合計			合計						

学習理解度調査		教師用		
「基礎・基本の確実な定着を目指す指導と評価の在り方」				
- 多様な指導方法の工夫を通して -				
○基礎・基本の定着を目指す多様な指導方法の工夫				
○児童の生活に根ざした課題設定と児童の主体性を生かした学習過程の工夫				
【氏名】 平成16年10月20日(水)～教科理科10時間扱い				
点検ポイント	時間	評価(4 3 2 1)		
		1	2	3
●ねらいを児童に明確に示すことができたか。		4	4	4
●児童が学習予想のたてやすい課題を設定することができ、児童のたてた予想を黒板等に整理することができたか。		3	3	4
●課題を解決するための検証方法を一人一人の児童が考えられるよう配慮できたか。		3	4	4
●実験の結果をノートやワークシートに整理できるよう、書き方や内容等についての確に指示することができたか。		4	4	4
●結果や考察から観点別評価を行い、学習内容定着のための補充を行うことができたか。		4	4	4
●結果や考察等について、比較検討がしやすいように板書することができたか。		4	4	4
●児童一人一人の学習について見取り、進んで学習していくための手だてをとれたか。		4	4	4
●本時の学習内容を、理解させることができたか。		4	4	4
●				
●				
よかった点・改善点・感想等 1時間の実験の流れがはっきりしているため、児童は進んで行っている。		合計		

## ウ 体育 (第5学年)

マット運動の授業を実施するために、事前に児童の実態調査を実施し、習熟の程度等を把握し、単元構成にあたった。

第2時終了時の児童の学習点検シートの中に、二点倒立の導入として用いられる「かえるの足うちが難しい」との感想が多く見られた。そこで、第3時の学習のねらいの中の「今できる技をより美しく楽しく運動できたか」、第4時では、学習のねらいの中に「さらに挑戦したい技を取り入れ楽しく運動できたか」を評価項目に取り入れた。

児童が新しい技を習得しやすく、意欲的に取り組めることができるように、学習計画の中にティーム・ティーチングを2時間設定し、習熟の程度に応じた学習を実施した結果、一人一人の児童に応じた支援を行うことができた。第5時の学習点検シートでは、「できなかった技に挑戦できた」「新しい技の感覚が分かった」

### 体育科 学習点検シート児童の声より(まとめ)

- 1時 オリエンテーション
- ・ マット運動には、いろいろな技があることが分かった。
  - ・ いろいろな技あるけどできるかなと思った。
  - ・ いろいろな技ができるようになりたい。
- 2時 めあてに向けて挑戦する(技の連続性、組み合わせ、新しい技への挑戦)
- ・ 後転ができるようになった。
  - ・ 次はしんしつ後転に進みたい。
  - ・ 開脚前転をはじめてした。
- 3時
- ・ 倒立前転がうまいくかない。
  - ・ 飛び込み前転が楽しかった。
- 4時
- ・ 今日は先生が二人で体育を行った。
  - ・ 倒立の練習を1時間行って少しできるようになった。
  - ・ もっと練習時間が欲しい。
- 5時
- ・ 壁倒立をしたがうまいくかない。
  - ・ 倒立ができるようになった。
- 6時
- ・ 倒立に挑戦して楽しかった。
  - ・ 倒立の感覚が分かった。
  - ・ 壁倒立ができた。
- 7時 学習のまとめ
- ・ 発表がうまくて良かった。
  - ・ 失敗しないで良かった。
  - ・ やってみて良かった。
  - ・ 思ったよりうまくできた。
- 担当教師の声(毎時間学習評価を通して、次単元への取組について)
- ◎次年度のマット運動においては、今年度と同様に進めたいが、技能のポイントに関わる部分においては、時間を十分確保する必要があるかと思う。またTTの授業も必要である。
  - ◎評価カードを用いることで小さなつまづきを見出すことができ、多様な場を工夫することができた。
  - ◎次年度は、児童の実態をよく把握し学習計画を作成し体育の授業に臨みたい。

等の技術習得に対する感想が見られた。更に単元終了後、「学習理解度集計表」【資料4】(p.23)に単元の自己評価結果の分析と次単元への取組を明記し、年間計画の見直しの一助とした。

学習点検シート		児童用									
【なまえ】		平成16年10月6日(水)～									
教科名【体育】マット運動実施児童19名											
できたこと・できなかったこと	時間	はい			いいえ			×			
		3時	4時	5時	3時	4時	5時	3時	4時	5時	
●授業は、楽しかったですか。		19	19	19	0	0	0				
●なにを学習するのかわかりましたか。		19	19	19	0	0	0				
●整列や準備運動をすずんで行うことができましたか。		18	18	19	1	1	0				
●ともだちと協力して運動する時間がありましたか。		18	18	18	1	1	1				
●ともだちのがんばりを応援することができましたか。		18	18	19	1	1	0				
●ルールをまもって楽しく集中して運動することができましたか。		19	18	19	0	1	0				
●準備、後かたづけを自分からすずんで行うことができましたか。		19	19	19	0	0	0				
●この学習で、自分のめあてを達成することができましたか。		15	18	18	4	1	1				
●今できる技より美しく行う工夫をして楽しく運動することができましたか。		8	16	18	11	3	1				
●新しい技に工夫した場で挑戦することができましたか。		16	18	19	3	1	0				
思いや願い 倒立ができない、飛び込み前転は楽しい。		合計			合計						

学習理解度調査		教師用				
「しようぶな子」づくり						
○健康でたくましい子の育成						
○基礎的な運動・技能の習得						
○進んで運動をする子の育成						
【氏名】		平成16年10月6日(水)～ 教科 体育7時間扱い(8時間に変更)				
点検ポイント	時間	評価(4321)				
		3	4	5		
●児童が意欲的に学習に取り組めたか。		4	4	4		
●本時の指導のねらいを児童に明確に示すことができたか。		4	4	4		
●安全性の確保と主運動に対する準備運動を行ったか。		4	4	4		
●運動時間を確保することができたか。		4	4	4		
●児童間でよさを認め、励ます場が設定されていたか。		4	4	4		
●運動の特性を把握し、活動しやすい場の形態の工夫と指導の手だてをとったか。		4	4	3		
●児童が安全や健康に留意し、運動に取り組む指導を行ったか。		4	4	4		
●本時の学習内容を、達成させることができたか。		4	4	3		
●今できる技より、より向上させることができたか。		3	4	3		
●新しい技に場を工夫したりして取り組ませることができたか。		3	4	4		
良かった点・改善点・感想等 児童に逆さ感覚が授けられたことが分かった。意欲的に練習時間を確保したいと思う。(1時間の追加とTT授業を導入)		合計				

#### ④ 開かれた学校づくりの推進

地域に愛され信頼される学校づくりを目指し、重点努力事項「2004 坏小5」の地域への宣言、学校評議員制度の導入をはじめ様々な外部評価の手法を取り入れてきた。そして、それらの評価結果については、校内で分析・検討するばかりでなく、学区内の全戸へ配布している「学校だより」を通して、保護者及び地域の方々にも公表してきた。

その結果、保護者や地域社会が、学校の課題及び重点努力事項に対する理解を深め、学校教育活動に対する信頼と参加意識を高めている。

#### 4 本校からの提言

- (1) 学校の最も重要な役割が「学力の保障」であることを考えたとき、授業評価を起点とした学校評価は、学力向上に直結する手段として欠くことのできないものである。そして、それらに積極的に取り組むことにより、保護者や地域の信頼を高め、地域に開かれた活力ある学校づくりが可能となる。
- (2) 「学習理解度調査」「学習点検シート」等の点検カードを用いて、教師と児童がそれぞれ自らの活動を振り返ること、及び、フリー参観日を設置し、保護者や地域の方々、学校評議員等の評価を得ることは、学習指導法や教育課程の改善、児童の学習意欲の向上を図ることにつながる。

また、その実施にあたっては、目的や実態に即した評価項目の設定、評価意図の明確化、点検カードの工夫・改善が必要不可欠である。

【資料1】

評価に関する年間計画

	授 業	教 育 課 程	学 校 経 営
4月	・授業評価方法の検討 確認（単元末評価）	・学力診断テストの実 施	・学校経営目標の提示 ・学校目標の周知（学校 だより，PTA総会・ 役員会等で公表）
5月	・学習点検シートによる 評価		・各学年毎学期の学級経 営達成目標の設定・申 告
6月	単元終了毎の教師児童 による評価（国語，理 科，体育－4・5・6 年）	・年間指導計画への改 善点記入（随時）	・各学期終了時に達成度 評価の実施
7月			・各学期毎に反省・検討 ・次学期の学級経営達成 目標の設定
8月	（国語－1・2・3年 教師のみの評価）	・学力診断テストの分 析・検討 （学力診断テストを もとにした年間指導 計画の見直し）	・学校運営協議会（学校 評議委員会）の開催 －7・11・2月－ 授業参観（意見聴取）
9月	・保護者評価 月1回フ リー参観日の実施		・各学期末の職員，児童 による内部評価の実施 （「学校満足度調査」 「2004坏小5」） 公表
10月	学習点検シートによ る1単位時間終了毎 の評価（教師・児童， 国語，理科，体育）		・保護者アンケート実施 （2月）公表
11月			・次年度の計画・立案
12月	学習参観シートによる 意見の聴取（フリー参 観時）		
1月		・学力到達度テスト （CDTテスト）の実 施と分析・検討	
2月		・学力到達度テストを もとにして次年度の 計画・立案	
3月	・次年度の計画・立案		

【資料2】

学校だより「あくつ」

<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>— 学 校 だ よ り —</p> <h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">あくつ</h1> </div> <div style="text-align: right;"> <p>平成16年度 第5号  <b>「運動大好き！元気坏ッ子」</b>                      平成16年9月6日                      桂村立坏小学校                      電話 289-2753</p> </div> </div>
--

**【1学期の学校評価から】**

本年度は、5項目の努力事項「2004坏小5」を設定して取り組んでいます。1学期終了にともない、職員と児童による内部評価を実施しました。評価結果を2学期以降の教育活動に生かしていきたいと思ひます。

**「2004坏小5」1学期の評価** ※ 評価は5段階評価で評定

「2004坏小5」	評価	備 考
1 勉強大好き！ 「学ぶ意欲が高い児童の育成」	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも、個別や少人数学習、体験学習など多様な学習形態を取り入れた。</li> <li>・児童の学習への姿勢が良好である。</li> <li>・研究協力校とし授業評価に取り組んだ。</li> </ul>
2 笑顔で挨拶！ 「あいさつができる 心豊かな児童の育成」	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノートの活用が進んでいる。</li> <li>・事例検討会や外部機関との連携により、児童支援に積極的に取り組んだ。</li> <li>・児童のあいさつが良くできている。</li> </ul>
3 運動大好き！ 「健康で たくましい児童の育成」	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロング昼休みの設定、3B体操の導入等、体力向上推進事業実践協力校としての取り組みが進んでいる。</li> <li>・体育授業の改善が進んでいる。</li> </ul>
4 興味津々！ 「郷土を愛し、多様な 文化に親しむ児童の育成」	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン学習が進んでいる。今後、情報モラルについても指導していきたい。</li> <li>・国際理解教育は、ALTを活用したが、本格的な取り組みは2学期以降となる。</li> </ul>
5 地域と共に！ 「地域から信頼され、 地域と共に歩む学校」	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を学期末の実施した。</li> <li>・学校だよりの刊行、フリー参観日の設置等、開かれた学校づくりに努めた。</li> <li>・モラルの向上、個人情報保護に努めた。</li> </ul>

**「1学期をふりかえって」児童の満足度評価** ※ 評点は、本校独自の計算方法で100満点で採点しました。

	評 価 項 目	評 点	備 考
学 習 面	授業は、真剣にとりくんだ	89	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が「よくわかった」、「楽しかった」の項目は、児童の満足度が高い。「発表・発言」の項目に課題を残す。</li> </ul>
	授業中、たくさん発言・発表した	81	
	授業は、よくわかった（理解できた）	93	
	授業は、楽しかった	95	
生 活 面	あいさつは、よくできた	98	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年とも生活面の達成感が高い。特に、「あいさつ」の項目は満足度が高く、2クラスが100点であった。</li> </ul>
	本をたくさん読んだ	92	
	友達となかよくできた	97	
	そうじは、まじめにやった	96	



【資料3】

「保護者アンケート」シート

よりよい坏小学校をめざして

平成 年2月実施

当てはまる記号を○で囲んでください。

A ; 思う      B ; だいたい思う      C ; あまり思わない      D ; 思わない

区分	項 目	評 価
施設 と 環 境	① 学校は、温かい雰囲気で子どもの教育活動にあたっている。	A B C D
	② 学校は、子どもがやる気を起こす学習環境づくりに努めている。	A B C D
	③ 学校は、児童の安全確保に努めている。	A B C D
	④ 学校は、施設や設備が整備されている。	A B C D
	⑤ 学校は、子どもを鍛え伸ばすのに良い環境である。	A B C D
	<意見>	
学 力 と 体 力	① 子どもは、授業が楽しいと言っている。	A B C D
	② 子どもは、計算力や漢字力が向上している。	A B C D
	③ 子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている。	A B C D
	④ 話の聞き方や発表の仕方など学習のルールが守られている。	A B C D
	⑤ 学校は、児童の体力づくりに努めている。	A B C D
	<意見>	
心 の 教 育	① 子どもは、集団生活に必要なきまりや約束を守っている。	A B C D
	② 他人への思いやりの心や、命を大切に作る心が育っている。	A B C D
	③ お互いに協力し、頑張っていることを認め合っている。	A B C D
	④ 子どもは、あいさつがよくできる。	A B C D
	⑤ 学校は、道徳の時間を大切に指導している。	A B C D
	<意見>	
生 活 と 安 全	① 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。	A B C D
	② 子どもは、社会のルールを守る態度が身に付いている。	A B C D
	③ 学校は、子どもの間違った行動をきちんと指導している。	A B C D
	④ 学校は、子どもの基本的な生活習慣の育成に努めている。	A B C D
	⑤ 学校は、安心して活動できる「学校づくり」に努めている。	A B C D
	<意見>	
地 域 と の 連 携	① 学校の教育方針や情報が、分かりやすく伝えられている。	A B C D
	② 学校は、保護者や地域の願いに応えようと努力している。	A B C D
	③ 学校は、地域の自然、文化、人材を教育活動に活用している。	A B C D
	④ 学校は、保護者や地域からの相談や連絡に丁寧に応じている。	A B C D
	⑤ 学校は、保護者や地域と協力して教育活動にあたっている。	A B C D
	<意見>	

ご協力ありがとうございました。

【資料4】

## 学習理解度調査集計表（単元終了時の記録用紙）

【氏名 \_\_\_\_\_】

自己評価結果分析（+面，課題等）【教科 体育】【単元名 \_\_\_\_\_】

<input type="radio"/>	-----
<input type="radio"/>	-----
<input type="radio"/>	-----
<input type="radio"/>	-----
<input type="radio"/>	-----

児童から

○の数	×の数	項目
		授業は，楽しかったですか
		なにを学習するか分かりましたか
		整列や準備運動をすすんで行うことができましたか
		ともだちと協力して運動する時間がありましたか
		ともだちのがんばりを応援することができましたか
		ルールをまもって楽しく集中して運動することができましたか
		準備，後かたづけを自分からすすんで行うことができましたか
		この学習で，自分のめあてを達成することができましたか
合計	合計	

次単元への取組

<input type="radio"/>	-----
<input type="radio"/>	-----
<input type="radio"/>	-----

## 実践事例 2 鹿嶋市立鹿嶋小学校

URL : <http://www.sopia.or.jp/kasyo/>

### 1 学校の概要

本校は、鹿島神宮の門前町として栄えてきた市街地の中心に位置し、児童数534人、学級数19（特殊学級2）の中規模校である。

子供たちは元気で明るい、やや主体性に欠ける。保護者の職業は、会社員が多く、自営業、公務員がそれに続いている。学校に協力的な保護者が多い。近年、学校内に児童クラブ（学童保育、現在市内に3か所）ができたことにより、学区外就学者が増加している。

このような状況から、本校の歴史と伝統のよさを生かし、地域に開かれ創意と活力に満ちた学校づくりを推進するため、次のように学校教育目標を定め、その実現に努めている。

#### (1) 本校の学校教育目標

地域の一員としての自覚を持ち、心と体を鍛え、広く学び、自ら行動する子を育てる。

#### (2) 重点目標

- ① 地域社会の一員としての自覚と国際理解への関心を育む教育の推進
- ② 児童の心身を鍛える教育活動の推進
- ③ 基礎的・基本的な内容の定着と幅広い学力の向上を目指した学習指導方法の工夫・改善の推進
- ④ 教師自ら創意工夫し、指導者としての資質の向上を図る研修の推進

#### (3) 目標実現のための具体的施策

- ① 学力の向上
  - ・ 授業評価を生かした授業の工夫・改善、個に応じた指導
  - ・ パワーアップタイムの時間の設置（算数科）
- ② 学校改善につながる学校評価の改善
  - ・ 学校・学級経営，教育課程，授業評価（児童，他教師）の実施，外部評価の実施とその結果の活用
- ③ 総合的な学習の時間における英語活動の実施
  - ・ 1～2学年月1回，3～6学年週1回実施
  - ・ ボランティアティーチャー・ALT・英語担当教師と担任とのTT
- ④ 教科における学校ボランティアの活用
  - ・ 体育，家庭，音楽，図工のサポート役として
  - ・ 生活科や総合的な学習の時間の校外学習におけるサポート役として
- ⑤ 地域に根ざした教育体制の促進
  - ・ 学校運営連絡協議会の工夫
  - ・ 公民館，福祉施設，養護学校等との連携協力

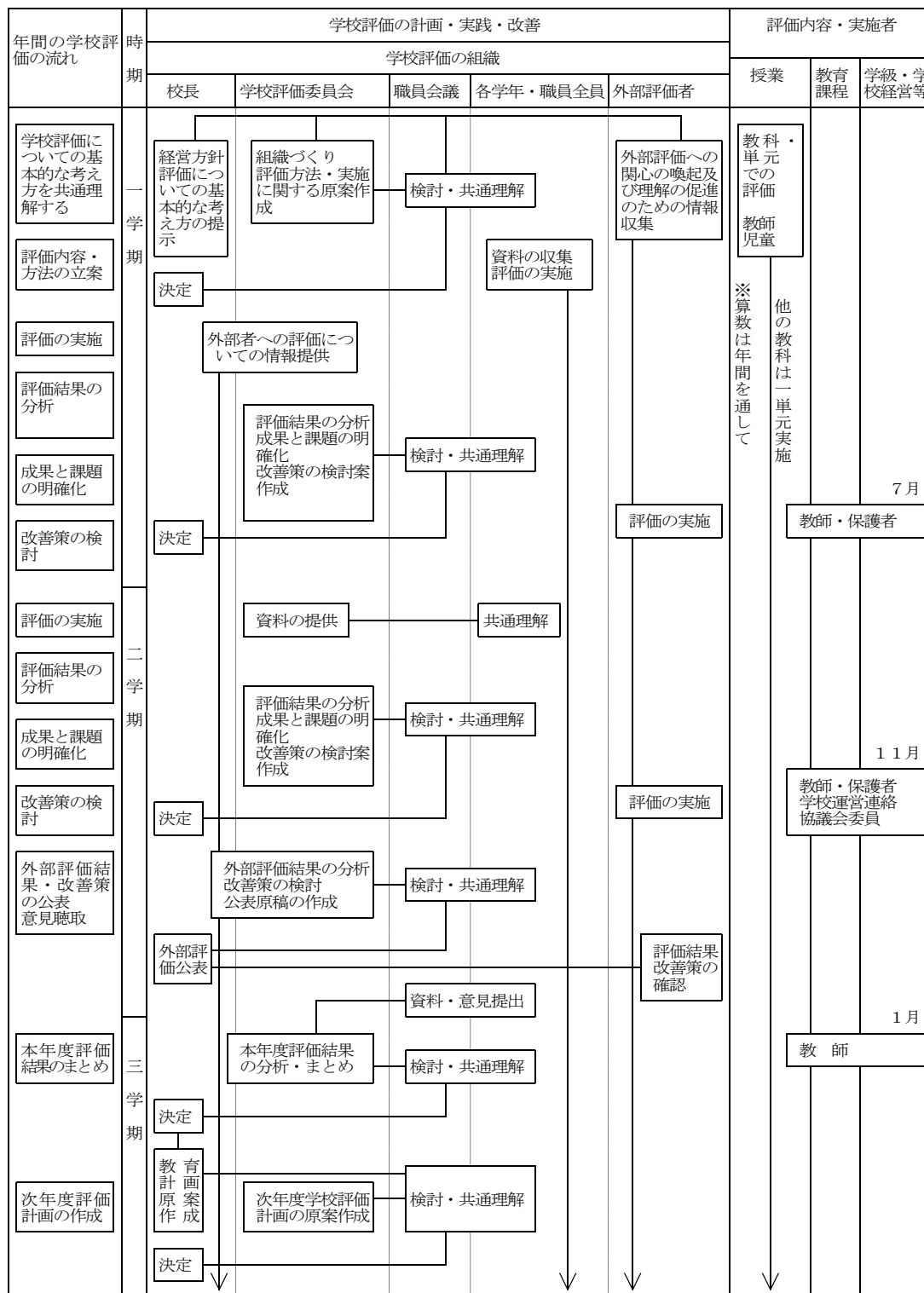
### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

- (1) 指導方法・授業形態等を見直すための授業評価，単元評価の実践
- (2) 学校経営を見直すための内部・外部者による学校評価の実践

### 3 実践内容

#### (1) 年間の評価計画

学校評価の実施について、いつ、誰が、何について評価をし、その結果をどのように生かしていくのかを明確にするために、下図のように全体評価計画を作成した。



## (2) 授業評価の実践

### ① 内部評価について

#### ア 実践例「授業評価〔3年算数科、コース（習熟度）別学習〕」【資料1】（p.30）

評価者は、教師と児童である。

3学年では授業評価をしながら単元を進めていく中で、児童の授業内容の理解度を向上させる方法としてコース（習熟度）別学習（3学級を3コース4教室）を算数科2単元で取り入れて実践した。単元終了後の授業評価結果は、下表の通りである。単元により内容の難易度が異なるため、一概に比較することはできないが、質問項目4「わかりやすい授業にするための資料やプリントがありましたか」という質問に対して「準備されていた」と答えた児童が、78人から90人に増えており、教師の念入りな教材の準備をした跡がうかがえる。また、質問項目9「先生はわかるまで丁寧に教えてくれましたか」という質問に対して2回とも5～7人の児童が否定的な回答をしており、このことから事後指導の必要性を読み取り、学習の補完につながった。このように、授業評価を行い分析することは、教師の授業に臨む姿勢や児童の理解度がわかるだけでなく、教師としての使命感の再確認にもなった。

授業評価（授業理解度調査）について 鹿島小学校 第3学年			授業評価（授業理解度調査）について 鹿島小学校 第3学年		
1 調査結果 (1) 単元名 「かけ算のひっ算」 (2) 調査人数 男53人, 女44人, 計97人 (3) 調査日 平成16年10月29日			1 調査結果 (1) 単元名 「あまりのあるわり算」 (2) 調査人数 男53人, 女44人, 計97人 (3) 調査日 平成16年11月16日		
質問事項	回答	計	質問事項	回答	計
1 「かけ算のひっ算」の学習は簡単でしたか。	簡単 8.4 まあまあ簡単 1.3 少し難しい 0 難しい 0	8.4 1.3 0 0	1 「あまりのあるわり算」の学習は簡単でしたか。	簡単 6.0 まあまあ簡単 3.3 少し難しい 3 難しい 1	6.0 3.3 3 1
2 「かけ算のひっ算」の仕方がわかりましたか。	わかった 9.4 だいたいわかった 3 あまりわからなかった 0 わからなかった 0	9.4 3 0 0	2 計算のしかたや答えの確かめ方がわかりましたか。	わかった 7.1 だいたいわかった 2.2 あまりわからなかった 4 わからなかった 0	7.1 2.2 4 0
3 かけ算をひっ算で計算することはおもしろかったですか。	たのしかった 7.4 まあまあたのしかった 1.8 少しつまらなかった 2 つまらなかった 3	7.4 1.8 2 3	3 計算をしたり、答えの確かめをすることは、おもしろかったですか。	たのしかった 7.9 まあまあたのしかった 1.2 少しつまらなかった 5 つまらなかった 1	7.9 1.2 5 1
4 わかりやすい授業にするための資料やプリントがありましたか。	準備されていた 7.8 まあまあ準備されていた 1.7 あまり準備されていなかった 2 準備されていなかった 0	7.8 1.7 2 0	4 わかりやすい授業にするための資料やプリントがありましたか。	準備されていた 9.0 まあまあ準備されていた 7 あまり準備されていなかった 0 準備されていなかった 0	9.0 7 0 0
5 先生の説明はわかりやすかったですか。	わかった 8.7 だいたいわかった 9 あまりわからなかった 1 わからなかった 0	8.7 9 1 0	5 先生の説明はわかりやすかったですか。	わかった 8.4 だいたいわかった 1.3 あまりわからなかった 0 わからなかった 0	8.4 1.3 0 0
6 「かけ算のひっ算」の学習は、楽しかったですか。	たのしかった 7.4 まあまあたのしかった 1.7 少しつまらなかった 3 つまらなかった 2	7.4 1.7 3 2	6 「あまりのあるわり算」の学習は、楽しかったですか。	たのしかった 8.0 まあまあたのしかった 1.4 少しつまらなかった 3 つまらなかった 0	8.0 1.4 3 0
7 集中して学習することができましたか。	できた 6.9 まあまあできた 2.4 あまりできなかった 1 できなかった 1	6.9 2.4 1 1	7 集中して学習することができましたか。	できた 7.2 まあまあできた 2.2 あまりできなかった 3 できなかった 0	7.2 2.2 3 0
8 進んで発表したり、友達の意見をしっかり聞いたりすることができましたか。	できた 5.5 まあまあできた 3.0 あまりできなかった 9 できなかった 1	5.5 3.0 9 1	8 進んで発表したり、友達の意見をしっかり聞いたりすることができましたか。	できた 5.8 まあまあできた 3.1 あまりできなかった 7 できなかった 1	5.8 3.1 7 1
9 先生はわかるまで丁寧に教えてくれましたか。	はい 8.4 まあまあ 6 あまり 6 いいえ 1	8.4 6 6 1	9 先生はわかるまで丁寧に教えてくれましたか。	はい 8.0 まあまあ 1.2 あまり 3 いいえ 2	8.0 1.2 3 2
10 「コース別学習」をしてよかったですか。	はい 8.8 まあまあ 7 あまり 2 いいえ 0	8.8 7 2 0	10 「コース別学習」をしてよかったですか。	はい 8.1 まあまあ 1.3 あまり 3 いいえ 0	8.1 1.3 3 0

#### イ 成果として

平成15年9月、4学年以上の3学級で算数科の授業評価を実施した。児童の自己評価については、これまでも実施してきたが、児童による授業評価は教師も児童も初めての経験だった。この評価の実施により、わかりやすい授業にするために指導法や教

材教具の準備等に学年毎に取り組むなど、組織的に授業に臨む教師の姿勢が見られた。

平成16年度は、3学年以上において、1学期は算数科1～2単元で、2学期は算数科全単元で、他の教科は1単元で授業評価を実施した。研究授業時には、他の教師による評価も実施した。1学期は、評価をしながら授業を進めていく中で、教材や教具を中心に授業改善が図られていたが、2学期は学習形態や単元構成まで目が向けられるようになってきた。

これまでは、教師は児童の授業内容の理解度（児童の授業中の様子やテスト等）から自己の授業方法を反省し、自分なりの解釈で授業改善をしてきたが、具体的な観点で評価を受けることで、何を改善すればよいか明確になり、授業改善につなげることができた。

ウ 課題として

全教科・全単元で評価を実施すれば最善である。そこで諸条件を踏まえながら、評価に関する年間計画を立てることにより、効率的・効果的な単元評価の在り方を考えていきたい。

② 外部評価について

ア 実践例「保護者、地域の方々による授業評価」

目的は授業や児童の授業中の様子、学習環境等の状況を保護者等に評価してもらい、学校改善に生かすことである。

評価者は、保護者、学校運営連絡協議会委員、地域の方、他学校の教師、学校

<保護者、地域の方による授業評価結果>

項 目	月	評価結果 (%)				
	7	4	3	2	1	0
	11					
1 児童は、楽しそうに授業に取り組んでいましたか。	7	76.2	18.2	4.5	0	1.1
	11	65.3	32.9	0.9	0.9	0
2 児童は、意欲的に授業に取り組んでいましたか。	7	65.9	27.3	6.8	0	0
	11	53.9	42.5	2.7	0.9	0
3 授業は、分かりやすく、ていねいに行われていましたか。	7	55.7	31.8	6.8	4.5	1.1
	11	59.7	34.7	4.6	0.5	0.5
4 授業は、児童が理解しているかどうか一人一人に気を配って進められていましたか。	7	45.5	34.1	13.6	3.4	3.4
	11	48.0	44.3	5.9	0.9	0.9
5 授業を分かりやすくするための教材や教え方の工夫は、よくなされていたと思いますか。	7	50.1	35.2	13.6	0	1.1
	11	51.1	42.5	5.0	0	1.4
6 教師は、児童は一人一人を生かそうとしていましたか。	7	52.3	23.9	15.9	3.4	4.5
	11	45.2	42.9	9.1	1.4	1.4
7 地域の環境や人材が教育活動に生かされていると思いますか。	7	44.3	33.0	12.5	1.1	9.1
	11	31.1	48.8	13.7	0	6.4
8 学校の環境は、学習しやすい環境になっていたと思いますか。	7	40.9	45.5	10.2	2.3	1.1
	11	37.9	50.7	8.2	2.3	0.9
9 学校は、地域に根ざした教育活動をしていると思いますか。	7	35.2	37.5	12.5	3.4	11.4
	11	29.7	43.4	17.4	2.7	6.8
10 授業を見て、教育目標は実現されつつあると思いますか。	7	29.5	44.4	12.5	1.1	12.5
	11	25.6	50.2	14.6	2.3	2.4

※ 4 思う 3 ややそう思う 2 あまり思わない 1 思わない 0 わからない

ボランティア（継続的に願っている方1学期…127人、2学期…219人）である。

評価時期及び回数は、1学期末授業公開時（7月）および2学期地域公開時（11月）

の2回である。

#### イ 成果として

この実践によりまず教師の意識が前向きになり、外部の方々の評価をしっかりと受け止めようという姿勢が出てきた。これまでも授業を疎かにしてきたわけではないが、外部の方々の評価を受けるという意識により、今まで以上に教材研究に熱心に取り組むようになった。

学校は、保護者や地域の方々の意見や要望を知るよい機会となった。保護者も、自分の思っていることを自由に書くことができ、学校に対する思いを伝えるよい機会となっている。

評価項目3「授業のわかりやすさ」や評価項目4「児童一人一人への配慮」、評価項目5「教材や教え方の工夫」の授業に関する項目では、『思う』『ややそう思う』を含めると、前回の評価をかなり上回り、教師の授業改善の努力が評価された。

#### ウ 課題として

評価項目9「学校経営」、評価項目「教育目標の項目」については、『思う』『ややそう思う』を含めると7月の結果より11月はよりよくなっているが、『思う』の評価が3割前後と低い結果であった。学校教育目標や学校の様子等については、PTA総会で説明したり、学校だよりに掲載したりしているが、保護者に十分に伝わっていないのが原因の一つとして考えられる。今後は、保護者にわかりやすく説明する方法や機会、学校の様子を知らせる方法等を学校評価委員会や学校運営連絡協議会で検討する必要があると考える。

自由記述の欄では、同じ授業について、「とても子供たちが楽しそうで、見ているこちらまでがうれしくなりました。先生の工夫が感じられ、素晴らしいと思いました。」という意見に対して、「授業の進め方や内容などわかりにくかった。」のように、見方によって意見が大きく異なり、評価の難しさを感じた。

### (3) 学校経営等評価の実践

#### ① 教育課程評価の実践【資料2】(p.31)

評価者は、教師である。

教師による教育課程評価はこれまでも実施してきたが、形骸化しており学校改善にはあまり生かされていなかった。平成15年度1学期は、これまで通り全領域の網羅的な評価項目であった。全領域で実施すれば、各領域での達成状況が確実につかめる。反面、その結果を踏まえ全領域で改善に取り組むことはなかなか難しく、結果としてあまり学校改善につなげられなかった。そこで、2学期より評価項目を各教科・道徳・特別活動・総合的な学習・生徒指導・保健安全指導の6領域に整理し各領域の評価項目も本校の現状から課題となっている事項を3項目に絞り、重点化して実施した。

#### ア 成果として

評価項目を整理したことで、評価もしやすくなり達成状況も一目でわかるようになった。どの分野が努力が足りないかもわかりやすくなった。

これまで評価結果を教師に返すことはなかったが、結果を返すことにより、自分の状況だけでなく学校全体の状況もつかむことができるようになった。

#### イ 課題として

学期ごとの評価は、重点化されたもので十分であるが、年間の評価についても簡略化されたものでよいかどうか検証する必要がある。

#### ② 学校経営に対する外部評価の実践【資料3, 4】(p. 32, 33)

評価者は、保護者である。

平成16年7月には、保護者に対して学校経営評価【資料3】を実施し、その結果は資料4にある。『学校や子供たちの様子がわかるようになっていきますか。』という質問では、40%の人があまりそう思っていないという結果であった。各学年とも学年だよりを毎月発行したり、おたよりノートを使ったりして学校の様子がわかるように努めているが、保護者としてはまだ不十分ということである。また、『学校は、保護者や地域の人が行きやすい雰囲気になっていきますか。』という質問に対して、30%の保護者があまりそう思っていないという結果であり、学校の対応が十分でなかったことを知ることができた。

また、7月に実施した教職員と保護者の結果を比較してみると、どの項目も同じような評価結果になっているが、総じて教師の方が評価がよくなっており、意識のずれが生じている。特に課題と思われる点は、『学校の教育方針や教育活動がわかりやすく伝えられていると思いますか』という質問に対して教職員の30%があまりそう思っていないと回答している点である。また、この項目と関連する『学校や子供たちの様子が、保護者や地域にわかるようになっていきますか』という質問でも、教職員25%があまりそう思っていないと回答しており、学校の様子の伝え方について教職員の意見交換が不十分だったことがうかがえる。さらに、『一人一人の教職員は、保護者や地域から信頼されていると思いますか』という質問に対して、教職員のほとんどがまあまあそう思っていると回答しているのに対し、保護者はわからないを含めると30%以上があまりそう思っていないという結果となり、意識のずれがかなりあり、どうすれば多くの保護者から信頼が得られるかを十分協議する必要がある。

今回の結果から、どの項目についても達成率が十分とは言えず、これらの課題を一つずつ解決することで学校経営の改善につなげることができると考える。

#### 4 本校からの提言

- (1) 単元末の授業評価を行うことによって、教材・教具の改善だけでなく、学習形態や単元構成の改善策まで見い出せるなど、授業評価結果を単元評価の資料として活用できる。
- (2) 教師は児童の授業内容の理解度（児童の授業中の様子やテスト等）から自己の授業方法を反省し、自分なりの解釈で授業改善をしてきた。授業評価結果を生かすことにより、何を改善すればよいかにより明確になり、一人の改善から学年集団で授業改善に取り組むようになる。
- (3) 評価項目を絞って教育課程評価を行うことによって、評価もしやすくなり、達成状況も一目でわかり、努力を要するところが明確になる。
- (4) 外部評価結果に基づき学校改善を図ってきたが、回を重ねるたびに評価が下がったり、提出者も減少したりした。このことを真摯に受け止め、職員会議等で話し合うことで問題点が明確になり、目標実現に向けた教職員の能動的な姿勢につながる。



## 【資料1】

### 授業評価の成果と課題

第3学年 「かけ算のひっ算」「あまりのあるわり算」

#### 1 質問事項（「かけ算のひっ算」の授業評価から）

\* 回答は簡単、まあまあ簡単、少し難しい、難しいの4段階とした。

NO	質問事項
1	「かけ算のひっ算」の学習は簡単でしたか。
2	「かけ算のひっ算」の仕方がわかりましたか。
3	かけ算をひっ算で計算することはおもしろかったですか。
4	わかりやすい授業にするための資料やプリントがありましたか。
5	先生の説明はわかりやすかったですか。
6	「かけ算のひっ算」の学習は楽しかったですか。
7	集中して学習することができましたか。
8	進んで発表したり、友達の見聞をしっかりと聞いたりすることができましたか。
9	先生はわかるまで丁寧に教えてくれましたか。
10	「コース別学習」をしてよかったですか。

#### 2 授業評価をしての成果

##### (1) 教師の意識の変容

- ・ 単元の全体構成を理解し、見通しを持って単元を進めることができた。
- ・ 児童の実態を把握し、興味・関心を喚起できるよう導入の工夫をしたり、学習課題を改善したりするよう心がけることができた。
- ・ 楽しく・わかりやすい授業にしよう意識して取り組むことができた。

##### (2) 授業改善につながった点

- ・ 児童が学ぶことの楽しさや成就感を味わえるように、授業展開や学習形態を工夫しながら進めることができた。
- ・ 見通しをもてたことにより、作業の場を多く取り入れることができた。
- ・ 基礎・基本や指導の重点を把握して、授業に臨むことができた。
- ・ 授業評価を累積し児童の変容を把握できたことにより、個に応じた丁寧な指導を心掛けることができた。

##### (3) 単元構成の見直し

- ・ 児童の実態や前単元の授業評価をもとに、単元構成の見直しを図った。

#### 3 授業評価をしての課題

- ・ 学習内容により児童の興味・関心が異なるので、単元の最後だけではなく単元の途中にも実施することにより、その後の授業に役立てることができるものとする。

## 【資料2】

平成16年度 教育課程評価（自己評価）  
氏名

※ 下記の項目について、該当する番号に○を付けてください。

4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった

区分	項目	平均	
		H15	H16
各教科	1 基礎的・基本的事項をおさえ、指導の重点を図ったか。	3.1	3.1
	2 個に応じた学習形態や指導の工夫を行ったか。	2.8	2.9
	3 体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れたか。	2.9	2.8
道徳	1 児童の心を揺さぶるような資料の提示や指導の工夫を行ったか。	2.5	2.1
	2 道徳的実践力を高める指導の工夫を行ったか。	2.3	2.5
	3 心のノートの活用を図ったか。	2.5	2.5
特別活動	1 集団の中での自主的・自治的な活動の支援を行ったか。	3.1	3.3
	2 望ましい学級や学校づくりの話合い活動の充実を図ったか。	2.7	2.5
	3 クラブや委員会活動を通して、助け合いや協力し合う態度の育成を図ったか。	2.9	2.5
総合的な学習	1 自ら課題を見つけ、自ら課題を解決する学習活動の支援を行ったか。	2.9	2.6
	2 学び方やものの考え方を身につけるための学習活動の支援を行ったか。	3.0	2.7
	3 英語活動やコンピュータ学習を通して、コミュニケーション能力や情報活用能力の育成を図ったか。	3.1	2.8
生徒指導	1 日常の生活指導を通して、児童を理解し、信頼関係づくりに努めたか。	3.5	3.4
	2 教育相談を通して、内面的な心のケアに努めたか。	3.1	3.3
	3 不登校やいじめ等の未然防止・早期発見と対応に努めたか。	3.2	3.3
保健・安全指導	1 体育・行事・朝の体力づくり等を通して、たくましい体の育成に努めたか。	3.4	3.2
	2 健康の保持増進の意識を高め、自己管理能力の育成を図ったか。	3.2	3.1
	3 安全指導や交通安全指導の徹底に努めたか。	3.4	3.5

【資料3】

保護者 様

平成16年7月12日

鹿嶋市立鹿島小学校長

鹿島小学校に関するアンケート

猛暑の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。皆様には、日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本校では、今年度「地域の一員としての自覚を持ち、心と体を鍛え、広く学び、自ら行動する子を育てる」という教育目標を掲げ、目標実現にむけ、日々教育活動を実践しております。

つきましては、二学期の学校経営に生かすために、子どもの様子や、学校のことにつきまして率直なご意見を聞かせていただければ幸いに存じますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

※ 下記の質問について、該当すると思う番号に○を付けてください。

4…そう思う、3…ややそう思う、2…あまりそう思わない、1…そう思わない、0…わからない

項 目	基 準
1 学校の教育方針や教育活動の様子が地域に伝わっていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
2 学校は、保護者や地域の期待に応えるように努力していると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
3 学校や子どもたちの様子が、保護者・地域に分かるようになってきていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
4 学校は、保護者や地域の人意見や要望を取り入れて、その改善に努力していると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
5 学校は、地域と積極的に連携・協力しようとしていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
6 学校は、保護者や地域の人が行きやすい雰囲気になっていますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
7 地域の環境や人材が教育活動に生かされていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
8 子どもの健全育成について、学校と地域・保護者の連携ができていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
9 学校の環境は、学習しやすい環境になっていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0
10 一人一人の教職員は、保護者や地域から信頼されていると思いますか。 ・改善点として、どのようにすればよいと思いますか。 [ ]	4 3 2 1 0

※ 提言欄（学校や子どもに関することで普段から感じていること、学校に対する要望等、忌憚のない意見をお聞かせ下さい。）

【資料4】

教職員と保護者による評価結果の比較

平成16年7月26日  
鹿嶋市立鹿島小学校  
(%)

項 目		基 準				
		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
1 学校の教育方針や教育活動が分かりやすく伝えられていると思いますか。	保護者	14.2	47.4	24.6	5.0	8.8
	教職員	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0
2 学校は、保護者・地域の期待に応えられるように努力していると思いますか。	保護者	27.7	49.1	13.5	1.2	8.5
	教職員	14.3	76.1	4.8	4.8	0.0
3 学校や子供たちの様子が、保護者・地域に分かるようになっていると思いますか。	保護者	14.2	42.7	31.5	8.1	3.5
	教職員	4.8	71.4	19.0	4.8	0.0
4 学校は、保護者や地域の人の要望を取り入れて、その改善に努力していると思いますか。	保護者	21.5	39.3	17.3	2.7	19.2
	教職員					
5 学校は、地域と積極的に連携・協力しようとしていると思いますか。	保護者	28.5	42.7	14.2	2.7	11.9
	教職員	23.8	61.9	14.3	0.0	0.0
6 学校は、保護者や地域の人が行きやすい雰囲気になっていますか。	保護者	29.2	36.9	20.8	8.5	4.6
	教職員	28.6	57.1	9.5	4.8	0.0
7 地域の環境や人材が教育活動に生かされていると思いますか。	保護者	26.2	45.0	17.3	3.0	8.5
	教職員	38.1	47.6	14.3	0.0	0.0
8 子どもの健全育成について、学校と地域・保護者の連携ができていますか。	保護者	16.2	44.6	23.1	3.4	12.7
	教職員	23.8	66.6	4.8	4.8	0.0
9 学校の環境は、学習しやすい環境になっていると思いますか。	保護者	24.2	49.3	14.6	5.0	6.9
	教職員	14.3	79.9	4.8	0.0	0.0
10 一人一人の教職員は、保護者や地域から信頼されていると思いますか。	保護者	22.3	44.2	14.2	3.9	15.4
	教職員	19.0	76.2	0.0	4.8	0.0

## 実践事例3 水海道市立豊岡小学校

URL <http://www15.ocn.ne.jp/~toyosyo/>

### 1 学校の概要

本校は、県の南西部に位置し、周りは田園風景が広がる農村地域である。最近では専業農家は少なくなり、兼業農家が増えてきている。他地域からの転入も多く、核家族化の傾向が見られる。子どもたちは、全体的に素直で落ち着いており、休み時間などは外で活発に遊ぶ子が多い。児童数は現在380人で、14学級（特殊学級2）の編制である。

#### (1) 本校の教育目標

- すすんで学ぶ子                      ○ 思いやりのある子                      ○ 明るく元気な子

#### (2) 重点目標

- ① 科学的な見方考え方を育てる。
- ② 社会性を育む。
- ③ 体力・運動能力の向上を図る。

#### (3) 具体的施策

- ① 指導方法や形態を工夫し、多様な学習活動を展開する。
- ② 確かな学力の定着と、主体的な学びを引き出す評価活動を取り入れる。
- ③ 異学年交流による体験活動を推進する。
- ④ 学級活動を充実し、学級が心の居場所となり、自己実現が図れるようにする。
- ⑤ 運動量の確保が図れる体育の授業を工夫する。
- ⑥ 運動・スポーツの習慣化を図る。

### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

(1) 指導方法等を見直し、授業改善に生かすための児童の自己評価と授業評価（児童・教師・保護者等）の実践

(2) 学級経営の具体的施策を改善するための教師、児童、保護者の評価の活用

### 3 実践内容

#### (1) 学校評価を実践するための組織

##### ① 学校評価検討委員会

よりよい評価をするために、評価項目を見直したり、評価方法等について話し合う。

##### ② 教育方針検討委員会

年度の終わりに2学期末の学校評価をもとに次の2つの部会に分かれて検討する。

検討会后、両部会で話し合ったことを報告し合う。

##### ア 教育施策検討部会

学校の教育目標に対する本年度の重点課題・施策の妥当性を検討し、来年度の重点課題・施策等を話し合う。

##### イ 教育課程検討部会

日課表、行事予定等の妥当性を検討し、来年度の日課表や行事予定等を話し合う。

(2) 年間の評価計画

下図に示す評価計画に基づき、教職員と外部評価者の授業及び学級経営に関する評価は学期に1回（1，2学期）行い、それらの結果をもとに次学期の目標を設定したり、結果の分析・改善策の検討を行う。教科領域など校務分掌に対する評価は3学期に行い、2学期の授業及び学級経営に関する評価とともに検討して次年度の経営計画を立てる。

月	校長 教頭	教 職 員	外 部 評 価 者		
			児 童	保 護 者	学 校 評 議 員
4 (P)	教育目標 経営方針 を提示	・教育目標・経営方針についての共通理解 ・学級目標設定 ・教科領域経営計画設定	授業評価	・授業参観 ・PTA総会 (本年度の経営方針提示)	・授業参観 ・各種教育活動の参観
5 (D)		・授業評価、単元評価の項目・内容・方法の検討			
6		指導・ 助言 ・授業研究			
7 (C)	評価項目・内容の検討 学級経営に関する評価				
8 (A)		内部評価・外部評価結果の分析改善の検討 ・学力診断テストの分析・検討		・授業・学級・学校経営に関する評価	・授業参観 ・各種教育活動参観
9 (P)	(公表)	2学期学級目標設定	授業評価		
10 (D)	指導・ 助言	・授業評価・単元評価についての見直し ・授業研究	学級経営に関する評価	・授業参観 ・授業・学級・学校経営に関する評価	
11					
12 (CA)		学級経営に関する評価			
1 (P)	(公表)	3学期学級目標設定			
2 (D)	指導・ 助言	・到達度テスト実施と分析 教科領域等校務分掌に対する評価	授業評価		学校評議員会
3 (CA)	(公表)	内部評価・外部評価結果の分析・改善策の検討		・授業参観 ・授業評価	(一年間の実践内部評価等の報告・学校経営への提言)
	次年度の経営方針決定	教育方針検討委員会 ・次年度教育課程編成についての共通理解			

P：計画 D：実践 C：点検・評価 A：改善

(3) 授業評価（理科・生活科を中心に）

① 方法と活用

ア 児童の毎時間の自己評価

理科と生活科を中心に、単元の計画表やノートをとおして、本時の目標（課題）に対する自己評価を毎時間実施している。高学年では、○×式の評価でなく、本時の自分の学習目標とそれに対する反省を子ども自身のことばで書くようにしている。

#### イ 児童の単元ごとの評価（2年生以上の児童実施）【資料1】（p.40）

低中高のブロック別に評価項目をつくり、よいわるいをはっきりさせるためにA B C Dの4段階評価とするが、評価結果はAが5点、Bが4点、Cが2点、Dが1点とし、平均値を計算し数値化する。このようにすると、3を平均として5に近い方が良い結果、1に近い方が悪い結果としてとらえやすくなる。（以下の項目も同じ方法である。）特に要望等があれば記述する。4段階評価においてC、Dと答えた児童が多い場合には、改善策について考える。要望等で改善できることは改善し、教育課程上の問題がある場合には学年で話し合い、単元が終わるごとに年間計画等を修正していく。

#### ウ 参観者（教師）の評価

低中高ブロックでの授業研究（年3回）の際、授業参観をしたときに行う。4段階評価をするとともに改善点を記述する。ブロック会で話し合うこともあるが、そうしないときは授業者がこれを参考にして改善点を考える。

#### エ ゲストティーチャーの評価

評価項目をつくり、4段階評価をする。特にゲストティーチャーの方には専門的な立場から見て今後指導計画や教材教具、資料等参考になるものがあつたら記述してもらおう。評価結果については、全職員が目を通し、年間計画等にも記述して、次の改善につなげることとする。特に、専門的な立場からの意見は大事にし、今後の指導に生かせるようにする。

#### オ 授業者の自己評価（チーム・ティーチングのときには全ての担当者）【資料2】（p.41）

評価項目をつくり、4段階評価をする。本年度から本校の教育目標（学級目標）についての評価項目も入れた。児童の自己評価や授業評価、参観者の評価、ゲストティーチャーの評価等をもとにしながら、改善点を記述する。本校の教育目標のどの目標に関連しているかをはっきりとらえるようにする。授業者が改善点を考え、次単元の計画を立てる。

#### カ 保護者等の評価（授業参観時等実施）

授業や活動を参観しての評価を項目により4段階評価をする。本校の教育目標についても常に意識化、啓発する意味で項目を入れる。気づいたことや要望等は記述してもらおう。アンケート用紙は、全職員が目を通し自分の授業の改善に生かす。

### ② 実践

#### ア 5年生、理科（生命のたんじょう）

5年生の「生命のたんじょう」において児童の評価・教師の評価の結果は次頁に示すようになったが、これらの結果を踏まえ、高学年ブロックで話し合いをした。

- ・発問は、短いことばでわかりやすく、意図をはっきり押さえて発問する。そのため、ポイントとなる発問を精選しておく。
- ・毎時間ノートにふりかえりを書かせたが、自分のめあてをはっきりさせて書くことが不十分であった。自己評価についてさらに改善したい。
- ・年間計画では「人のたんじょう」コースと「メダカのたんじょう」コースの2つのコースで学習する計画であったが、単元スタート前の実態調査で「人のたんじょう」コース選択者はごく少人数であったので、今年度は「メダカのたんじょう」コース

だけで指導計画を立てた。しかし、児童の授業評価の結果は「興味深い内容でしたか」の項目で「いいえ」の方の1, 2の段階を選んだ児童が5人いた。「集中して学習に取り組めたか」の項目の低かったのも同じ児童であると思われる。2つのコースで進めるべきであったと反省をした。

以上のことをもとに、次のような改善策を年間指導計画に記録した。

- ・毎時間の自己評価は、授業のめあてをはっきりさせた上で授業後にわかったことやわからなかったことを文章で書いていくことにした。
- ・授業で選択教材を扱う場合、一方のコースが少人数であっても、その子どもたちの思いを満たせるような指導方法をとることを改善した。

児童の単元ごとの評価		教師の自己評価・参観者の評価	
1 単元名	生命のたんじょう	1 単元名	生命のたんじょう
2 調査年月日	平成16年7月8日	2 調査年月日	平成16年6月28日
3 調査組・人数	5年1組 33人	3 調査組・人数	授業者 1人 参観者 3人
項目	評価平均	項目	評価平均
1 生命のたんじょう(メダカ)の学習の内容はやさしかったですか	3.7	1 授業のねらいは適切であったか。	5.0
2 生命のたんじょう(メダカ)の学習の内容はよくわかりましたか	4.7	2 単元の指導計画は適切であったか。	5.0
3 生命のたんじょう(メダカ)の学習は興味深い内容でしたか	4.2	3 学習の形態(TT, 少人数指導, コース別学習, グループ学習等)の工夫はあったか。	4.7
4 先生はわかりやすい授業をするために、道具や資料を用意したりコース分けをするなど工夫してくれましたか。	4.5	4 教材・教具・資料等で工夫があったか。	5.0
5 先生の教え方で困ったことはありませんでしたか。(声の大きさ、説明の仕方等)	ある 5人	5 発問や説明の仕方は適切であったか。	3.5
6 先生はこの単元を熱心に教えてくれましたか。	4.5	6 板書やノート指導は適切であったか。	4.7
7 学級全体が集中して学習に取り組んでいましたか。	3.7	7 児童への支援は適切であったか。	4.7
8 友達と協力して学習できましたか。	4.4	8 評価は適切であったか。	3.5
		9 本時の学習内容を、児童に理解させることができたか。	4.7
		10 本時の指導で、児童の姿は本校の教育目標に向かいつつあると感じたか。	4.7

#### イ 6年生, 理科(生き物と養分)

この単元では、茨城県自然博物館の学芸員の先生にゲストティーチャーとして授業に入っていた。そのときの評価は次のようであった。

(略)
<p>本時の授業をさらによくするためにどんなことを改善したらよいでしょうか。</p> <p>観察する時間やグループごとの意見交換の時間の確保が重要ではないかと感じました。事前に児童とともに採集に行けたことが本時につながったと思います。GTとの授業を行う場合には今回のように1時間だけでなく多くの時間での対応があればよいと思いました。</p> <p>その他、学校として科学に対する興味・関心をもたせるためにどんなことに取り組んでいけばよいとお感じになりますか。</p> <p>博物館との連携・・・標本や剥製、ビデオなど生物教材に使用できるものが多くありますので活用していただければと思います。今後のご指導にご利用ください。</p>

#### 具体的に改善したこと

- ・その後、3年生で「豆電球に明かりをつけよう」の学習では能力開発センターの方がゲストティーチャーとして授業をしたが、児童の授業にも3時間入ってもらっただけでなく事前の教材研究の時点でも担任とともに教材開発等をしてもらった。十分な打合せをすることができ、教師とゲストティーチャーの役割をはっきりと分担して授業をすることができた。



・全学年の単元を見直し、博物館の資料を使えそうなところは年間指導計画に朱書した。

### ③ 成果

ア 毎時間児童の自己評価を取り入れたことにより、児童自身はその時間の目標を意識して授業に取り組むようになった。また、教師は1時間の授業でどのくらいの児童が理解できたかをすぐ評価でき、その結果を次の授業に生かすことができた。

イ 昨年度より授業評価を取り入れたが、今まで経験しなかった評価を得ることができ、各教師とも自分の授業について振り返り、教材研究にも熱が入るなど意識改革につながった。

ウ 授業評価を教師の自己評価だけでなく、児童や保護者、他教師等の評価をすることにより、意識のずれがわかり、何が問題なのかがはっきりし改善の方策を立てやすくなった。

### (4) 学級経営に関する評価（学期ごとの評価）

昨年度は、児童・保護者・教師それぞれに違った項目で聞いていたが、今年度は三者でできるだけ同じ項目で聞いてみた。そこにずれがあったら、それをどう改善していったらよいか話し合うことで共通理解をした。

#### ① 方法と活用

ア 児童の評価（3年生以上の児童）【資料3】(p.42)

「学校生活について」、「家庭生活について」、「先生について」、「授業について」、「学年の目標について」の項目ごとに4段階評価をする。

イ 保護者の評価【資料4】(p.43)

「学校経営について」、「子どもの学校生活について」、「学級や学習について」、「家での子どもの様子等について」等の項目ごとに4段階評価をする。学校への要望等も記述してもらおう。学校の要望等については、企画会や全職員で改善策を検討し、直した方がよいものや直せるものについては、できるだけ早急に対処する。

ウ 担任の自己評価

「学校経営について」、「子どもたちの学校生活について」、「学級や学習について」の項目ごとに4段階評価をする。学校教育目標との関連を図った学級の目標についても4段階評価をする。本校の3つの教育目標について、めざす児童の姿を、数値化できるものについては数値を使って評価する。評価の結果や評価理由を具体的に記述し、それをもとに次学期の具体的な目標を立てる。

#### ② 実践

ア 4年生の評価結果

学校生活については、次頁に示すように、三者とも「だいたいよい」との結果である。子どもは保護者に学校の様子を伝えているようであるが、教師の反省では「まだ十分には知らせていない」ととらえている。

具体的に改善したこと

・夏休みの二者面談では、1学期の様子をよく知らせられるように資料を整えた。また、保護者が来校した折り（巡回パトロール、奉仕作業、廃品回収等）なるべく保護者と話す機会をつくった。

・家庭学習の項目の評価が低かったので、2学期の達成目標に付け加えた。

4年1組・・・「すすんで学ぶ子」の目標1学期分に追加

・自主的な家庭学習を継続して行うことができるよう個別指導に力を入れる（毎日のノート指導、賞賛の場づくり）。

児 童	評価平均	保 護 者	評価平均	教 師	評価平均
学級は楽しい。	4.6	(略)	4.6	子どもは自分の学級が楽しいと言っている。	4.0
なかよしの友達がいる。	4.9	子どもは仲のよい友達がいる。	4.7	子どもは仲のよい友達がいる。	4.0
		先生は子どもや学級の様子を家庭によく知らせている。	4.1	子どもや学級の様子を家庭によく知らせている。	2.0
		<家では>おさんは自ら進んで学習している。	3.6		
		(略)			

イ 学校への要望・意見

1学期末の要望・意見（主なもの）

保護者の意見等	回 答	対 応
宿題を毎日、プリントかドリルで出してください。	宿題は、学習の定着、補充的な学習として、また家庭学習の習慣化をねらいとし、学級の実態に応じて出していきたいと思います。	学年間で話し合っ、担任がすぐ対応。
昇降口はいつも開いているようですが安全面でだいじょうぶでしょうか。	昼休みや休み時間、授業でも子どもの出入りが多く、開閉が煩雑になります。学校としては、校門は必ず閉める、看護当番など職員が巡視する等で対応したいと思います。	企画会で話し合い、職員会で共通理解。
地区内パトロールの実施日を限定してはどうか。また、責任者を決めてほしい。	曜日を決めて実施するような方向でPTA役員と検討しています。	PTA役員会で話し合っって対応。

③ 成果

ア 担任が学級経営をしていく上で、自己評価だけでなく児童や保護者の評価を見ることにより、経営の方向性や改善点がはっきりした。

イ 学期ごとに評価を実施したことは、担任の負担も少なく、改善策を立てるのに適当な期間であると考えられる。

ウ 児童、保護者、教師で同じ項目で評価したことにより、三者間の意識のずれがわかり、何が問題なのかがはっきりし改善の方策を立てやすくなった。

4 本校からの提言

(1) 授業評価を授業者だけでなく児童、参観者（教師）、ゲストティーチャー、保護者によって計画的に実施することにより、授業を実施していく上での問題点がはっきりし、具体的な改善の方策が立てやすくなる。

(2) 学級経営の評価を児童、保護者、教師が同じような項目についてを行うことによって、三者の意識のずれがわかり、問題点がはっきりし、具体的な改善の方策が立てやすくなる。また、学級経営の評価を学期ごとに続けていくことにより、三者の意識の変化の様子をとらえることができ、学級経営を見直すことができる。

<b>単元を学習してのアンケート</b>
----------------------

( 6 ) 年 月 日  
 教科 ( 理 科 ) 単元名 ( 水よう液の性質 ) 時間数 ( )

この単元を学習して、自分で思うものに○をつけてください。

( A とてもそう思う B そう思う C あまり思わない D ぜんぜん思わない )

1	(水よう液の性質の学習)の内容はやさしかったですか。	A B C D
2	(水よう液の性質の学習)の内容はよくわかりましたか。	A B C D
3	(水よう液の性質の学習)は興味深い内容でしたか。	A B C D
4	(コースに分かれたり二人の先生の授業は、わかりやすかったですか。)	A B C D
5	先生の教え方で困ったことはありませんでしたか。(声の大きさ、説明の仕方など)	ある ない
6	先生はこの単元を熱心に教えてくれましたか。	A B C D
7	学級全体が集中して学習に取り組んでいましたか。	A B C D
8	(話をよく聞いたり、自分の考えや調べたことをすすんで発表することができましたか。)	A B C D

- ※ ( )の中は、単元によって違ってくる。  
 4は、この単元の指導法の工夫についての項目である。  
 8は、この学年の目標が達成できているかみる項目である。

【資料2】

授業者の自己評価

(単元末)

月 日

学年 組

氏名

教科 ( ) 単元 ( )

この単元の授業をして、自己評価をしてください。

(A とてもそう思う B そう思う C あまり思わない D ぜんぜん思わない)

1	単元のねらいをはっきりと持たせることができたか。	A B C D
2	指導計画は適切であったか。	A B C D
3	学習の形態 (TT, 少人数指導, コース別学習, グループ学習等) の工夫があったか。	A B C D
4	教材・教具・資料等で工夫があったか。	A B C D
5	発問や説明の仕方は適切であったか。	A B C D
6	板書やノート指導は適切であったか。	A B C D
7	児童への支援は適切であったか。	A B C D
8	評価は適切であったか。	A B C D
9	本単元の学習内容を, 児童に理解させることができたか。	A B C D
10	本単元の学習を終えて, 児童の姿は本校の教育目標に向かいつつあるか。	A B C D

反省をもとに改善点はどんなことか。

- ・教師の意識
  
- ・授業改善
  
- ・教育課程編成上の改善
  
- ・その他

【資料3】

## 4年生アンケート

1学期ももうすぐ終わりです。1学期の学校や家でのようすを教えてください。

下のしつものあてはまる記号に○をつけてください。

(A. とてもそう思う B. 少しそう思う C. あまり思わない D. まったく思わない)

### 学校生活について

- |                   |   |   |   |   |
|-------------------|---|---|---|---|
| 1 学級は楽しいですか。      | A | B | C | D |
| 2 なかよしのともだちがいますか。 | A | B | C | D |

### 家庭生活にかんすること

- |                        |   |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|---|
| 1 家の人、わたしの話を聞いてくれる。    | A | B | C | D |
| 2 家の人、そうだしやすい。         | A | B | C | D |
| 3 家の人、がんばったことをみとめてくれる。 | A | B | C | D |
| 4 家の人、やさしいがきびしいこともある。  | A | B | C | D |

### 先生について

- |                        |   |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|---|
| 1 先生は、わたしの話を聞いてくれる。    | A | B | C | D |
| 2 先生は、そうだしやすい。         | A | B | C | D |
| 3 先生は、がんばったことをみとめてくれる。 | A | B | C | D |
| 4 先生は、やさしいがきびしいときもある。  | A | B | C | D |

### じゅぎょうについて

- |  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| 1 じゅぎょうは、わかりやすいですか。                                  | A | B | C | D |
| 2 じゅぎょうでは、コンピュータをつかったりグループに分けたりするなどいろいろな方法でやってくれますか。 | A | B | C | D |
| 3 じゅぎょうで、思いやりや命の大切さなどについて考えていますか。                    | A | B | C | D |

4学年の目標について、自分はどうかだったか反省してください。

(A. よくできた B. だいたいできた C. あまりできなかった D. まったくできなかった)

- |                              |   |   |   |   |
|------------------------------|---|---|---|---|
| 1 音読や漢字・計算ドリルなど自分から学習できましたか。 | A | B | C | D |
| 2 自分から考えたり、学習にとりくむことができましたか。 | A | B | C | D |
| 3 だれとでもなかよくできましたか。           | A | B | C | D |
| 4 すすんで本を読むことができましたか。         | A | B | C | D |
| 5 自分から運動に取り組むことができましたか。      | A | B | C | D |
| 6 けんこうや安全に気をつけて生活できましたか。     | A | B | C | D |

※ 学年の目標については、学年ごとに項目が違う。

【資料4】

平成16年7月14日

保護者 各位

水海道市立豊岡小学校長

アンケート及びご意見・ご要望等の募集について

猛暑の候、保護者の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、夏休みを21日(水)に控え、2学期も子供たちがより充実した毎日を送れるよう、学校でも全職員で1学期の行事や学習指導の反省をしているところであります。

つきましては、保護者の皆様からもアンケート及び学校へのご意見・ご要望等をお聞きしたいと思っております。大変お忙しい折とは存じますが、7月16日(金)までに、学級担任宛下記アンケート用紙を提出下さいますようお願い申し上げます。(アンケート用紙は切り離さず、このまま封筒に入れて提出してください)

ア ン ケ ー ト

年 組 保護者名

(匿名でも結構ですが、学年・組はご記入ください。)

I 下記の質問事項について、あてはまる記号(A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない)に○をつけてください。

<学校経営について>

- |                        |   |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|---|
| 1 学校は教育方針をわかりやすく伝えている。 | A | B | C | D |
| 2 学校は保護者・地域の願いに応えている。  | A | B | C | D |
| 3 学校は安全や事故防止に配慮している。   | A | B | C | D |

<学校生活について>

- |                        |   |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|---|
| 1 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。 | A | B | C | D |
| 2 子どもは自分の学級が楽しいといっている。 | A | B | C | D |
| 3 子どもは仲のよい友達がいる。       | A | B | C | D |

<学級や学習について>

- |                             |   |   |   |   |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| 1 先生は子どもにわかりやすく教えている。       | A | B | C | D |
| 2 先生は子どもを理解している。            | A | B | C | D |
| 3 先生は子どもや学級の様子を家庭によく知らせている。 | A | B | C | D |

<家では>

- |                      |   |   |   |   |
|----------------------|---|---|---|---|
| 1 お子さんは、自ら進んで学習している。 | A | B | C | D |
| 2 お子さんは、本をよく読んでいる。   | A | B | C | D |
| 3 お子さんは、よくあいさつする。    | A | B | C | D |

<保護者の方も学校全体の活動について自分を振りかえってみましょう。>

- |                               |   |   |   |   |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| 1 学校の教育方針や活動内容を理解している。        | A | B | C | D |
| 2 授業参観・学級懇談会に参加している。          | A | B | C | D |
| 3 学年・学級便り・連絡文などは読んでいる。        | A | B | C | D |
| 4 PTA活動に積極的に参加している。           | A | B | C | D |
| 5 担任の教育方針を理解している。             | A | B | C | D |
| 6 自分の子どもの学校生活や学習状況について把握している。 | A | B | C | D |
| 7 自分の子どものノートやプリントを見ている。       | A | B | C | D |

よかった行事は何ですか。	ご意見・ご要望等何かありましたら記入願います。
--------------	-------------------------

## 実践事例 4 大洗町立南中学校

URL <http://www.town.oarai.ibaraki.jp/~oarai373/index.htm>

### 1 学校の概要

本校は、生徒数207人、学級数7（特殊学級1）の小規模校である。

県下初の教科教室型システムの学校として新築され、本年度で5年目を迎える。

平成12年度よりティーム・ティーチング（TT）を中心とした多様な指導形態を取り入れながら「発信型の生徒を育てる学習指導の在り方」を研究主題として授業改善を図ってきた。その後は、「習熟度別学習や発展的学習」を課題として設定し、本年度は、「教科教室型空間を生かした魅力ある学習指導の展開ー学ぶ意欲を高める多様な指導方法と評価の工夫を通してー」をテーマとして自主的な研究発表を行い、学び合う集団としての歩みを続けている。

#### (1) 本校の教育目標

- 自ら学ぶ意欲を育て、創造性に富み、社会の変化に対応できる知性豊かな生徒の育成に努める。
- 礼儀正しく、勤労を尊び、協力し合って生活の向上を図ろうとする生徒の育成に努める。
- 丈夫な身体とたくましい心を持ち、目標達成に向かってねばり強く努力する生徒の育成に努める。

#### (2) 本年度の重点目標と具体的な施策

- 「楽しさ」が実感できる学校の実現を目指す
- 一人一人のよさや可能性を見つけ伸ばす

重点目標	具体的な施策
① 基礎・基本の定着と学力の向上	ア 教科教室型の学習環境を生かす イ 指導方法の工夫・改善を図り「わかる授業」の展開に努める ウ 指導と評価の一体化を図り、主体的な学習の展開に努める
② 豊かな心の育成	ア 道徳の時間の充実を図る イ 様々な体験活動を生かし、思いやりの心やボランティアの心を育む ウ 教育相談及びその機能を生かす
③ 自主・自立の心とたくましさをもった生徒の育成	ア 自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を図る イ 主体的に学ぶ生徒の育成を図る ウ 心身の健康の保持増進に努める
④ 開かれた学校づくり	ア 学校・家庭・地域との連携を図る イ 地域の特性や人材を積極的に生かす ウ 教職員の特性や意見を十分生かす
* これらの重点目標の実現状況をとらえ、具体的な施策がどのように生かされているかを診断しながら経営に当たるために、学校評価の充実を図る。	

## 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

- (1) 校内研究と関連づけた学校評価及びその結果の活用
  - －小規模校の特色を生かした校内研修と全教科の授業評価－
- (2) 卒業生及びその保護者による評価の実施とその結果の活用
- (3) 学期末評価の改善とその結果の活用

## 3 実践内容

### (1) 校内研究と関連づけた学校評価及びその結果の活用

本校は、上記1で述べたように新しい形の教育システムのもと、毎年課題を決めて校内研究を実施してきた。しかしながら、併行して行ってきた学校評価を学校改善に効果的に生かすまでには至っていないのが現状である。

そこで本年度は、自主公開として研究発表会（研究主題「学ぶ意欲を高める多様な指導方法と評価の工夫」）を計画していたこともあり、学校評価の中でも特に授業評価に焦点を当てた実践を試みた。

また、授業評価の方法としては、アンケートや評価表によるばかりではなく、教師相互の授業参観を実施した。放課後の研修会には全教師が参加し、意見交換を行ったり、講師からの指導を受けたりするなど、生徒の具体的な姿で評価し合う場とした。その結果、一教科を一人で担当する場合もある本校のような小規模校では、他教科での取り組みの様子を知ることは大変刺激になり、また、多様な指導方法への発想を広げるよい機会となった。

#### ① 年間の評価計画

月	内 容	実施対象	評価の場
4	・学校経営目標及び教育課程計画の確認	全職員	校内研修
	・ <b>学校評価検討委員会の立ち上げ</b>		<b>運営委員会</b>
	・保護者からの本年度教育課程への要望	P T A実行委員	P T A実行委員会
	・ <b>卒業生アンケートについての研修</b>	<b>全教師</b>	<b>校内研修</b>
5	・1年宿泊学習反省	1学年	学年会・校務会
	・修学旅行反省	3学年	学年会・校務会
	・保護者からの1学期教育課程への要望	P T A実行委員	P T A実行委員会
6	・ <b>評価・評定についての研修</b>	<b>全教科</b>	<b>校内研修</b>
	・ <b>単元末授業評価</b>	<b>全教科</b>	<b>教科部員会</b>
7	・ <b>1学期末反省（学校評価）</b>	<b>全教師</b>	<b>期末反省会</b>
	・保護者からの1学期の教育課程への要望等	P T A実行委員	P T A実行委員会
	・学校評議員会	学校評議委員	学地連実践委員会
8	・ <b>1学期末反省（改善の方向性）の検討</b>		<b>検討委員会</b>
9	・ <b>1学期末反省に対する方向性の提示</b>	<b>全教師</b>	<b>校務会</b>
	・運動会反省	全教師	校務会
10	・ <b>校内授業研究</b>	<b>全教科</b>	<b>校内研修</b>
	・学校生活に関するアンケート	全生徒	生徒指導部員会
11	・校内音楽会反省	全教師	校務会
	・ <b>研究発表会の実施に伴う反省</b>	<b>全教師</b>	<b>校内研修</b>
	・ <b>単元末授業評価</b>	<b>全教科</b>	<b>教科部員会</b>



12	・ 2学期末反省（学校評価）	全教師	期末反省会
	・ 保護者からの2学期の教育課程への要望等	P T A実行委員	P T A実行委員会
1	・ 2学期末反省（改善の方向性）の検討		検討委員会
	・ 2学期末反省に対する方向性の提示	全教師	校務会
	・ 職場体験学習反省	1 学年	学年会・校務会
	・ 次年度の行事計画の検討	全教師	校内研修
2	・ スキー宿泊学習反省	2 学年	学年会・校務会
	・ 次年度の校舎での生活・きまり等の検討	全生徒	中央委員会
	・ 保護者からの本年度教育課程の反省及び要望	P T A実行委員	P T A実行委員会

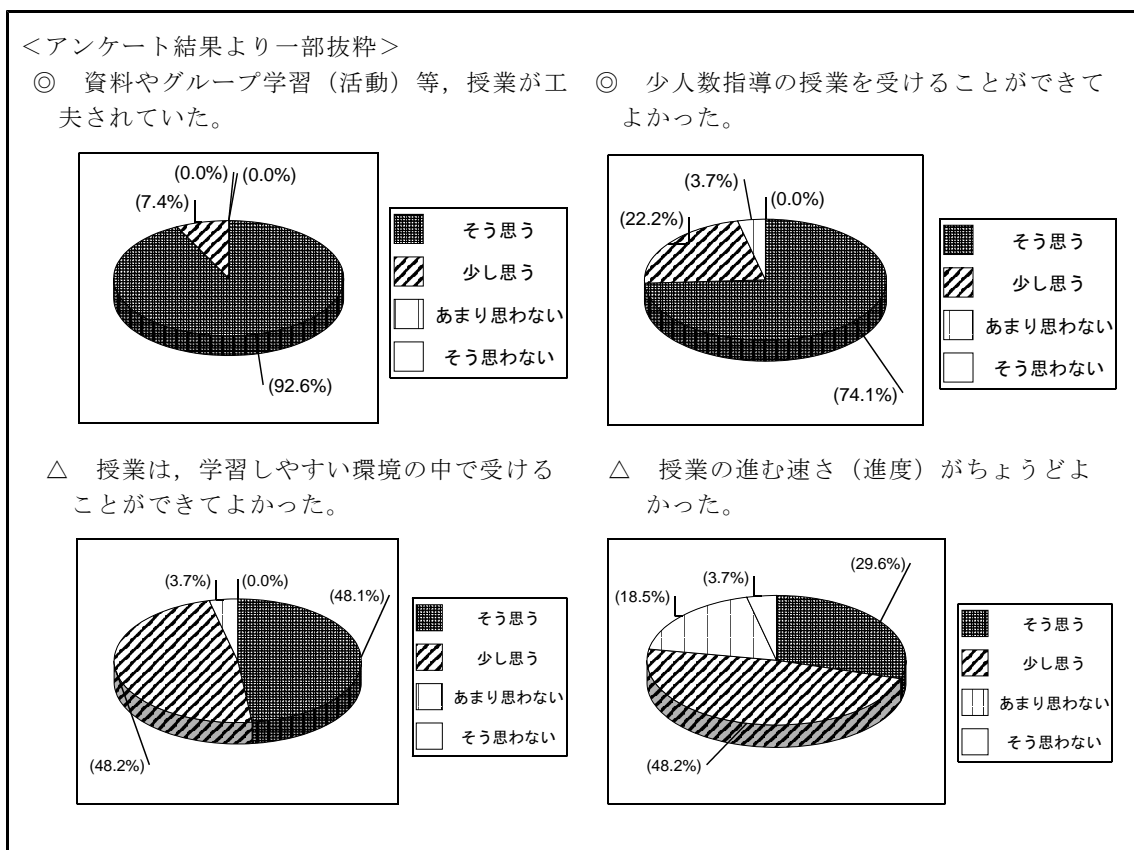
（＊ゴシック体で表記した部分は本校で特に力を入れてきた取組を示す。）

## ② 全教科での授業評価の実施

本校においては、これまでも各教科独自に授業評価を行っていたが、全教科で計画的・意図的に実施することはなかった。そこで、昨年度中に行った英語科における単元終了後の授業評価を中心に、本年度は5月に全教科で実施した。

図1は本年度の英語科における授業評価の一部抜粋である。特に高い評価を受けた項目は「授業の工夫」と「少人数指導を受けてよかった」という項目であったが、それに対し課題として残ったものは、「学習環境づくり」と「進捗」への対応であった。これらを踏まえ5月以降は、習熟度別コースを中心としたこれまでの少人数指導に加えて、課題別コースによる少人数指導を工夫することや、英語科教室と国際メディアの魅力ある学習環境づくり等に力を注ぐことができた。

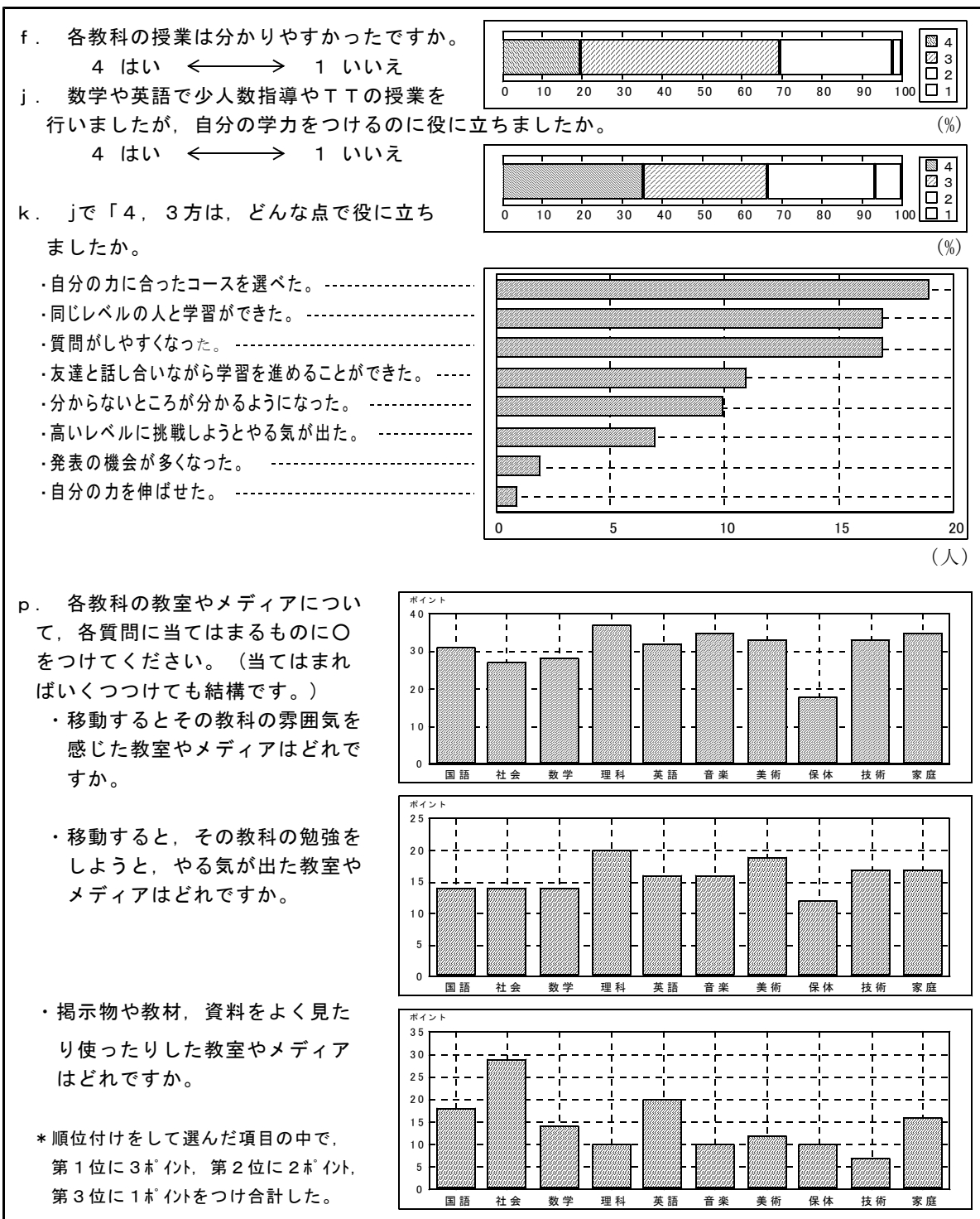
図1 アンケート結果



(2) 卒業生及びその保護者による評価の実施とその結果の活用

平成14年度末には本校の新しい教育システムで3年間過ごした生徒が卒業した。そこで15年度に、その卒業生と保護者を対象に「学校の施設・学校生活・教育目標・高校生活との比較・南中学校全般」などの項目でアンケートを実施した。図2は、その中の学習に関連する項目の集計結果を一部抜粋したものである。

図2 卒業生とその保護者によるアンケート調査結果（一部）



これらの結果については、実際に3年間本校で生活した生徒の回答であるので、教師側も生徒の生の声を真摯に受け止め、今後の改善に生かす方向で考えている。

集計結果についての研修は、集計がまとまった3学期と新たなスタッフでスタートした本年度1学期に実施したが、その中でも特に「各教科の教室やメディア」についての質問項目（前頁）については、理科における「大洗わくわく科学館」との連携による資料や教材の活用をはじめ、各教科ともに工夫を凝らし充実した環境を整備することができ、本年度の研究発表会に向けてその評価結果を十分生かすことができた。

また、この卒業生アンケートに関する研修は年度当初での研修であったため、本年度初めて本校の教育システムに触れることになった転入職員にとっても、「校舎の機能をいかに有効に生かせるか」など、システムについての認識を深めるまたとない機会となった。

### (3) 学期末評価の改善とその結果の活用

学校改善につながる学校評価にするために、これまでは毎学期単独で行っていた学期末評価を、「評価」や「次の学期に生かすための具体策」など年間を通して書き込める記入形式に改善し、前回の評価と比較しながら反省できるようにした。

職員研修（期末反省会）ではそれを話し合いの資料として活用するが、必要に応じて学年会等の折にも取り出して話し合い、共通認識ができるように、ファイルに綴じ込んで各自保管することとした。

表1 学期末評価シート（一部）

(1) 一日の流れ					
場面	評価の観点	学校経営の視点	自己評価（4段階）		
			1学期	2学期	3学期
学校経営の視点	A：「楽しさ」が実感できる学校の実現を目指す。 B：一人一人のよさと可能性を見つけ伸ばす。 a：基礎・基本の定着と学力の向上は達成されているか。 b：生徒の豊かな心が育成されているか。 c：生徒の自主・自立の心が育成されているか。 d：開かれた学校づくりは達成されているか。	/			
日々大事	・生徒を見つめる視線の転換を（欠点探しではなく、よさの発見） ・優しさの中の厳しさを（甘やかしではなく、いけないことは	A・B B・c			
校内環境	・潤いのある温かな環境づくりに努める。 ・作品や掲示物には、一人一人を認め励ます朱書きを入れる。	b B・a			
(2) 全般を通して気づいた点					
	学校管理・運営面、学校行事、生徒指導、安全指導など	次の学期に生かすための具体策			
一学期					
二学期					
三学期					

また、記述形式で回答のあった「次の学期に生かすための具体策」については、「学校

評価検討委員会」にて再度課題等について検討し、表2のように、後日、解決の方向性を提示した。今回は、「次の学期に生かすための具体策」まで記述することで、職員一人一人が学校改善に向けてより前向きに捉えるようになったことと、提言された具体策に対して検討し、方向性を示したことで、評価が評価で終わることなく、すぐに改善につながるものとして実施できたと考えている。

表2 学期末の評価結果を生かすための具体的な方向性

◇1学期末評価 2学期に生かすための具体策に対する方向性◇			
	気づいた点	次の学期に生かすための具体策	方向性
生徒指導面	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導に関することなど、共通理解・実践ができるよう、全体で確認する場が必要だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会で決まって、その伝達だけではなかなか難しい面もあるので、校務会や職員集会を有効に利用するようにしてはどうか。</li> </ul>	<p>共通理解を必要とするものについては、校務会で時間を確保し先生方からの意見をもらいながら確認する。また、職員朝会時には生徒指導主事からの連絡を随時していく。</p>
全般を通して	<ul style="list-style-type: none"> <li>サークル等の集まりの放送が多すぎる時があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てのサークルが集まるのであれば、まとめて1回放送すればよい。または、ホワイトボードや掲示板をもっと使ってもよい。</li> </ul>	<p>ロビーのサークル用ホワイトボードの活用について各サークルで啓発・指導し、集合場所や時間を書くようにする。放送では、まとめた内容を知らせる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時間などが、あまり守られていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝と帰りの学活で余裕をもって指導する。</li> </ul>	<p>教師自身が時間を意識したけじめある行動をとるとともに、極力授業の終了時刻を守るよう心がける。(教科教室型の基本)</p>

#### 4 本校からの提言

- (1) 学校教育目標の実現及び学校改善のために最も重要なのは、自校としての課題（本校の場合は「教科教室型システムの効果的な運営」）を明確にし、全職員がその課題解決に向けて具体的な取り組みをしていくことである。
- (2) 教科の枠を超えて相互の授業参観を実施したり全教科での授業評価を実施したりすること、また、研究発表会も自主的に行う等、積極的に学校を開き外部評価を受けたりしていくことが教員各自の資質を高め学校改善へ同一歩調で取り組むことにつながる。
- (3) 形式的な学校評価の実施ではなく、改善のための具体策まで教員一人一人が考えていくことで学校改善がより現実的なものになっていく。

【資料】

平成16年度

**学 期 末 評 価**  
 — 学校改善につながる学校評価を目指して —  
 氏名

◇ 学校評価が単なるアンケートで終わることなく、次の改善へとつなげるために、形式と取り扱いに変更を加えました。

- ① (1) は、よい順に4, 3, 2, 1の4段階で記入してください。自己評価として、記入できる部分を記入してください。学校経営の視点及び日々大事にしたい視点については、全員が記入してください。
- ② (2) は、自由に記述してください。また、自分なりに考える「次の学期に生かすための具体策」を必ず記入してください。今回の変更点では、この部分が一番重要となります。
- ③ 集計の後、先生方にお返しします。身近に保管し、日々の改善に役立てたり学年会等の話し合いの資料に活用してください。

(1) 一日の流れ

場面	評 価 の 観 点	学校経営 の視点	自己評価（4段階）		
			1学期	2学期	3学期
学校経営 の視点	A:「楽しさ」が実感できる学校の実現を目指す。 B:一人一人のよさと可能性を見つけ伸ばす。 a:基礎・基本の定着と学力の向上は達成されているか。 b:生徒の豊かな心が育成されているか。 c:生徒の自主・自立の心が育成されているか。 d:開かれた学校づくりは達成されているか。	/			
日々大事 にしたい 視点	・生徒を見つめる視線の転換を（欠点探しではなく、よさの発見）	A・B			
	・優しさの中の厳しさを（甘やかしではなく、いけないことはいけないという厳しさ）	B・c			
	・瑣事を大切に（靴のかかと踏み、身だしなみ）	b・c			
	・対等性の原理を（一人の人間、人格としては教師も生徒も対等。「さん・くん」呼び）	b			
始業前	・余裕をもって出勤し、生徒を温かく迎える。	A・B			
	・笑顔で元気よくあいさつする。	A・b			
	・一人一人に目を向け、温かい言葉かけをする。	A・B			
朝の会	・生徒一人一人の表情を見ながら呼名する。	A・B			
	・生徒の表情などから、心身の状態をとらえる。	A			
	・明るく元気に一日のスタートが切れるよう、短学活を工夫する。	A			
	・連絡のない欠席者の家庭に連絡をとる。	A・D			
授業中	・興味関心が高まるよう授業内容を工夫し、分かる授業づくりに努める。	B・a・c			
	・基礎・基本の内容は、反復練習をするなどして、確実に教える。	B・a・c			
	・一人一人のよさを発揮できるよう、発表や活動の機会をつくる。	B・a・c			
休み時間	・時には一緒に遊ぶなど、生徒とのふれあい通して、いじめなどの早期発見及び解消に努める。	A・b			
	・孤立しがちな生徒に対しては、特によく目配りし、集団の中にとけ込めるよう配慮する。	A・B・c			
給食	・生徒と共に準備や後片づけをする。	A・c			
	・グループに入って楽しく会食し、生徒とのコミュニケーションづくりに努める。	A・b			

清掃	・ 師弟同行，共に働く喜びを生徒とともに分かち合う。	b・c			
帰りの会	・ 一日の生活を振り返らせ，一人一人が楽しい気分で帰れるような雰囲気づくりをする。	A			
	・ 交通安全や不審者に対する注意を促し，安全な登下校に対する心構えを持たせる。	A・c			
放課後	・ 学活終了後は，身のまわりや教室環境を整えてから下校するよう習慣づけを図る。	A・c			
	・ 休みの生徒には電話連絡や家庭訪問等で励ますとともに，翌日の連絡をする。	A・d			
	・ 用事もなく教室に残っている生徒がいないか確認する。	c			
	・ 完全下校時刻を厳守し，生徒の安全に配慮した下校指導をする。	A・c			
部活動	・ 必要に応じて教育相談をしたり，町の教育相談員（週3日来校）に相談を依頼するなど，生徒の不安や悩みの解消に努める。	A・B			
	・ 生徒の身体的な発達段階や個人差を考慮し，生徒の思いや願いが達成できるよう適切な指導を行う。	B・c			
	・ 目的集団としての部の活動を通して，主体性・協調性・社会性・忍耐力・思いやりの心を育て，生徒の心身の健康増進に努める。	A・B・b			
	・ 部員の人間関係に絶えず気を配り，トラブルの防止に努める。	A			
特別活動	・ サークル活動など生徒主体の多様な活動を通して，みんなのため，自分のために活動する喜びを味わえるようにする。	c			
	・ 生徒会活動を活発にして，学校の活性化を図る。	c			
	・ 一人一人の意見を尊重し合い，お互いのよさを認め合えるような人間関係を育てていく。	A・B			
進路指導	・ 生徒の実態を把握するとともに，進路の選択にあたっては適切な助言や支援を行う。	B・c			
	・ 生徒の発達段階に応じた啓発的体験活動を通し，生徒の自己理解を深める。（職場体験，高校見学会）	B・c			
校内環境	・ 教科教室型学校の特色を生かした，学習するにふさわしいメディアづくりに努める。	A・a・c			
	・ 潤いのある温かな環境づくりに努める。	b			
	・ 作品や掲示物には，一人一人を認め励ます朱書きを入れる。	B・a			

(2) 全般を通して気づいた点

	学校管理・運営面，学校行事，生徒指導，安全指導など	次の学期に生かすための具体策
一学期		
二学期		
三学期		

## 実践事例5 日立市立泉丘中学校

URL <http://izumigaoka-hitach-kyoiku.ed.jp>

### 1 学校の概要

本校は、日立市の南部に位置し、太平洋を臨む小高い丘にある。学区は、水木、大沼、大みかの3地区からなり、いずれも、住宅地として発展してきた。このうち、水木地区は、古くから開けてきた地区であり、多くの遺跡やさまざまな伝承が残っている。

本校は、生徒616人、19学級からなる。生徒は、全体的に明るく、積極的であり、部活動等に熱心に取り組んでいる。今年度は、市内中学校総合体育大会で総合優勝したり、東関東吹奏楽コンクールで金賞を受賞したりするなど、大きな実績を残している。保護者も教育熱心であり、PTA活動も、教育改革の流れにそって組織を改編し、積極的に活動している。

本校の学校教育目標の実現に向けての施策の概要は図1のとおりである。

#### (1) 本校の学校教育目標

本年度は、前年度の「心と命」という文言を削除し、「生徒一人一人を大切にし、個性や能力を伸ばし、正しい判断力と豊かな心を養い、ねばり強く生きる生徒を育成する。」に改めた。

#### (2) 重点目標

本年度の重点目標は、図1の「確かな学力の定着」、「心と命の教育の創造」、「健康教育の推進・体力づくり」である。

#### (3) 目標実現のための具体策

3つのプロジェクトには、表1(プロジェクト2・3は略す)のように、推進するための10の視点を設け、それぞれに具体的な施策を示した。

### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

#### (1) 3つのプロジェクトの立ち上げと評価

#### (2) 教師の自己評価と生徒の授業・単元評価による授業改善

#### (3) 3つのプロジェクト評価から教育課程評価へ、さらに学校経営評価に至る道筋の確立

図1 平成16年度の学校教育目標の実現に向けての施策

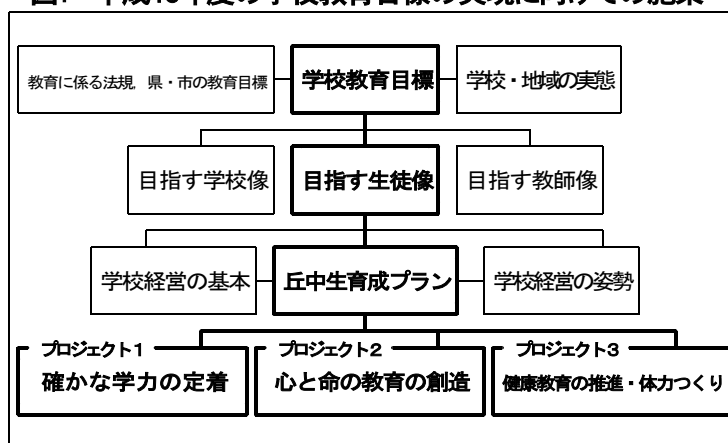


表1 プロジェクト1「確かな学力の定着」の視点

確かな学力の定着
1-①学習のしつけの確立と学習環境の整備
1-②学習意欲の喚起とわかる授業（響き合い学習）の創造
1-③わかる授業の実践と授業・単元評価による授業改善
1-④個に応じた指導等による確かな学力の定着
1-⑤総合的な学習の時間と教科の連携
1-⑥図書室の学習室としての整備・充実
1-⑦コンピュータの積極的活用と情報処理能力の育成
1-⑧科学に対する興味・関心の育成
1-⑨地域の人材、地域の学習環境の活用
1-⑩小学校、家庭との連携

### 3 実践内容

特に力を入れてきた取組のうち「学校経営評価」と『『確かな学力の定着』プロジェクト評価』を中心にその実践について述べる。

#### (1) 学校経営評価

学校経営評価は、教育課程評価の結果を中心に、それを補完する学校評価の結果を基になされる。

##### ① 学校教育目標に至る施策の改善

平成15年度に実施した学校経営総合診断の結果を踏まえ、学校教育目標の実現に向けての施策を図1のように改善した。

ア 「目指す生徒像」の生徒の姿と「生きる力」との関連を明確にした。

イ 学校教育目標の下位目標にあたり中期目標となる3つのプロジェクトを立ち上げた。

ウ 昨年までの学校教育目標にあった「心と命」の文言を削除し、プロジェクト2「心と命の教育の創造」を立ち上げた。

エ 昨年までの「本年度の努力事項」を3つのプロジェクトの30視点に置き換え、さらに、それに迫る施策を具体的に掲げた。

このような改善により、以下のような成果が得られた。

- ・本校が目指す生徒像を「生きる力」との関連で明確に把握できるようになり、21世紀を支える子ども像に統合することができた。
- ・本校の学校経営の欠点として指摘されていた「高い要因もなければ、低い要因もないという『平均型』、『仕組み軽視型』で、人間的で目的指向性は高いが、組織運営面が前近代的」といった経営の構造が見直され、教職員一人一人が取り組む教育活動の方向が明確になるとともに、その施策も明確になった。
- ・学校教育目標という大きな目標の中に漠然と掲げられていた「心と命」が、日常の教育活動の中で焦点化され、取組が強化された。
- ・日常の教育活動が具体化され、3つのプロジェクトの方向に焦点化された。

##### ② 校務分掌の工夫

平成15年度の学校評価の結果をもとに、3つのプロジェクトを立ち上げたので、組織は変えず運用面を以下のように工夫した。

ア 各プロジェクトのリーダーを関係する分掌のリーダーとした。メンバーは関連する分掌組織から位置付けた。

イ 各プロジェクトは目標達成のために、それぞれ10の視点とその具体的な施策を設定し、どの施策を誰が担当するか明確にし、責任の所在を明らかにした。

ウ 学校評価を企画運営してきた特別委員会の中の学校評価検討委員会を廃止して教育課程検討委員会に統合した。

エ 学年組織において、副主任の位置付けをより明確にし、学年運営の強化を図った。

このような工夫により、以下のような成果が得られた。

- ・それぞれの分掌がそれぞれに関係するプロジェクトの方向に向かって、責任を持って動き始めた。学年、分掌とも実践的な動きが強化された。
- ・学校評価が、評価だけに終わらず、改善に向かって動きやすくなった。



(2) 学校評価とその実施計画  
本校の学校評価の流れは、  
図2に示すとおりである。

基本的には、プロジェクト  
評価→教育課程評価→学校経  
営評価という流れである。

また、その実施については  
表2のとおりである。

① プロジェクト評価の実施  
時期

プロジェクト評価のうち  
「確かな学力の定着」プロ  
ジェクトは「授業・単元評  
価」を単元終了時に実施し  
ている(表2, 一・二・三  
学期①)。

「心と命の教育の推進」  
プロジェクトは「学年・学  
級経営評価」を学期末に実  
施している(表2, 一・二  
・三学期②)。

「健康教育の推進・体力  
づくり」プロジェクトは、  
「学校保健安全計画評価」  
を毎月末に実施している。  
(表2, 一・二・三学期  
③)

これらのプロジェクト評  
価の結果が教育課程評価に  
生かされ、さらにその結果  
が学校経営評価につながる。

② プロジェクト評価を補完  
する学校評価

ア 教職員が行う評価

- ・「プロジェクトの推進  
に係る評価」(表2の  
一・二学期⑤)
- ・「本校の教育目標・方  
針と施策に基づく教育  
活動等の評価」(表2の

図2 学校評価の流れ

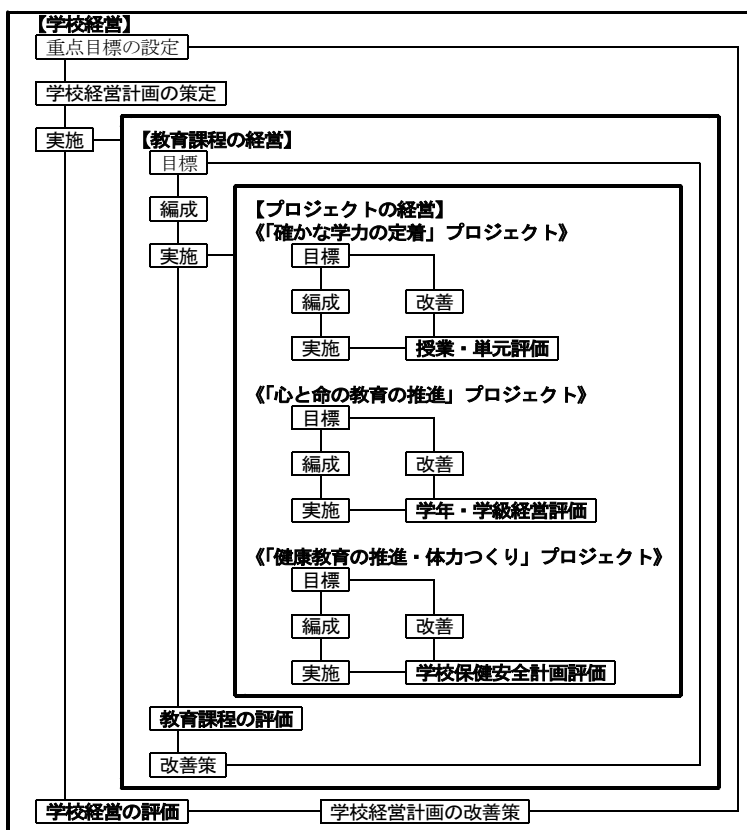


表2 学校評価に係る年間実施計画

	学校評価	評価者	結果の対応	公表
一 学 期	①生徒による授業・単元評価(プロジェクト1)	生徒	各自・会議	内
	②学年・学級経営評価(プロジェクト2)	学年主任・学級担任	各自	内
	③学校保健安全計画評価(プロジェクト3)	教員	会議	内
	④学校公開の感想	保護者・地域の人々	各自	内外
	⑤プロジェクトの推進に係る評価	教員	会議	内
二 学 期	①生徒による授業・単元評価(プロジェクト1)	生徒	各自・会議	内
	②学年・学級経営評価(プロジェクト2)	学年主任・学級担任	各自	内
	③学校保健安全計画評価(プロジェクト3)	教員	会議	内
	④学校公開の感想	保護者・地域の人々	各自	内外
	⑤プロジェクトの推進に係る評価	教員	会議	内
	⑥本校の教育目標・方針と施策に基づく教育活動等の評価	教員	会議	内
	⑦ 学校経営総合診断	教員	会議	内
	⑧学校改善のための5つの提言	教員	会議	内
	⑨保護者から見た学校	保護者	会議	内外
	⑩生徒から見た学校	生徒	会議	内外
三 学 期	①生徒による授業・単元評価(プロジェクト1)	生徒	各自・会議	内
	②学年・学級経営評価(プロジェクト2)	学年主任・学級担任	各自	内
	③学校保健安全計画評価(プロジェクト3)	教員	会議	内
	④学校公開の感想	保護者・地域の人々	各自	内外
	⑤日立市新学校教育振興プランと本校の教育活動との整合性に係る評価	教員	会議	内
	⑥学校運営協議委員の学校改善の5つの提言	学校運営協議委員	会議	内

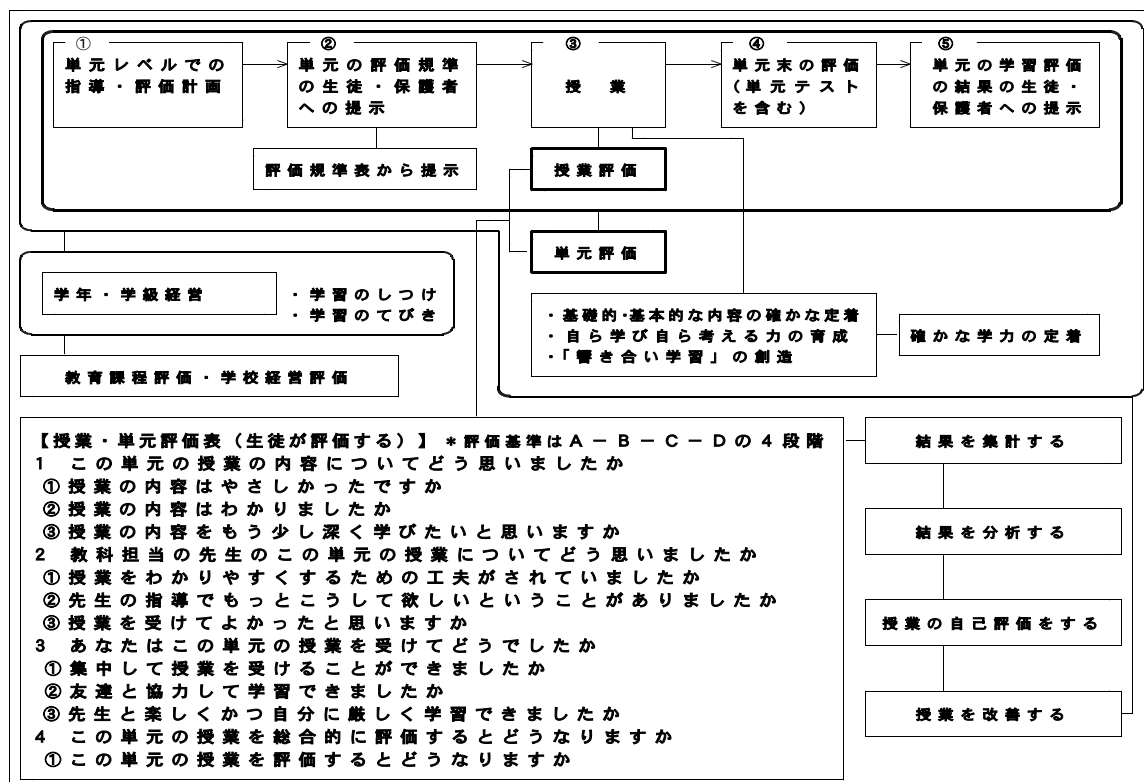
- 二学期⑥)
- ・「学校経営総合診断」(表2の二学期⑦)
- ・「学校改善のための5つの提言」(表2の二学期⑧)
- ・「日立市新学校教育振興プランと本校の教育活動との整合性に係る評価」(表2の三学期⑤)
- イ 保護者が行う評価
  - ・「学校公開の感想」(表2の一・二・三学期④)
  - ・「保護者から見た学校」(表2の二学期⑨)
- ウ 生徒が行う評価
  - ・「生徒から見た学校」(表2の二学期⑩)
- エ 学校運営協議委員(学校評議員)が行う評価
  - ・「学校改善のための5つの提言」(表2の三学期⑥)
- オ 地域の人々が行う評価
  - ・「学校公開の感想」(表2の一・二・三学期④)

(3) 「確かな学力の定着」プロジェクト評価

① 「確かな学力の定着」と授業・単元評価

このプロジェクトの目指す方向は、確かな学力の定着である。このプロジェクトと学校評価(授業・単元評価)との関連は、図3のとおりである。

図3 「確かな学力の定着」と学校評価(授業・単元評価)



「確かな学力」とは、「生きる力」の知の側面であり、認知的な領域の学力だけでなく、学習意欲や学び方、思考力、判断力、表現力、課題発見能力や問題解決力などを含めた総合的な学力としてとらえる。

この確かな学力の定着を図るために、前提としたのは、「協働的な学習（響き合いの学習）」を取り入れた「わかる授業」の構築である。構築までの流れを以下に示す。

ア 単元の指導に入る前に、指導目標と学習内容の分析を行い、生徒の実態を踏まえ、身に付けるべき資質や能力を明確にし、指導計画、評価計画を立案する。（図3の①）

イ 評価基準と学習内容を記した「評価カード」を生徒に示す。（図3の②）

ウ 単元指導計画、評価計画にそって授業を実践する。（図3の③）

エ 単元指導の事中、事後に、単元テストを含めた生徒による授業・単元評価を行う。（図3の④）

オ 生徒に示した評価カードにその単元の学習評価（観点別学習状況の評価）を記し、生徒に戻す。（図3の⑤）

なお、この流れの詳細については、【資料】として、58頁以降に示す。

単位時間において実施する評価は、特に必要とする場合に実施した。評価者は、主に生徒であるが、学校公開日には、保護者や地域の人々に、研究発表会等の公開授業においては、他校の教師等参観者に評価してもらった。

単元終了時に実施する授業評価の評価者は生徒である。

授業・単元評価の評価項目は、筑波大で実施された授業評価を参考にして、本校の実態に合わせて改良したものである。図3のとおり、評価項目は大きく4つの観点10の視点から作成した。

評価後は、学級単位で集計し、評価基準A・B・C・Dの4段階で、それぞれの割合を算出し、生徒が捉えた授業像を数値的に明らかにした。授業・単元評価は、単位時間の評価や単元テスト等の結果を踏まえ、授業改善に結びつけている。

本校が提案した「単元レベルでの協働的な学習（響き合いの学習）」は、この授業・単元評価の結果を課題研究推進委員会、及び研修会で集約、協議し生み出したものである。

研究を開始した1年目は、授業・単元評価を取り入れた単元レベルでのわかる授業の構想だけに止まっていた。2年目に、課題研究推進委員会で、授業・単元評価を分析し、図3の授業・単元評価の評価項目1-②と同3-②との相関関係、さらに、同1-②と同4-①との相関関係をとらえ、その後、課題研究に係る研修会の協議をとおして、学習の場づくりと教師の姿勢を明確にして「響き合いの学習」を生み出すに至った。なお、「響き合いの学習」は、これまで指導を受けてきた本校の授業改善アドバイザーである、加藤忠男氏の「広場のある授業」理論をベースにしている。

## ② 授業・単元評価から教育課程評価へ

単元の指導が終了した後、生徒の単元評価や単元テストの結果、教師の自己評価を踏まえ教育課程評価を実施するようにした。評価項目は、表3のとおりである。評価は自由記述で表記するようにした。

この評価の実際は、「指導内容の見直しにつながる」記述、「年間・単元指導計画・評価計画等の見直しにつながる」記述、「教材の工夫・改善につながる」記述、「指導形態の工夫・改善につながる」記述がそのほとんどで、学習指導要領、国立教育政策研究所の評価基準、教科書等に係る記述はあまり見られなかった。

これらの評価結果は教科部会で協議され、改善策が検討されるが教育課程検討委員会等においても集約され、必要がある場合は次年度の教育課程の編成に生かすこととしている

平成16年度の教育課程の編成に当たっては前年度の学校評価の結果に基づき、選択教科の見直しを実施した。

また、表3に示した単元では、指導計画、評価計画等の組み替えは行わなかったが、評価結果に基づいて、授業を実施するに当たって、留意すべきことの共通理解を図ったり、新たな実験器具を購入する等、備品の整備を実施した。

なお、他の2つのプロジェクトについても、評価を工夫し、その結果を教育課程評価へつなぐようにした。

### ③ 今後の方向

プロジェクト評価から教育課程評価へ、そして学校経営評価に至る流れを模索してきた。そういった取組の中で、学期、年度といった大きな括りで実施する学校評価だけでなく、単位時間、単元指導時間、月といった短い括りで形成的に評価し日常の教育実践を改善していくことのさらなる大切さを確認した。今後、現在、実践している「授業・単元評価」「学年・学級経営評価」「学校保健安全計画評価」の改善と、その結果を教育課程評価に結びつける方策を明確にしていきたい。

## 4 本校からの提言

3つのプロジェクトを立ち上げ、プロジェクト評価から教育課程評価へ、そして学校評価に至る道筋を確立することは、学校に次のような変容をもたらす。

- (1) 教職員一人一人が取り組む教育活動の方向が明確になり、実践的な教育活動が強化される。
- (2) プロジェクト評価の評価項目は、複雑に重なり合いがちであった評価項目を整理統合することになり、評価が評価だけに終わらず、改善策が立てやすくなる。
- (3) 授業・単元評価から教育課程評価を行うことは、授業改善の視点を明確にすることになり、よりよい授業を目指し、教職員の意識が高揚する。

表3 「単元評価から教育課程評価への資料」の事例

教科	理科	第2学年	単元名	雲と雨
学習指導要領・国立教育政策研究所の評価規準	○単元の学習目標や指導内容について問題はないか。 10ページで湿度の計算式が出てくる。現行の指導要領では、1年生で水溶液の濃度の計算式が削除されているため、大変わかりづらい。やはり、1年生の段階で割合の考え方を取り入れた指導が必要である。 ○この単元の評価規準等に問題はないか。 雲の発生を気圧の変化と関連づけて考えることが出来るためには、実験2を行い、その結果から雲のつき方を理解しなければならない。観点別学習状況の評価の科学的な思考として、もう一度考察する必要があると考える。			
教科書	○教科書の内容や記述等に問題はないか。 9ページの実験1で試験管に氷を入れるとき、注意しないと試験管の口が割れることが多かった。適切な大きさの氷にして実験を行う必要性を感じた。実験してみないと分からなかった。			
年間指導計画・単元指導計画	○実践した年間指導計画について改善点はないか。 この単元の空気中の「水蒸気を調べよう」では、年間指導計画より少し時間を増やして指導した方がよい。 ○実践した単元指導計画について改善点はないか。 露点や飽和水蒸気量、飽和状態、湿度などの意味をよく理解してから実験1（露点ををはかる）を行った方が効果的である。			
学習指導方法等	○単元を通して自分の学習指導方法について改善点はないか。 雲が生成する過程のメカニズムで、気圧が低下すると空気は膨張し、気温が下がることを理解するのが生徒にとっては難しい。わかりやすい指導方法を考えて実践してみたい。湿度を理解するには、ある程度計算練習を行った方がよい。			
評価計画・方法等	○単元を通して評価計画や評価方法等に改善点はないか。 雲がどのように上空や山の上でできるかを調べる学習で、生徒が比較的簡単に取り組める観察・実験を行い、技能・表現の評価規準を新たに考えていきたい。			
その他	特になし			

【資料】

「わかる授業」の構築のための手順

1 単元のはじめに身に付けて欲しい力（生徒向けの単元の評価規準）を明示する。

<理科の評価カードの例>

1 年理科評価票		「大地の変化」	
No.	年 組	氏 名	
「大地の変化」の主な学習内容 <学習予定時間 20 時間>			
<p>大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を通して、地表に見られるさまざまな事物・現象を大地の変化と関連づけてみる見方や考え方を養うことができる。</p> <p>ア 地層と過去のようす</p> <p>(ア) 野外観察を行い、観察記録をもとに、地層のつき方を考察し、重なり方の規則性を見いだすとともに、地層のできる岩石とその中の化石を手がかりとして過去の環境と年代を推定すること</p> <p>イ 火山と地震</p> <p>(ア) 火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連づけてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらを組織の違いを成因と関連づけてとらえること。</p> <p>(イ) 地震の体験や記録をもとに、そのゆれの大きさや伝わり方の規則性に気づくとともに、地震の原因を地球の内部の働きと関連づけてとらえ、地震にともなう土地の変化の様子を理解すること</p>			
【大地の変化】の評価 地層と化石			
評価の観点	評価の具体例		小単元の評価
自然事象への関心 ・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に野外活動を計画して実施しようとする。</li> <li>・野外で、地層及びこれを構成する堆積岩などの観察に取組み課題を発見したり、自らの仮説を立てて追求したり、規則性を見つけようとしたりするとともに、自然環境を保全しようとしている。</li> </ul>		
科学的な 思 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地層の野外観察を行い、その観察結果から地層の重なり方の規則性を見だし、地層の広がりやを考察することができる。</li> <li>・野外観察を行う中で、地層の成因、地層の堆積環境を考え、観察した地層の生成年代などを推定することができる。</li> <li>・堆積岩の構成物質の違いや含まれる示相化石、示準化石から、堆積環境やおおまかな生成年代を推定することができる。</li> </ul>		
観察・実験の 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外観察において、地形や地層の観察の仕方を習得している。</li> <li>・地層の重なり方やその地層をつくっている岩石の特徴を自分なりに整理して記録し、露頭の特徴をとらえてスケッチしたり、観察結果をまとめて発表したりしている。</li> </ul>		
自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地層の重なり方の規則性、地層の堆積環境と過去の生成年代について理解している。</li> </ul>		
<コメント>			



2 学習過程を評価し記録していくために、次のような補助簿を作成する。

<理科の補助簿の例>

学級単元観点別評価一覧表																						
教科		学年 組				単元名																
No.	評価の場	関 心 意 欲 態 度				思 考 力				技 能 表 現				知 識 理 解				観 点 別 評 価				目 標 に 照 ら し た 評 価  特 記 事 項
		評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	評 価	関 意 態	思 考 力	技 能 表 現	知 識 理 解	
		①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
1																						
2																						
3																						



3 単元の学習終了時に「生徒による授業評価」を実施する。

<生徒による授業評価表の例>

単元の授業評価表			
授業評価	教 科		授業者
単 元 名			学 年 ・ 組
		年 組	
この調査は、成績とは関係ありません。学習した単元について、あなたの感想を教えてください。			
<b>(1) この単元の授業の内容についてどう思いましたか。</b>			
① 授業の内容はやさしかったですか。 やさしかった A-B-C-D むずかしかった			
② 授業の内容は分かりましたか。 分かった A-B-C-D わからなかった			
③ 授業の内容をもう少し深く学びたいと思いませんか。 思う A-B-C-D 思わない			
<b>(2) 教科担当の先生のこの単元の授業についてどう思いましたか。</b>			
④ 授業を分かりやすくするための工夫がされていましたか。 工夫されていた A-B-C-D いなかった			
⑤ 先生の指導でもっとこうしてほしいということがありましたか。 なかった A-B-C-D あった			
⑥ 授業を受けてよかったと思いませんか。 よかったと思う A-B-C-D そう思わない			
<b>(3) あなたは、この単元の授業を受けてどうでしたか。</b>			
⑦ 集中して授業を受けることができましたか。 集中できた A-B-C-D できなかった			
⑧ 友達と協力して学習できましたか。 学習できた A-B-C-D できなかった			
⑨ 先生と楽しくかつ自分に厳しく学習できましたか 学習できた A-B-C-D できなかった			
<b>(4) この単元の授業を総合的に評価するとどうなりますか。</b>			
⑩ この単元の授業を評価するとどうなりますか。 よい授業だった A-B-C-D よくない			



4 単元終了時に「単元テスト」(ペーパーテスト)を実施する。

(理科「物質の成り立ち」の単元テストの一部)

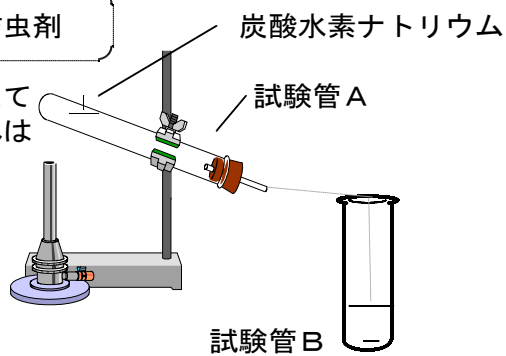
理科単元テスト P. 4~19 「物質の成り立ち」

<自然事象への興味・関心・態度>

- 炭酸水素ナトリウムは、家庭の料理のときに使うことがあります。これまでに使ったことがありますか。ある人は、どのような料理で使ったか書いて下さい。
- 炭酸水素ナトリウムは、日常生活の中では、どのようなものに使われていますか。下から一つ選びましょう。

- 消火器     
  乾燥剤     
  防虫剤

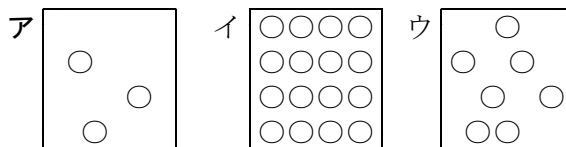
- 加熱したザラメに炭酸水素ナトリウムを加えておかしを作ったことがありますか。また、それは何というおかしですか。



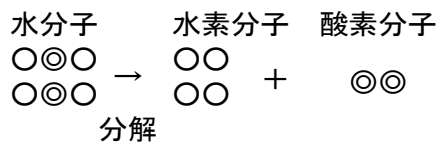
<科学的な思考>

- 右の図のようにして、炭酸水素ナトリウムを加熱して分解しました。試験管Aの口を少し下に向ける理由を答えましょう。

- 右の図のア、イ、ウは、それぞれ気体・液体・固体のどの状態を表していますか。

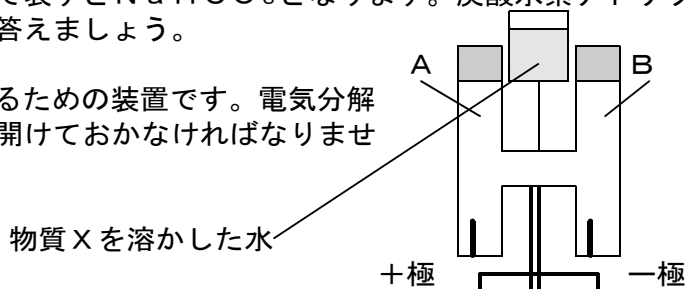


- 右の図は、水の分解の様子をモデルで表しています。水分子を50個電気分解したとき、水素分子、酸素分子はそれぞれ何個できますか。図を参考にして答えましょう。



- アンモニアを化学式で表すと $\text{NH}_3$ となります。アンモニアを構成する原子の種類と数を答えましょう。
- 塩酸を化学式で表すと $\text{HCl}$ となります。塩酸を構成する原子の種類と数を答えましょう。
- 炭酸水素ナトリウムを化学式で表すと $\text{NaHCO}_3$ となります。炭酸水素ナトリウムを構成する原子の種類と数を答えましょう。

- 右の図は、水の電気分解をするための装置です。電気分解をしているときピンチコックは開けておかなければなりません。それはなぜですか。



- 5 2, 3, 4をもとに生徒一人一人の「単元の評価の総括」を行い、単元のはじめに示した評価規準の評価カードに記載して返却し、「学習の振り返り」を行う。



- 6 「生徒による授業評価」と「単元テスト」の結果から、教師自身の「単元の学習指導の評価」を実施する。単元の指導について自己評価をする。

【 単元評価結果表 】		記録者	
教科	学年	単元名	
学 習 指 導 要 領	この単元の学習目標や指導内容について問題はないか。	有	無
			↓
政 策 研 究 所	この単元の評価規準等に問題はないか。	有	無
			↓
教 科 書	教科書の学習内容や記述等に問題はないか。	有	無
			↓
年 間 指 導 計 画	実践した年間指導計画について改善点はないか。	有	無
			↓
画 面 計 画	実践した単元指導計画について改善点はないか。	有	無
			↓
学 習 指 導 方 法	単元を通して自分の学習指導方法について改善点はないか。	有	無
			↓
評 価 計 画 等	単元を通して評価計画や評価方法等に改善点はないか。	有	無
			↓
そ の 他			



## 実践事例6 千代田町立千代田中学校

URL <http://academic2.plala.or.jp/chiyojhs/>

### 1 学校の概要

本校は生徒数260人9学級（特殊学級1）で、周囲には果樹園が多く、自然豊かで、千代田町のほぼ中央に位置する。明るく素直な生徒が多く、あいさつなどもよくできている。反面、指示待ち的な傾向があり、忍耐強さや積極性・より主体的な行動の育成を図らなければならないととらえている。

#### (1) 本校の教育目標

人間性豊かで創造力・実行力のある生徒の育成

- めざす生徒像
- 自ら考え判断し、実行できる生徒
  - 心身ともに健康で、がんばり強い生徒
  - お互い協力し、社会に役立つ生徒
  - 心情豊かで、礼儀正しい生徒

#### (2) 重点目標

本年度の学校経営の重点は、「美しい学校の実現」であり、そのために次の三つの柱を美しさの観点として設定している。

物理的に美しい          心が美しい          学習する姿が美しい

#### (3) 目標実現のための具体的施策

この三つの美しさを具現化するために、次のような取組をしている。

- わかる授業・できる喜びを味わえる授業の積み重ねのための単元評価の実施
- 毎朝の一人一役活動の実施
- 毎日の清掃活動の充実
- 校舎内外の環境の整備
- 生徒指導プロジェクトの年間計画に従った学年学級作り
- グループエンカウンターとピアサポートの活用
- 二か月ごとの生活目標の設定と、それを個の目標として具体化

### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

#### (1) 授業評価を起点とした単元評価の活用

わかる授業・できる喜びが味わえる授業の積み重ねが基礎・基本の定着となり、さらに上を目指そうとする向上心へとつながっていく。わかる授業・できる喜びが味わえる授業の構築のために、日々の授業評価を重視しながら単元評価の活用を図ってきた。

#### (2) 保護者や地域の声を大切にす外部評価の活用

開かれた学校として、保護者や地域とともに子供たち一人ひとりの成長を見守っていくために、特色ある学校教育に関するアンケート等を実施している。その結果を受けて改善策を考え、学校としてできること・協力が必要なものなどを発信してきた。

### 3 実践内容

#### (1) 学校評価への取組

授業評価以外にも、学校経営の重点目標である「美しい学校の実現」のための方策の一つとして、外部評価を実施してきた。特色ある学校教育に関するアンケート

(表1)、体育祭・文化祭など学校行事に関する意見、授業参観週間における環境や授業内容についてのアンケート、また学校運営協力員との懇談など、保護者や地域の方の客観的な視点・意見を積極的に受け入れてきた。それらを集計・分析し、学校側の考えや対応策等を加えて学年便りで発信している。安全に関することや授業参観の時期に関することなど、すぐに対処できるものは直ちに改善した。さらに外部評価とともに、共に学校をよくしていこうという立場から、教師と生徒による内部評価も実施し、学校評価を通して「美しさ」の具現化に取り組んでいる。

#### (2) 評価研究部の組織の見直し

表2 研究の組織

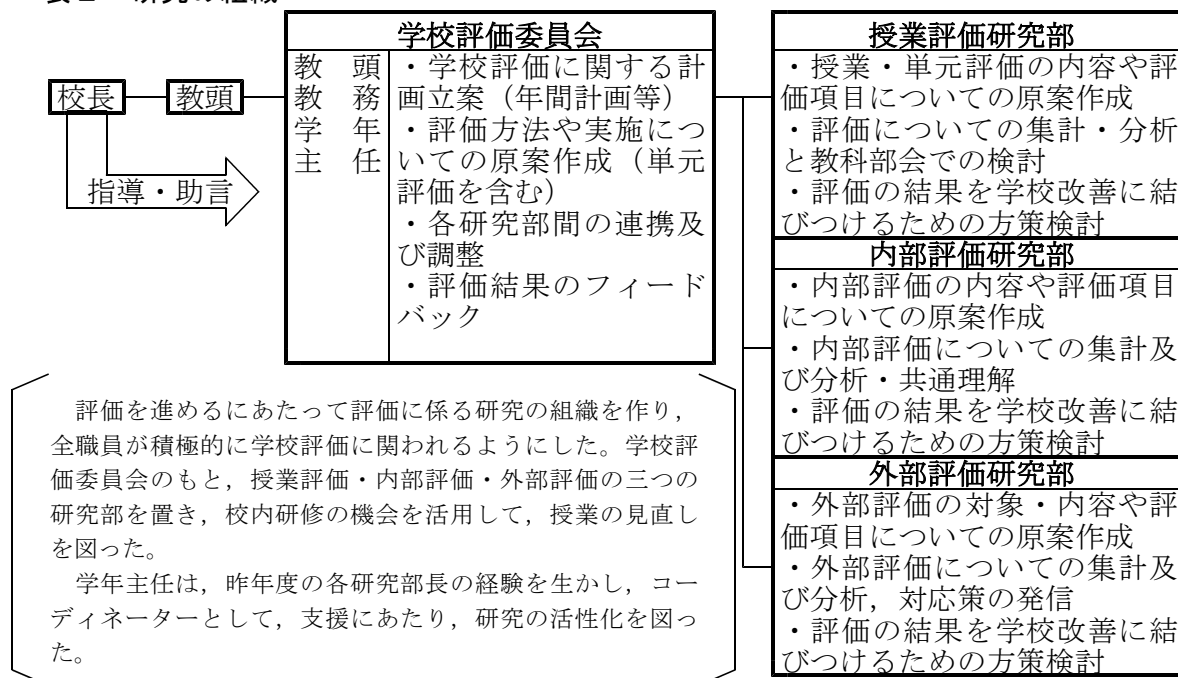


表1 特色ある学校教育に関するアンケート

～ 本校の目指す学校像 ～	
1	本校の教育目標【人間性豊かで創造力・実行力のある生徒の育成】と努力点【美しい学校】は、分かりやすく示されていると思いますか。
物理的に美しい ～美しい環境の構築について～	
2	千代田中は、学校の環境美化に積極的に取り組んでいると思いますか。(毎日の清掃活動・グリーン作戦・一人一役運動 等)
3	千代田中の安全管理についての対応は、適切だと思いますか。(不審者対策・生徒と共に行う安全点検・避難訓練 等)
心が美しい ～豊かな人間性の育成について～	
4	子供たちは、毎日明るく学校生活を送っていると思いますか。
5	子供たちは、地域で問題行動がなく、正しいことを貫くことができる強い心をもっていると思いますか。
6	子供たちの、礼儀や身だしなみはしっかりできていると思いますか。
7	教職員は、何事にも全力で取り組む生徒を育成していると思いますか。
8	子供たちの健康や安全に対する指導や生活指導は、適切に行われていると思いますか。(性、喫煙、薬物に関する指導、自転車の安全指導 等)
9	千代田中は、心と体を育てる部活動に、積極的に取り組んでいると思いますか。
学ぶ姿が美しい ～学習の基礎・基本の定着について～	
10	子供たちは、真剣に学習に取り組んでいると思いますか。
11	千代田中は、分かりやすく丁寧な授業を工夫して行っていると思いますか。
12	千代田中は、将来に希望がもてるような進路指導を適切に行っていると思いますか。
13	千代田中は、子供たちが楽しく充実して取り組めるように、学校行事を工夫していると思いますか。
～保護者・地域との連携について～	
14	千代田中は、保護者や地域の願いを聞くなど、開かれた学校作りに積極的に取り組んでいると思いますか。
15	電話や学校に訪問した際、教職員の対応は適切ですか。
16	学校からの便りや案内文書は、分かりやすく適切ですか。
17	学校・保護者・地域が連携を図り、協力して活動に取り組んでいると思いますか。
18	今までの千代田中の通知表の内容は、分かりやすいですか。(2、3年生の保護者の方のみ、お答えください)

(3) 評価計画

	学校評価委員会	授業評価研究部	内部評価研究部	外部評価研究部	保護者地域へ
4月	○学校評価年間計画の作成・組織作り	○評価内容・項目の作成	○評価内容・項目の作成	○評価内容・項目の作成	○学校評価への協力依頼
5月	○評価方法や実施についての原案作成	・単元評価につながる評価方法の検討	・昨年度の評価結果の再確認	・経営方針との整合性	・学校の実態
6月	◎全体会 ○評価内容や評価項目の検討	○単元評価の実施・集計・分析	○第1回内部評価の実施と結果提示	○体育祭アンケート実施	・本年度の学校経営の重点
7月	○評価結果の広報についての原案	○学力診断テストの結果と合わせた分析	・教職員・生徒による評価	○特色ある学校教育に関するアンケート実施	・具体的取り組みの提示
8月	◎全体会 ・第1回の評価活動の報告・改善策検討	○研究部会 ・単元評価検討	○研究部会 ・内部評価検討	○集計分析対応策発信	○学年便りを通して広報
9月	◎全体会	○評価準備	○評価準備	○研究部会 ・外部評価検討	○奉仕作業(環境整備)
10月				○文化祭アンケート実施	○学年便りを通して広報
11月		○単元評価の実施・集計・分析	○第2回内部評価の実施と結果提示	○授業参観アンケート実施	○授業参観週間実施
12月	◎全体会				
1月	◎次年度の教育方針の提示				
2月	○教育課程プロジェクト				
3月	・各研究部の評価結果, 分析を受けて, 学校改善への具体案を提示する。				
	・次年度の計画立案				
	・年間計画等の見直し				

(4) 単元評価について

- ① 昨年度は、1時間1時間の授業評価の積み重ねが大切だと考え、1単元すべての授業について、表3 (p.65) の調査用紙を利用して生徒による自己評価を行った。その際の授業者の反省として、次のような意見が出された。

《指導方法に関すること》

- 授業評価が項目ごとになっているので自分の授業を振り返りやすい。特に説明の仕方、板書、進度については参考になった。
- 自分が今まで授業をするときに注意していたことについて確認することができてよかった。

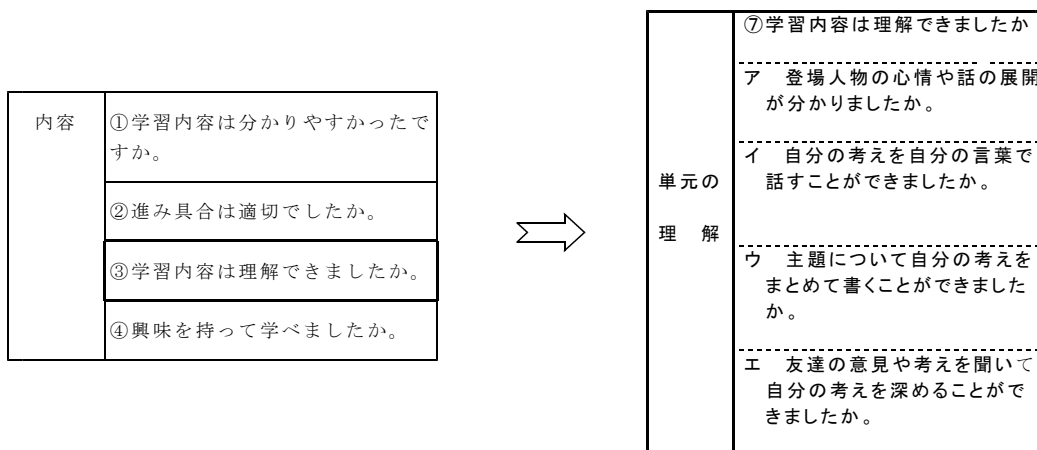
- 今まで気がつかなかったことがわかり、次の授業に生かすことができた。  
《個に対応すること》
- 一人ひとりの考えなどがわかってよかった。
- 設問③などで低い評価をした生徒に対して、次時に個別指導することができた。  
《評価に関すること》
- 授業時間内に調査用紙に記入させるのがたいへんであった。
- 評価を重ねるごとに、あまり考えずに記入している生徒がいるように思う。
- 生徒が調査項目の内容を十分理解していないように思われた。
- 調査結果を集計するのに時間がかかりすぎる。
- 調査結果を集計するには、平均より割合や人数の合計の方が授業改善に役立つような気がする。

表3 授業に関する調査

授業に関する調査			
千代田町立千代田中学校 ( )年( )組(男・女)教科( ) 氏名 _____			
この調査は本校の教育活動を充実させるために、生徒の皆さんの意見を聞き、参考にするためのものです。この調査は成績には関係ありませんので、率直な意見を記入して下さい。			
4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまり思わない 1=そう思わない として番号に○印を記入し、記入した点数に対する考えも書いて下さい。 *教科によって記入できない項目がある場合は、担当の先生の指示を受けてから記入欄に斜線を引いて下さい。			
領域	調査項目	記入欄	点数に対する考え
内容	①学習内容は分かりやすかったですか。	4-3-2-1	
	②進み具合は適切でしたか。	4-3-2-1	
	③学習内容は理解できましたか。	4-3-2-1	
	④興味を持って学べましたか。	4-3-2-1	
指導	⑤先生の声は聞きやすかったですか。	4-3-2-1	
	⑥先生の説明は分かりやすかったですか。	4-3-2-1	
	⑦黒板に書いてあることは見やすかったですか。	4-3-2-1	
環境	⑧集中して取り組める環境でしたか。	4-3-2-1	
	⑨友達の意見がよく聞けましたか。	4-3-2-1	
	⑩友達と協力して活動できましたか。	4-3-2-1	

これらの意見を受け、1時間1時間の授業の積み重ねで構成されている単元を、表4 (p. 66) のように、一つのまとまりとして評価することとした。さらに、個人の理解度を詳しく見られるように、教科・単元の目的等に応じた評価の観点を設定した。単元評価を行うにあたり、単元のはじめに生徒に評価の目的・内容・時期を説明しておき、単元末の時間に実施した。また表3の指導の項目に関しては、直接生徒の声を聞き、教師相互の授業研究を通して対応したいと考え、削除した。

図1 授業評価から単元評価への主な変更点



② 単元計画の改善・個人の伸長に結びつけるために

①で実施した単元評価

は生徒による自己評価であり、これだけで判断するのは不十分である。そこには教師側の客観的な資料が必要であり、学力診断テストの結果、授業における小テストの積み上げ、単元末のまとめのプリント（ワーク）等と併せて単元評価を行った。その結果を教科部会で検討し、授業や単元計画の改善を図っている。

例えば、1学期に実施した単元評価の集計結果（表4）を見ると、単元の理解の項目イ・ウで評価を2と答えた生徒が多いことがわかる。その点を夏休みの国語科部会で、学力診断テストの結果や単元のまとめのプリントをもとに分析すると、「自分の言葉で書く・まとめる」「自分の考えをまと

めてわかりやすく話す」などについて重点化して指導する必要性が見えてきた。そこで、2学期には各単元の中で、表現の場を工夫するとともに、「話し合いで問題を解決しよう」「主張を書こう」という単元の時間配分を増やし、主体的で豊かな表現力の育成を図ることとした。

もちろんこれは、全体的な傾向を捉えてのことであり、表4の調査項目に1や2をつけた生徒に対しては、個人的な対応が大切になってくる。その中心となるのが学年会で、普段の生活や学習の様子を共通理解し、教科部会と連携し、その生徒にとって必要な支援策を講じることができた。（放課後・長期休業中の補習）また、その支援の内容や方法・経過については、毎週月曜日の1校時の学年主任会（校長・教頭・教務・学年主任・生徒指導主事）において、確認や検討を行っている。

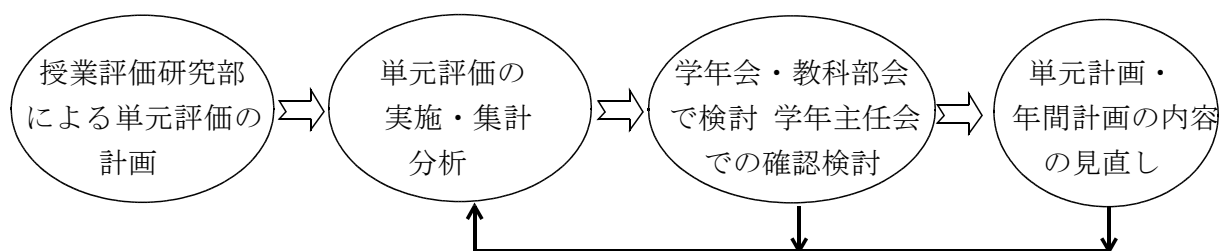
上記の単元評価の流れを図示すると、次の図2（p.67）のようになる。

表4 単元の自己評価表

〔教科：国語 単元：読書で考えを深めよう いちご同盟〕

4=どう思う、3=ややどう思う、2=あまりどう思わない、1=どう思わない			
領域	調査項目	観点	人数
学習の環境	①集中して取り組める環境でしたか。	観点に対する考え	3 0
		一人一人が集中して良い環境だった。	4 1
		自分の活動をしっかりやっていた。	2 0
		少しうるさい人がいた。	1 1
	②友達の意見がよく聞けましたか。	観点に対する考え	4 2
		発表会で友達のいろいろな意見や考えが聞けた。	3 4
		友達の考えと比べられた。	2 7
			1
	③友だちと協力して活動できましたか。	観点に対する考え	4 3
		劇のメンバーと協力して演じられた。	3 4
		討論で協力して考えがまとめられた。	2 1
		活動があまりなかった。	1 2
学習の内容	④学習内容は分かりやすかったですか。	観点に対する考え	4 2
		朗読や劇で内容がよくわかった。	3 6
		プリントでまとめのポイントがよくわかった。	2 9
		よくわからないところがあった。	1
	⑤進み具合は適切でしたか。	観点に対する考え	4 3
		順調に進んでいた。	3 9
		だいたいいいい。	2 1
			1 1
	⑥興味をもって学べましたか。	観点に対する考え	4 2
		同じ中学生ということで共感できた。	3 5
		もっと「いちご同盟」を読んでみたい。	2 2
		国語があまり好きでない。	1
単元の理解	⑦学習内容は理解できましたか		
	ア 登場人物の心情や話の展開が分かりましたか。	4 5	
	登場人物の心の中がよく分かった。	3 4	
	劇で表現したので分かりやすかった。	2 5	
	だんだんわかってきた。	1 1	
	イ 自分の考えを自分の言葉で話すことができましたか。	4 2	
	進んで感じたことを発表できた。	3 7	
	討論で自分の言いたいことは言えた。	2 2	
	指名されて発表できた。	1 3	
	ウ 主題について自分の考えをまとめて書くことができましたか。	4 2	
	自分の考えや気持ちをまとめられた。	3 4	
	しっかりまとめられた。	2 2	
		1 2	
	エ 友達の意見や考えを聞いて、自分の考えを深めることができましたか。	4 2	
	友達の意見を聞いてなるほどと思った。	3 4	
	教えられたことがたくさんあった。	2 1	
	友達の考えが自分と違うことが分かった。	1 2	

図2 単元評価の流れ



### ③ 成果と課題

今年度実施した各教科の単元評価をもとに、年間計画の内容の見直しをすること、また、各教科の評価結果における成果や課題等の傾向を考慮した、次年度の評価計画を立てる必要がある。この単元評価に併せて、外部評価・内部評価の二つの評価を加味し、本校における教育課程改善のポイントを教育課程プロジェクトとして改善している。さらに、単元評価を積み重ねることにより、確かな学力を身に付けさせる工夫や特色ある学校づくりのための教育課程改善をめざすとともに、保護者や地域とともにある開かれた学校であるために計画的・継続的に評価の実施と改善を行っていく必要があると考える。

- 授業評価を単元末に実施したことにより評価の回数、時期に時間的なゆとりができた。
- 評価内容を教師だけでなく生徒もわかっていることで、ともに見通しをもった授業ができ、単元の自己評価表への記入もスムーズであった。
- 単元に応じた評価の観点を入れたことで、個人の理解度等が見えるようになったとともに全体の傾向がつかめ、単元計画の改善に役立てることができた。
- 教科部会・学年会での話し合いの視点が明確になり、単元や年間計画の内容の見直し、支援の必要な生徒についての対応策を具体化することができた。
- 自己評価表だけでは単元評価として不十分なため、それと対応した単元末テスト等の工夫が必要である。
- 今回はどの教科も同じ時期に、一斉に単元評価を実施したが、教科や学年で目的に応じた計画的な評価をすべきである。
- 評価の結果を見ると、すぐに改善できる点と、長期にわたって努力すべき点が見えてくる。継続した単元評価の積み重ねが必要である。(○は成果、●は課題)

### 4 本校からの提言

- (1) 単元評価は、必要に応じて時間にとらわれず実施でき、結果もわかりやすい。1時間の授業の振り返りにも役立つものである。1回の単元評価でも、良い点や改善点が見られ、計画的に実施することで年間の学習計画の内容の見直しもできる。
- (2) 授業評価・内部評価・外部評価の三つの研究部を軸にしながら、学年会や教科部会を活用することで職員の研修における協働態勢を深めることができる。また、評価をすることが目的ではなく、評価を通して学校教育を改善していくという方向性を随時確認することも大切である。

【資料1】

特色ある学校教育に関するアンケート

千代田町立千代田中学校		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	知らない	各項目に関して、コメントがございましたらお書き下さい。
評価者名	評価日						
_____							
平成 16 年 7 月 _____ 日							
<b>～ 本校の目指す学校像 ～</b>							
1	本校の教育目標【人間性豊かで創造力・実行力のある生徒の育成】と努力点【美しい学校】は、分かりやすく示されていると思いますか。						
<b>物理的に美しい</b> ～美しい環境の構築について～							
2	千代田中は、学校の環境美化に積極的に取り組んでいると思いますか。 (毎日の清掃活動・クリーン作戦・一人一役運動 等)						
3	千代田中の安全管理についての対応は、適切だと思いますか。(不審者対策・生徒と共に行う安全点検・避難訓練 等)						
<b>心が美しい</b> ～豊かな人間性の育成について～							
4	子供たちは、毎日明るく学校生活を送っていると思いますか。						
5	子供たちは、地域で問題行動がなく、正しいことを貫くことができる強い心を持っていると思いますか。						
6	子供たちの、礼儀や身だしなみはしっかりできていると思いますか。						
7	教職員は、何事にも全力で取り組む生徒を育成していると思いますか。						
8	子供たちの健康や安全に対する指導や生活指導は、適切に行われていると思いますか。(性、喫煙、薬物に関する指導、自転車の安全指導 等)						
9	千代田中は、心と体を育てる部活動に、積極的に取り組んでいると思いますか。						
<b>学ぶ姿が美しい</b> ～学習の基礎・基本の定着について～							
10	子供たちは、真剣に学習に取り組んでいると思いますか。						
11	千代田中は、分かりやすく丁寧な授業を工夫して行っていると思いますか。						
12	千代田中は、将来に希望がもてるような進路指導を適切に行っていると思いますか。						
13	千代田中は、子供たちが楽しく充実して取り組めるように、学校行事を工夫をしていると思いますか。						
<b>～保護者・地域との連携について～</b>							
14	千代田中は、保護者や地域の願いを聞くなど、開かれた学校作りに積極的に取り組んでいると思いますか。						
15	電話や学校に訪問した際、教職員の対応は適切ですか。						
16	学校からの便りや案内文書は、分かりやすく適切ですか。						
17	学校・保護者・地域が連携を図り、協力して活動に取り組んでいると思いますか。						
18	今までの千代田中の通知表の内容は、分かりやすいですか。(2, 3年生の保護者の方のみ、お答えください)						

【資料 2】

学校評価内部用アンケート（教師用） 2 学期用

※ 該当するところに○を記入して下さい。

領域	No.	評 価 項 目	5	4	3	2	1
1 学校運営	1	生徒に尽くし愛を届け続けていますか。					
	2	生徒との触れ合いを面倒くさがらずに温かく対応していますか。					
	3	生徒の言動に敏感な感覚で心を込めて温かく反応し応答していますか。					
	4	生徒を認め、励まし、心を込めて叱ることができていますか。					
	5	手を焼く生徒がいても、絶対に良くなることを信じて対応していますか。					
	6	生徒に口うるさく接していませんか。					
	7	「今ここで」を大切にし、何ができ、何をしあげられるか求め続けていますか。					
	8	いつも笑顔で生徒と接することができていますか。					
	9	言って聞かせ、試みて、やらせてみて、認め励ます機会をもっていますか。					
	10	今年度の努力点について					
	①物理的に美しくなるように努力していますか。						
	②教師・生徒の心が美しくなるように努力していますか。						
	③学習する姿が美しくなるように努力していますか。						
2 生徒指導	11	生徒は、毎日、明るく楽しい学校生活を送っていると思いますか。					
	12	先生のあいさつはよくできていると思いますか。					
	13	生徒のあいさつはよくできていると思いますか。					
	14	先生は生徒の間違った行動に対して適切に指導していると思いますか。					
	15	先生は生徒からの相談に積極的に応じていると思いますか。					
	16	先生はすべての生徒に公平に接していると思いますか。					
	17	先生はいじめなどのない楽しい学級づくりや学校づくりに努めていると思いますか。					
	18	先生は生徒の行動や心理についてよく理解していると思いますか。					
	19	どの先生も同じ方針で生徒指導をしていると思いますか。					
	20	先生は生徒の個性を認めていますか。					
	21	先生は保護者と連携した活動を行っていると思いますか。					
	22	生徒は地域や家庭で問題行動が無くしっかり生活していると思いますか。					
23	外部機関（警察や適応教室など）と連携した活動を行っていると思いますか。						
3 進路指導	24	生徒が自己理解を深め、主体的に進路を選択していくことができるような計画を立てられましたか。					
	25	生徒の個性や能力の伸長を図るために、その希望や適性の把握をもとに、面談や指導を行えましたか。					
	26	適切な進路選択や、生徒の希望実現のために、必要な情報の提供に努められましたか。					
4 健康・安全	27	学校保健の重要性が認識され、教育活動全体を通して、その推進が図られていますか。					
	28	生徒の健康状態や健康生活の実態を把握していますか。					
	29	学校環境の定期点検が行われ、事後措置が適切になされていますか。					
	30	保健安全指導が、計画的かつ効果的に行われていますか。					
	31	危機管理体制がしっかり確立され、把握されていますか。					
5 特別活動	32	特別活動の各分野（学級活動・生徒会活動・学校行事）についての指導方針が明確にされていますか。					
	33	年間指導計画に基づいた学級活動を展開していますか。					
	34	学級活動では、生徒の意見交換が活発に行われるよう工夫していますか。					
	35	生徒会本部・各委員会の活動において、生徒の自主的・実践的な活動を促す指導を行っていますか。					
	36	生徒が自発的かつ協力的な態度で学校行事に臨むように工夫していますか。					
6 その他	37	生徒の個人情報を管理し、保護していますか。					
	38	研修等に積極的に参加し、その成果を教育活動に生かしていますか。					
	39	積極的に部活動に参加していますか。					
	40	公務員としての自覚をもって生活していますか。					

- 5 自分では90%達成できた
- 4 自分では70%達成できた
- 3 自分では50%達成できた
- 2 自分では30%しか達成できなかった
- 1 自分では10%しか達成できなかった



【資料3】

学校評価内部用アンケート（生徒用） 1年2学期用

※ 該当するところに○を記入して下さい。

領域	No.	質問項目	5	4	3	2	1	
1 学校運営	1	学校生活は楽しいですか。						
	2	本校に入学して良かったと思っていますか。						
	3	目標をもって学校生活を送っていますか。						
	4	学校は、学校や学年の様子を便りなどで積極的に知らせていると思いますか。						
	5	今年度の目標について						
		①あなたは、環境（教室・廊下・校庭など）を美しくしようとしていますか。						
		②あなたは、自分の心（思いやり・勤・いじめないなど）を美しくするために、日々努力していますか。						
	③あなたは、学習する姿（読書・観察・実験など）が美しくなるように、意欲的に取り組んでいますか。							
2 生徒指導	6	先生のあいさつはよくできていると思いますか。						
	7	あなたのあいさつはよくできていると思いますか。						
	8	先生は生徒の間違った行動に対して適切に指導していると思いますか。						
	9	先生は生徒からの相談に積極的に応じていると思いますか。						
	10	先生はすべての生徒に公平に接していると思いますか。						
	11	先生はいじめなどのない楽しい学級づくりや学校づくりに努めていると思いますか。						
	12	先生はあなたの行動や心理についてよく理解していると思いますか。						
	13	どの先生も同じ方針で生活指導をしていると思いますか。						
	14	先生はあなたの個性を認めてくれますか。						
	15	あなたは地域や家庭では、きちんと生活していますか。						
	3 進路指導	16	自分に適した進路の計画を立てるために先生はアドバイスをしてくれましたか。					
		17	進路についての相談事や悩みなど、気軽に先生に相談できますか。					
		18	学校では、自分の適切な進路選択や希望実現のために、必要な情報を集めることができますか。					
		19	1年＝進路集会、2年＝職場体験学習、3年＝高校見学などの体験学習に積極的に取り組みましたか。					
	4 健康・安全	20	自己の健康・安全に関心をもって生活できていますか。					
21		学校環境は、安全で衛生的に保たれていますか。						
22		保健安全についての指導が、きちんと行われていると思いますか。						
23		緊急事態発生時の対応がしっかりできていると思いますか。（災害・不審者など）						
5 特別活動	24	学級活動では、意見交換の場が十分にありますか。						
	25	生徒会・委員会活動では、友人と協力して積極的に取り組んでいますか。						
	26	学校行事は、全員にとって楽しいものになっていますか。						
6 その他	27	あなたの個人情報保護されていると思いますか。						
	28	積極的に部活動に参加していますか。						
	29	あなたは、様々な体験活動、地域で行事や支援活動等に参加していますか。（祭り、ボランティア等）						

- 5 達成できた（90点ぐらい）
- 4 ほぼ達成できた（70点ぐらい）
- 3 どちらともいえない（50点ぐらい）
- 2 あまり達成できなかった（30点ぐらい）
- 1 達成できなかった（10点ぐらい）

7 わかりにくかった質問があれば書いて下さい。また、それはどのようなことがわからなかったですか？

.

【資料 4】

# 単元の自己評価表

教科	国語
教材名	いちご同盟

千代田町立千代田中学校  
 ( ) 年 ( ) 組 (男・女) 教科 ( )  
 氏名 \_\_\_\_\_

この調査は、本校の教育活動を充実させるために、生徒の皆さんの意見を聞き、参考にするためのものです。最近学習した、単元の授業を振り返って答えて下さい。この調査は成績には関係ありませんので、率直な意見を記入して下さい。

答えは、

4 = そう思う, 3 = ややそう思う, 2 = あまりそう思わない, 1 = そう思わない  
 として観点の番号に○印を記入し、記入した観点に対する考えも書いて下さい。

領域	調査項目	観点	観点に対する考え
学習の環境	① 集中して取り組める環境でしたか。	4	
		3	
		2	
		1	
	② 友達の意見がよく聞けましたか。	4	
		3	
		2	
		1	
	③ 友だちと協力して活動できましたか。	4	
		3	
		2	
		1	
学習の内容	④ 学習内容は分かりやすかったですか。	4	
		3	
		2	
		1	
	⑤ 進み具合は適切でしたか。	4	
		3	
		2	
		1	
	⑥ 興味をもって学べましたか。	4	
		3	
		2	
		1	
単元の理解	⑦ 学習内容は理解できましたか。		
	ア 登場人物の心情や話の展開が分かりましたか。	4	
		3	
		2	
		1	
	イ 自分の考えを自分の言葉で話すことができましたか。	4	
		3	
		2	
		1	
	ウ 主題について自分の考えをまとめて書くことができましたか。	4	
		3	
		2	
		1	
エ 友達の意見や考えを聞いて、自分の考えを深めることができましたか。	4		
	3		
	2		
	1		

## 実践事例 7 茨城県立土浦第二高等学校

URL <http://www.tsuchiura2-h.ed.jp/>

### 1 学校の概要

本校は、明治36年に茨城県立土浦高等女学校として創立され、本年創立101年目を迎えた。全日制普通科課程 1 学年 8 クラス編制で男子356人、女子599人、計955人である。卒業生は3万人を超え、数多くの有為な人材が県内外で活躍している。平成6年度からは男女共学推進校の指定を受け、男子生徒も数多く入学するに及び、国公立大・有名私大等への進学実績が大幅に向上してきている。また部活動に関しては、加入率も高く、熱心に活動しており、近年では少林寺拳法部、弓道部、水泳部、ソフトテニス部、陸上部等が関東大会、全国大会への出場を果たした。また化学部が平成13年の世界湖沼会議に参加したり、本年合唱部が全国コンクール銀賞を獲得するなど部活動においても大きな活躍を見せている。

#### (1) 本校の教育目標

- 心身の調和的発達をはかるとともに、個性の確立と人格の完成を目指し、平和な民主的社会の発展に寄与し得る人物の育成に努める。
- この教育方針を基礎に、21世紀を力強く生きる人材の育成をはかる。また、生徒個々の能力を最大限に伸ばさせることにより、生徒一人一人の自己実現を可能にし、地域から信頼される公教育機関を目指す。

#### (2) 重点目標

- ① 学習意欲を高め、確かな学力の定着を図るための教科指導体制を始めとする校内指導体制を確立する。
  - ② 自律性・社会性を育み、豊かな心を育てるための生活習慣を確立させる。
  - ③ 情報公開を積極的に推進し、開かれた学校作りを行う。
- 特に、本年度の重要課題は、「学力向上」、「生活習慣の確立」の2点である。

#### (3) 目標実現のための具体的な施策

- ① 学力向上対策
  - ア 効率的な学習指導の工夫をし、外部テストなどの平均偏差値55以上を確保できる指導を継続する。
  - イ 各教科で宿題（課題）を出しながら、3～4時間の家庭学習時間の確保を図る。
- ② 基本的な生活習慣を確立させるための対策
  - ア 保護者の理解と協力を得ながら、規範意識の向上やマナーアップを目指した継続的な校内外の指導を充実させる。
  - イ 保護者との連携を強化し、クラス懇談会の実施や個別指導の強化を図り、各生徒の課題解決をサポートする。
  - ウ 部活動や委員会活動への参加を奨励し、集団の中での「責任」、「個」の在り方等を考えさせる。

### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

(1) 自己評価

昨年実施した自己評価に関して、自己評価表の項目の見直し及び自己評価のさらなる効率的な実施方法やデータ処理方法の改善を図る。

(2) 授業評価

昨年度一部の教諭のみで実施された授業アンケートの全員実施を目指す。さらに実施後における、各教員及び教科の授業改善への意識づくりを図る。

(3) 単元評価

本年度の新しい試みである単元評価を実施する。本校の単元評価の方法、評価表の作成及び評価の生かし方等を研究する。

(4) その他の学校評価(保護者アンケート、生徒アンケート、授業公開のアンケート等)

自己評価のみならず、生徒・保護者による学校評価や外部評価も実施し、複数の評価形式、評価者で学校評価を実施し、複数の視点による学校評価をめざす。

3 実践内容

(1) 評価の種類と評価者

本校で本年度実施する学校評価，アンケート等の種類及び評価者は表1のとおりである。学校評価5種類と，授業評価・単元評価を各1種類ずつ，細分して7種の評価及びアンケートを実施した。

表1 評価の種類と評価者

	教職員	生徒	保護者 (一般)	保護者 (PTA評議員)	学校 評議員	外部
学校評価 (自己評価表)	○					
学校評価 (評議員アンケート)				○	○	
学校評価 (保護者アンケート)			○	○		
学校評価 (生徒アンケート)		○				
学校評価 (公開授業アンケート)						○
授業評価 (授業アンケート)		○				
単元評価 (単元評価表)	○	○				

(2) 年間評価計画

① 実施の推進

学校評価及び授業評価・単元評価等を推進するために学校評価検討委員会（以下委員会と略す）を設置した。その目的は本校に適する学校評価システムの検討とその構築及び学校評価の実施と評価後の集計・分析，さらに結果の公表である。また学校評価に関する校内の共通理解を得るために，学校評価に関する情報の収集と伝達も委員会の重要な目的の一つである。

同委員会の構成員は以下のとおりである。

委員長 教頭

委員 事務室長，各部の部長，各学年主任

② 評価計画

年間の評価計画及びそれに付随する委員会の開催や検討事項については，表2の年間評価計画表に示すとおりである。

教員の自己評価，生徒アンケート，保護者アンケート及びPTA評議員・学校評議員による学校評価は年1回12月に実施する。

生徒による授業アンケートは年2回9月～10月及び3月に実施する。

単元評価は、各教科の単元ごとに年間を通して実施する。

外部評価は、11月5日の公開授業に來校する中学生の保護者に対し、公開授業のアンケートの中で本校の学校評価もお願いして実施する。

### (3) 授業アンケートについて

#### ① 実施の目的

自己評価や学校経営計画の評価は、教員の視点或いは学校経営の立場からの、いわばトップダウンの評価に偏りがちである。学校の主体は生徒であるとの見地からすれば生徒の学校生活の大部分を占める授業時間をより有効なものとするのが本校の教育方針の重点項目でもあり、授業がすべてとの観点に立てば、授業評価を起点として、学

校改善に結びつけていくことが極めて重要な方法となる。授業アンケート【資料1】(p.78)を実施することにより、改善点や課題を発見し、個人・教科レベルでの授業改善に努力することで、生徒にとって理解しやすい授業の展開が可能となり、学力の向上が期待できる。これにより、本校に寄せられる大きな期待でもある生徒の進路希望の実現を、達成可能な課題として提示することができる。

#### ② 実施方法

表2 年間評価計画表

月	分掌・会議	検討内容・実施事項
5.28(金)	第1回委員会	本年度学校評価についての検討事項 ① 本年度学校評価の実施について ② 授業評価・単元評価について ③ 作業分担について ④ web上の公開
6.24(木) 6.28(月)	職員会議 第2回委員会	第1回委員会の報告 (1) 平成16年度学校評価実施計画(案)について (2) 授業評価に関して (3) 単元評価に関して
7.14(水)	第3回委員会	授業評価・単元評価の実施計画のまとめ ① 授業評価 ② 単元評価 ③ その他の評価の検討
7.16(金) 7月下旬～	職員会議 各教科	第3回委員会の報告及び各教科への依頼 授業評価・単元評価の評価シートを作成
8月下旬	事務局	提出された各教科の授業評価・単元評価表のまとめ
9月初旬～	各教科	授業評価を実施し、集計・分析等を行う
10月初旬 10月中旬	各教科 第4回委員会	授業評価の実施、集計・分析 (1) 授業評価を実施しての問題点等の検討 (2) 保護者・生徒アンケート改訂案の検討 (3) 学校評議員会の内容検討
11.26(金)	第5回委員会	(1) 内部評価・各種アンケート・外部評価等シートの決定 (2) 各種評価計画のタイムスケジュールの検討
11月	職員会議	委員会報告(内部評価、外部評価の実施計画)
12月初旬	委員会各係	(1) 内部評価、外部評価、アンケート等の実施 (2) 評価のまとめ(集計・分析、公表準備) (3) 平成16年度学校評価のまとめの作成開始
1月中旬	第6回委員会	(1) 平成16年度学校評価のまとめの提示 (2) 各部、学年に対し内部、外部評価に対する反省、次年度の目標や改善案の検討依頼
1月下旬	委員会 職員会議	平成16年度学校評価報告書の作成 平成16年度の学校評価の報告
2月初旬 2月下旬	各部・各学年 第7回委員会	課題の把握及び次年度の目標、改善策の検討 平成16年度学校評価及び次年度の課題 (1) 本年度の学校評価の方法、内容、組織、体制等の検討 (2) 次年度の改善策の検討
3月中旬	各教科 職員会議 各部・各学年	授業評価実施 (1) 平成16年度の学校評価の最終報告 (2) 次年度の学校経営方針の提示(学校長) 次年度の重点目標等(案)及び本年度の課題に対する改善策の作成

担当教員の該当授業時間に実施する。アンケートのデータ処理方法は今年度導入したマークカード(学年+組+番号+50項目・10選択肢)を利用することとした。

データ処理はデータベースソフトの桐を使用。

マークカードのみを委員会に提出し、アンケート用紙は各教員の手元に置き、意見・希望欄を各自活用するものとした。

### ③ 集計内容

- ・個人ごと、各教科ごとの質問項目の生データ及び平均値
- ・クラスごとの質問項目の平均値
- ・その他の集計

### ④ 評価の活用

結果に関しては後述の単元評価とともに、個人の以後の授業方法等の改善に役立てるとともに、各教科において教科会や学年担当者間で単元の指導目標の設定や授業速度・理解度について検討を加えることにより、より良い授業への改善と適切な教材選定及びその配置、また効果的なカリキュラム編成へと繋げていくことが理想である。

## (4) 単元評価について

### ① 実施の目的

本校における単元評価の実施の目的は、前述の授業評価と同様に授業評価を起点とした学校改善を実施するためのものである。ただし、単元ごとの詳細なる評価を実施することは困難であるため、評価の項目は2項目のみとした。さらに年間を通しての指導目標を達成するための指導内容も評価するものとした。また、単元評価表(一部抜粋)【資料2】(p.79)は、各教科の指導予定表も兼ねている。

### ② 実施方法

評価の方法は特別な評価表等は採用せず、日々の授業での生徒の反応の有無や理解度の観察、小テスト、定期考査、外部模試等による理解度把握により評価する。

評価の記入は個人または学年担当者の合議で記入する。

### ③ 評価の活用

年度末に評価を完成し、各教科でまとめる。次年度当初に前年度の単元評価表を基に、新たに評価表を作成し、年間授業計画を設計する。

## (5) 生徒アンケートについて

### ① 実施の目的

授業評価の視点と同様に、教職員による学校評価だけではなく、生徒の立場からの学校評価も極めて重要なものである。

内容は学校全般から進路指導、生徒指導等の各分掌及び学習指導に関する重点項目を生徒用にアレンジしたものである。

### ② 実施方法

評価は12月に実施。

評価段階は「よくわからない」を含む5選択肢とし、ホームルームの時間等を利用してマークカードに回答する方法を採用。

自由意見の集約については、各クラスごとにホームルーム担任に依頼。

データの処理は委員会で実施。

③ 集計内容

- ・各評価項目の学年ごと，クラスごとの換算点の平均
- ・その他の集計

④ 評価の活用

アンケート集計は，次年度の学校経営計画において各部・各学年の重点項目等に反映させ，対応策を検討の上，改善に努める。

(6) 保護者アンケートについて

① 実施の目的・方法

保護者による学校評価は保護者の本校に対するニーズの把握や本音の聴取を目的とする。

全保護者を対象にマークカードにて実施するが，自由意見の聴取もまた重要であるので，アンケート用紙【資料3】(p.80)も同時に回収し，生の意見も採り上げる。

集計方法は，生徒アンケートと同様に処理する。

② 評価の活用

アンケート集計は，次年度の学校経営計画において各部・各学年の重点項目等に反映させ，その対応策を検討し，改善に努める施策を次年度に実施する。また，保護者のアンケートに関してはWebページに掲載し，4月以降に公開する予定である。

(7) 自己評価について

① 実施の目的

本校がより開かれた特色ある学校づくりを進めていくために，学校運営に関する全般的なことや各部・各学年に関わる教育諸活動の自己点検・自己評価が可能となる自己評価表（一部抜粋）【資料4】(p.81)を作成し，自ら評価を行う。

② 実施方法及び改善点

昨年とほぼ同様の自己評価表を用いて，評価を全教員及び一部の事務職員を対象にマークカードで実施する。今回の自己評価表に関しては，昨年度の反省点として，「項目の精選」，「実施方法の簡略化」の2点に関して改善を図った。

③ 評価の活用

評価の活用に関しては集計・分析して，改善策を検討するとともに，今後の学校経営計画や各部・各学年の目標設定に活用する。

(8) P T A評議員・学校評議員の評価について

教職員の内部評価については，一般的に甘い評価に陥りがちな傾向にあるため，本年度は本校教職員の使用した自己評価表において，P T A評議員・学校評議員による学校評価として適切でないと思われる項目や表現・内容を修正した評議員アンケートとして，共通項目の評価を実施した。これにより，同一項目に関して自己評価との意識のずれを認識することで，より適切な保護者の学校に対するニーズを発見することが可能となり，保護者の視点における改善点を明確にすることができた。

(9) 外部評価について

この評価は，本校を志望する生徒の保護者を対象として，いばらき教育月間中の11月5日に実施した。公開授業の参観や校内見学終了後，本校の学校説明会の中で表3の公開授業アンケート用紙を用いて実施した。本校に対する自由な，感覚的ともいえる評価ではあ

るが、本校とあまり接点を持たない一般の方々の本校のイメージであるといえよう。イメージもまた重要な評価ファクターであり、考慮すべき評価であると考ええる。

#### (10) 実践の成果

各種評価についての検討や評価の実践過程の中で、以下のような成果が得られた。

- ① 学校評価に関する教職員の共通認識と評価へのアレルギーの緩和及び学校改善への意識の芽生えが見られた。
- ② 学校経営計画の達成度を検証する手段が作成できたことにより、課題が容易に、定量的に把握することができ、改善すべき内容を明確にすることができた。
- ③ 全員が授業評価及び単元評価を実施することにより、各自が授業に関する改善点を見出し、同時に教科としての課題も発見することができたので、個人・教科での授業を起点とした学校改善が可能となった。また、学校全体での授業改善の基礎と気運が確立できた。

#### 4 本校からの提言

- (1) 学校評価を効率的に実施するには、学校評価に関する各種評価シートやアンケート等の評価項目の精選と実施方法の省力化、集計・分析方法のマニュアル化及びデータベースを利用した評価システムの構築が設計できると良い。
- (2) 学校評価は改善すべき内容が明らかになっても、また、いかに精緻な分析を実施しても、学校改善の方法や具体的な施策を創案し、それを実施しようとする全校的な取り組みがなされなければ、評価のための評価で終わってしまう危険性が多分に存在する。そのため、検討にかかる時間を十分に確保し、評価のための時間は最小で切り上げられる工夫と計画が必要である。課題を学年と校務分掌間で相互にリンクさせ、効率的な学校改善へと繋げ、それらをどのように実践していくかが本校の次年度の課題でもあり、成否の鍵である。

表3 公開授業アンケート

本日はお忙しい中、公開授業を参観していただきありがとうございました。

このアンケートは、よりよい土浦第二高等学校を創る参考にするためのものです。

下記のアンケート項目について  
『当てはまる』…………… 4  
『だいたい当てはまる』…………… 3  
『あまり当てはまらない』…………… 2  
『当てはまらない』…………… 1

} いずれかを選択してください。

回答は、マークカードの該当欄に正しくマークしてください。

分野	アンケート内容	記入欄
学校全般	1 本校の学習環境・教育設備等は十分に整っていると思いますか。	
	2 学力を高めるために、熱心な学習指導が行われていると思いますか。	
	3 生徒は、楽しく学校生活が送れていると思いますか。	
進路指導	4 進路目標の設定とその実現に向けての指導は十分になされていると思いますか。	
	5 本校の進学実績は十分であると思いますか。	
生徒指導	6 服装容儀や頭髪等に関する指導は十分になされていると思いますか。	
授業関係	7 授業内容に興味・関心が持てましたか。	
	8 指導方法に工夫や熱意が感じられましたか。	
	9 授業は明確でわかりやすかったと思いますか。	
	10 生徒は集中して授業に取り組んでいたと思いますか。	
	11 授業に充実感を感じましたか。	

意見・希望



【資料 1】

授 業 アンケート

このアンケートはより充実した授業を作るためのものです。  
 授業にかかわる次のアンケート項目について、

『当てはまる』……………	と思う場合は	4	} マークカードに いずれかの数値を マークする。
『だいたい当てはまる』……………	〃	3	
『あまり当てはまらない』……………	〃	2	
『当てはまらない』……………	〃	1	
『わからない』……………		0	

また、その他意見があれば“意見・希望”の欄に簡単に記入してください。

解答は、マークカードの該当欄に正しくマークする。

範疇	アンケート項目		記入欄
授業に関して	1	授業内容が理解できる。	
	2	授業の進度はちょうど良い。	
	3	授業内容は難しいと感じる。	
	4	学習内容に興味・関心が持てた。	
	5	質問には丁寧に答えてくれた。	
	6	指導方法に工夫や熱意が感じられる。	
	7	生徒への質問は適切に行われている。	
	8	授業はポイントが明確で分かりやすい。	
	9	板書の仕方は見やすく、整理されている。	
	10	説明の言葉は明瞭で聞きやすい。	
自己に関して	11	課題や提出物の量は適切である。	
	12	自分自身は授業中、集中して学習に取り組んでいる。	
	13	その日の授業に対する予習は必ずしている。	
	14	クラス全体が学習に真剣に取り組んでいる。	
総合	15	課題・提出物は期限を守って出した。	
	16	授業に充実感を感じる。	

意見・希望
-------

ご協力ありがとうございました。

【資料 2】

平成16年度 第1学年 数学単元評価表

科 目【単位数】 数学 I 【3単位】 教科書 数学 I <東京書籍>  
数学 A 【2単位】 数学 A <東京書籍>  
 指導担当者 1, 2 組 ○○○○  
3, 4, 5 組 ○○○○  
6, 7, 8 組 ○○○○

指 導 目 標 (達成課題)	指 導 内 容 (課題達成のための活動)	評 価
1 基礎的・基本的事項の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習・復習の励行と定期的な「4step数学 I (数学A) 完成」ノートの提出をさせる。</li> <li>・ 小テスト、まとめテスト、ホームルームテスト等を実施する。</li> </ul>	
2 発展的な問題に対応できる学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各章の終わりに補助教材「level up」を利用して、発展的学習を行う。</li> </ul>	
3 外部の模試で平均偏差値55を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学に強い興味・関心を示す生徒の発掘と彼らへの指導 (週1～2回の補講等) をする。</li> </ul>	

月	週	時間数	単 元 名 (項 目)	配当時間	指 導 目 標	評 価	
						理解	進度
4	7 -- 9	0	数学 I 1章 数と式 1節 式の計算 ① 整式 ② 整式の加法・減法・乗法 ③ 因数分解 問題 実数 実数 平方根を含む式の計算 問題 練習問題 「LEVEL UP」	1 2 3 1 2 1 2 1	1 数や式の計算の基本法則を理解させる。		
	12 -- 16	5			2 式の加法・減法と乗法の根拠を理解させ、公式を利用して、効率よく多項式の計算を行う能力を養成する。		
	19 -- 23	5			3 実数の概念をまとめさせ、実数と数直線上の点との対応を理解させる。また、絶対値の基本的な性質を理解させる。		
	26 -- 30	4			4 根号を含む式の計算を行う能力を育成する。		
		/14					
5	3 -- 7	2	2章 方程式と不等式 1節 1次不等式 ① 不等式とその性質 ② 1次不等式の解法 ③ 1次不等式の応用 問題 2節 2次方程式 ① 2次方程式の解法 ② 解の公式 ③ 2次方程式の実数解の個数 ④ 2次方程式の応用 問題 練習問題 「LEVEL UP」	1 1 2 1 1 1 1 1 2 1	1 不等式の性質を理解させ、1次不等式を解く能力を養成する。		
	10 -- 15	5			2 2次方程式の解の公式を理解しそれを用いて解を求める力を身につけさせる。また、2次方程式の解の個数を調べることができるようにする。		
	17 -- 21	4					
	24 -- 28	2					
		/13					
6	5/31-- 4	5	3章 2次関数 1節 関数とグラフ ① 関数 ② 2次関数とそのグラフ ③ 2次関数の決定 ④ 2次関数の最大・最小 問題 2節 2次関数のグラフと2次不等式 ① 2次関数のグラフとX軸の共有点 ② 2次不等式 ③ 2次不等式の応用 問題 練習問題 「LEVEL UP」	1 4 2 2 1 3 2 2 1 2 2	1 関数の概念を明らかにする。		
	7 -- 11	4			2 関数のグラフの意味を理解させあわせてグラフの移動について指導する。		
	14 -- 18	4			3 2次関数の特徴をグラフによって明らかにし、それらの特徴を利用して、関数の最大・最小を求めることを指導する。		
	21 -- 25	4			4 2次方程式・2次不等式の解を2次関数のグラフとX軸との位置関係によってとらえることを指導する。		
	28 --7/2	5					
		/22					

(一部抜粋)

【資料 3】

保護者アンケート

- 4：そう思う。  
 3：どちらかと云えばそう思う。  
 2：どちらかと云えばそうは思わない。  
 1：そうは思わない。  
 0：よくわからない。

） マークカードに  
 いずれかの数値をマークをして下さい。

分野	アンケート内容	回答欄
学校全般	本校の学習環境・教育設備等は十分に整っていると思いますか。	
	本校の実績(進学・部活動・校外活動等)に関して、十分であると思いますか。	
	学力を高めるために、熱心な学習指導が行われていると思いますか。	
	お子さんは毎日、楽しく学校生活を送っていると思いますか。	
進路指導	進路に関する情報が十分に提供されていると思いますか。	
	進路実現に向けての指導が十分になされていると思いますか。	
生徒指導	服装容儀や頭髪等についての指導は十分であると思いますか。	
	心の問題に関する対応やカウンセリングは充実していると思いますか。	
特別活動	部活動は活発に行われていると思いますか。	
	部活動、生徒会活動、学校行事等で豊かな人間性が育成されていると思いますか。	
渉外 PTA	PTA活動は活発に行われていると思いますか。	
	PTA活動の案内や広報紙等は家庭にきちんと届いていますか。	
環境保健	本校は安全で清潔な学習環境であると思いますか。	
学校との 連携	生徒の状況について、学校(学年・担任)と保護者との連携は緊密であると思いますか。	
	学校は生徒や保護者の悩みや心配事に親身になって相談してくれていると思いますか。	

その他の意見

【資料 4】

土浦第二高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	心身の調和的発達をはかるとともに、個性の確立と人格の完成を目指し、平和な民主的社会的発展に寄与し得る人物の育成に努める。 この教育方針を基礎に、21世紀を力強く生きる人材の育成をはかる。また、生徒個々の能力を最大限に伸ばさせることにより、生徒一人一人の自己表現を可能にし、地域から信頼される公教育機関を目指す。			
	昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	達成状況
1 創立100年を迎えるにあたり、新たな校風の樹立。 2 学習指導の充実・強化。 3 進学指導の実績向上。 4 部活動の活性化。	1 学習意欲を高め、確かな学力の定着を図るための教科指導体制を始めとする校内指導体制を確立する。 2 自律性・社会性を育み、豊かな心を育てるための生活習慣を確立させる。 3 情報公開を積極的に推進し、開かれた学校作りを行う。	1 授業時間の確保。 授業の工夫・改善。 3年間の到達度を明確にした各教科のシラバスの作成。 授業に対する予習・復習を通して、自学自習の習慣化を図り、自宅学習時間を増加させる工夫。 自宅学習時間目安。 1年3時間以上、2年4時間以上、3年5時間以上。 担任と生徒の面談の推進。 土曜日における学校開放及び補習等の課外授業の実施。 長期休業中における組織的・計画的・集中的な補習の実施。 遅刻指導等を通して、学習時間確保をサポート。 学校行事・ホームルーム・委員会活動を通して、学校生活の満足度を高める工夫。 図書館等の施設の充実を図ることにより、よりよい学習環境の構築。 安全で清潔な学習環境の整備。 2 安全の日の巡視指導を通して、交通マナー遵守姿勢の確立。 校舎内外での挨拶の励行。 遅刻指導等を通して、基本的な生活習慣を確立させ、自主的に物事に取り組む姿勢の育成。 規律・規範を遵守させ、基本的な生活習慣の重要性と責任について自覚させる工夫。 学校行事・部活動・委員会活動を通して、豊かな心の育成。 教室を始めとした校内美化活動を通して、豊かな心の育成。 3 保護者と担任との懇談会を計画的に実施し、教育活動への理解と支援を求める工夫。 学校行事への保護者の積極的参加の工夫。 ホームページの定期的更新。 学校評議委員会の活用。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への 主な課題
教科指導	(1) 効果的な教授法を研究して質の高い授業を展開し、生徒の進路希望や個性に応じた学力を身につけさせる。	・理解しやすい授業を実施する。 ・生徒の進路希望や能力の実態に即した授業を実践する。 ・生徒の進路希望に応じた学力を身につけさせる。 ・相互の授業参観を行い、教授法の向上、改善に努める。 ・授業改善のために、生徒による授業評価を行う。		

No. 2

教科指導	(2) 適切な教具・教材を選択し、生徒の学習意欲と学力の向上を図る。 (3) 3年間を見通した授業計画を立案し、授業時間の確保に努めながら計画を達成する。 (4) 生徒の進路実現可能性と個性を的確に把握できる評価方法を検討し、実施する。	・生徒の実態に即した教材や教具を使用する。 ・IT機器やAV機器等の活用を図り、授業の効果を上げる。 ・授業の目的確かな年間指導計画を作成し、チェックを怠らせずに、計画達成に努める。 ・出張、年休等の場合には授業交換や補填を行い、授業時間が欠けないように努める。 ・課外等を通して、生徒の更なる能力の向上に努める。 ・生徒の学力を適切に評価するための方法、基準等を再検討する。 ・生徒評価の結果を次の教科指導に生かすように努力する。		
特別活動	(1) 特活関係行事全体を見直し、生徒の自主的活動を推進する体制を整備する。 (2) 生徒会活動の活発化と充実を図る。 (3) 部活動への積極的参加を推進すると同時に、指導体制の充実を図る。 (4) 家庭クラブ活動の活性化を図る。	・各行事の計画は、年間計画を見据えた上で立案する。 ・各行事の企画、運営にあたっては、各学年や各分掌との連携を十分に図る。 ・各行事は、生徒の自主性や積極性を発揮できる環境や機会を提供できるように計画する。 ・各行事の企画、運営にあたっては生徒の自主性や積極性を育むよう指導する。 ・各委員会の、計画的で活発的な活動を推進する。 ・あゆな祭においては、生徒の自主性、創造性が発揮できるように十分に検討し、より質の高いものに改善する。 ・生徒会誌の誌面を刷新し、内容の充実を図る。 ・HP等を活用して、生徒会活動の広報を活発化する。 ・さわやかキャンペーン等に積極的に参加し、規範意識の高揚やマナーの遵守等に努める。 ・部活動への参加を増加させ、たくましさや豊かな心を育成する。 ・部活動の指導者を学校外からも招き、指導体制を充実させる。 ・機関誌発刊にあたっては、家庭クラブの活性化に寄与するように努める。 ・主催行事への生徒の積極的参加を促す。		
生徒指導	(1) 生徒が規律ある学校生活を送れるように、教職員・保護者一体となった指導体制を整備し、指導を継続する。 (2) 生徒が自ら規範意識を高め、ルールを守れるようにするため、生徒会等の活動を中心に据えたマナーアップ運動を展開する。 (3) 教育相談体制の充実を図り、生徒の心の細かな変化に適切に対応できるようにする。	・指導方針に関し、教職員と保護者の共通理解を前提として指導にあたる。 ・PTA生徒指導委員会や、交通安全協会との連携を密にしながら、指導にあたる。 ・登校指導や巡視等を計画的に実施し、成果が上がるように努める。 ・「安全の日」を利用して、特に交通安全指導を徹底する。 ・ホームルーム活動を通じて、規範意識を高め、ルールを遵守する心を育てる。 ・生徒の交通安全委員会等の活動により、交通マナーアップを図る。 ・学校カウンセラーを配置し、効果的な教育相談を行う。 ・教職員の教育相談技術向上のための研修を計画的に実施する。		

(一部抜粋)

## 実践事例 8 茨城県立下館工業高等学校

URL <http://www.shimodate-th.ed.jp/>

### 1 学校の概要

茨城県西部に位置し、機械、電気、建設工学、電子の4学科からなる専門高等学校である。恵まれた学習施設、スポーツ設備、充実した工業設備を擁している。生徒達は、これらを活用した学習活動・部活動に積極的に参加し、心身ともに豊かな人間性を育てている。

また、各種資格試験に意欲的に挑戦し多くの資格を取得している。進路に関しては生徒の半数が隣接する工業団地等の企業へ就職し、半数が大学・専門学校等へ進学している。

#### (1) 本校の教育目標

地域企業等との連携を確立し、地域社会から求められる技能・技術者を育成する。

#### (2) 重点目標

以下のことを重視し、学校経営を図る。

- ① 進路指導を核とした学校運営を確立する。
- ② 生徒の基礎学力及び創意工夫の能力を伸ばすべく授業重視の学校運営を確立する。
- ③ 創意工夫をする態度を育成する教科指導法を研究し、特色ある授業展開を推進する。
- ④ 自発的な学習意欲の高揚を目指して特色ある教育課程の編成を研究し展開する。
- ⑤ 部活動やボランティア活動をとおして豊かな人間性を育てる取組を定着させる。これらを網羅すべく、学習指導・進路指導・生徒指導・特別活動等の課題を挙げ、その改善に努める。

#### (3) 目標実現のための具体的方策

- ① 3年間を通しての進路指導の方針・計画を明示する。
- ② 各学年における具体的目標と取組を設定し、実践する。
- ③ 進学希望者が過半数を占める専門高校としての実態に即し、進学希望者に対する学力の定着を図る取組を研究し実践する。
- ④ 就職・進学希望者向けの課外活動等を展開し、第1希望の達成率を上げる。
- ⑤ 各種年間指導計画を公表し、学校評価の充実を図る。
- ⑥ 工業高校としての指導内容と成果を具体的に公開する。

### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

#### (1) 学校評価委員会（以下委員会と略す）の設置及び内部評価の実施について

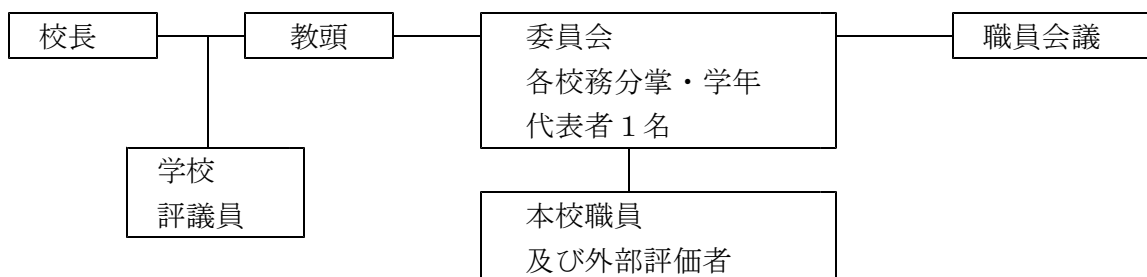
平成15年度は、各校務分掌・各学年・各教科のいずれも代表者で組織し学校評価の概念を認識すべく研修を推進した。

試行として、本校の教育方針に則り、評価項目を検討し、内部評価（自己評価）のみ年度末に実施した。

#### (2) 委員会の設置及び外部評価の導入について

平成16年度は、各校務分掌・各学年の代表者で組織し、校長の定めるところの学校経営計画に則り、評価項目の検討及び評価結果の公表も含めた外部評価の試みを実施する方向性を確立した。

図 1 学校評価組織図



### 3 実践内容

#### (1) 平成15年度内部評価（自己評価）について

委員会及び職員会議を経て、教職員が行う自己評価表を作成し年度末に実施した。

この評価表の作成については、全職員で評価することから、各評価項目についての具体的方策の実施例を記載し努力目標を明確にし、それらについて評価を行った。

毎年度末には総括という形でその年度の反省事項や次年度の改善点等について協議する機会があるが、教育方針の一つ一つを確認しながら評価することができた。また、次年度の具体的方策について、細部にわたり改善点を考えることができた。

#### (2) 平成16年度の学校評価計画について

表 1 学校評価年間計画

月	活動内容	月	活動内容
4	委員会の立ち上げ。 学校評価計画・教育方針16年度重点事項の提示 第1回委員会 評価項目・具体的方策の決定	10	第5回委員会 生徒の授業評価のアンケートの設問の確認と集計について検討および実施
		11	第2学期中間考査後に授業評価アンケートを実施し集計・分析を行う。
5	第2回委員会 外部評価の検討（評価者を中学校の教員，本校生徒・保護者，学校評議員とする。）	12	第6回委員会 外部評価のアンケートの設問の再検討。
6	第3回委員会 各評価のアンケート項目の設問検討と研究。職員会議での学校評価の共通理解を図る。 第4回委員会 評価の研究・研修		第2学期期末考査後に授業評価アンケートを実施し集計・分析を行う。
		1	学校評議員・保護者に評価アンケートを依頼し，集計分析を行う。 生徒による授業評価の実施
7	支部別PTAにて，学校評価について説明する。	2	自己評価の実施 まとめ及び報告書作成
8	中学校の教員に進学説明会の際，学校評価について説明する。		
9	公開実習の際，中学校教員にアンケートを依頼する。集計・分析を行う。		
		3	次年度の学校評価計画立案

表2 学校評価の実施計画

評価の種類	実施時期	対象者
中学校の教員による評価 (外部)	9月中旬	中学校の教員
生徒による授業評価 (内部)	10月・1月	本校生徒
生徒の保護者による評価 (外部)	1月	本校生徒保護者
学校評議員による評価 (外部)	1月	学校評議員
自己評価 (内部)	2月	本校職員

表1には、学校評価年間計画を示し、表2には学校評価の実施計画を示した。学校評価については委員会で検討または研究を重ね、職員会議を経て実施するよう努めている。

当初、生徒による授業評価の職員の認識は、職員個人が評価を受けるということであった。これを受け委員会では、この考えを転換させるため検討を重ね、次のようにして授業評価を行う了承を得た。「生徒の学力と意識の向上を図るために単元末の評価を受ける」ということである。また、授業評価を実施するにあたっては、授業評価以外の外部評価も実施してよいとの共通理解も得られ、実施に向け協力体制の確保ができた。

### (3) 内部評価の実施について

#### ① 生徒による授業評価について【資料1】(p.88)、【資料2】(p.89)

##### ア 目的

生徒個々の「状況を把握する」ために授業評価を行う。

##### イ 集計方法

- ・アンケート結果は各教科担任が、各項目ごとに平均を求め、5段階評価で処理した。各項目ともB段階（よい）という評価結果が得られた。
- ・委員会で結果を考察した内容を以下に示す。

現在の授業展開でよいという結果より、今後は高い次元の授業の展開や、定期考査において難易度の高い問題の出題であっても、生徒達は十分に対応ができると考えられる。

##### ウ 評価結果の扱いについて

結果は教科担任へ戻し、次年度に向け活用してもらおう。また、この評価結果をもとに校内研修（全体或いは教科）を実施し、改善策を指導計画に反映させることで組織的な授業改善を図るよう努めたい。

##### エ 実施して期待できるもの

生徒による授業評価は昨年度実施の方向性を示したが、職員の理解が得られず見送りとなった。職員個人の評価が全てという考えから、教科（単元）について評価することで、生徒個々の状況を把握し学校全体が努力することができるということで実施の運びとなった。

従来は、職員の様々なやり方で、年間を通じた指導等についてどうであったか生徒に問い、その意見を踏まえ教材研究やよりよい授業展開に生かしていた。

今回初めて全教科を通して実施した結果、生徒の学習に対する考え方や学校に対す

る気持ちをとらえることができた。一方では今回の実施時期は中間考査直後であることから、生徒の得点とそのアンケートの評価との関連等を分析することもできる。その結果、単元の内容を理解していると回答している生徒が、必ずしも中間考査で高得点を得ているとは言えないことが予想される。

委員会では単元内容理解とペーパーテスト得点の相関、生徒個々がどれだけ努力したかも考察したかった。更に高い授業評価の結果が得られたとき、その結果と生徒の成績の相関も関心をもたれるところである。

今後2回目の授業評価を行う予定であるが、結果の分析については、1回目との相関にも注目したい。

授業評価を展開する中で、生徒は職員個人を評価して然るべきという意見も多少聞かれた。授業が仕事ならば当然のことで、その評価結果を謙虚に受け止め考慮して次の授業に臨むことがなければ、発展はない。

ただ、今年度初めて実施したこの評価結果に対しては、課題も二つほどある。一つは、どれだけの信頼度があるか。もう一つは、なぜ生徒が授業評価をするのか十分生徒を理解させることができたかということである。

## ② 本校職員による自己評価について

### ア 目的

年度当初に掲げた目標が達成されたか評価する。

### イ 集計方法

- ・委員会で行い、5段階評価で処理する。
- ・委員会で結果を考察する。

### ウ 評価結果の扱いについて

今後職員会議で報告をして意見を募り、改善すべき点や方策等を検討し、次年度へ反映させ学校経営計画を作成する。

### エ 実施して期待できるもの

教育活動をどの程度まで有効に機能させているか具体的・客観的に評価することができ、どの部分が充実していてどの部分が不十分か明確化されるとともに、次年度以降の向上につながる。

## (4) 外部評価の実施について

### ① 中学校の教員による評価について

#### ア 目的

開かれた学校にするためには、中学校の先生方が本校に対してどのような考えをもっているのか認識する必要がある。そのために、本校を中学校に紹介する際、どのような点を明確にすればよいのか助言をもらう。

#### イ 集計方法

- ・委員会で行い、データの円グラフ化を図る。
- ・委員会で結果を考察する。

#### ウ 評価結果の扱いについて

職員会議で報告をして意見を募り、改善すべき点や方策等を検討し、次年度へ反映させる。

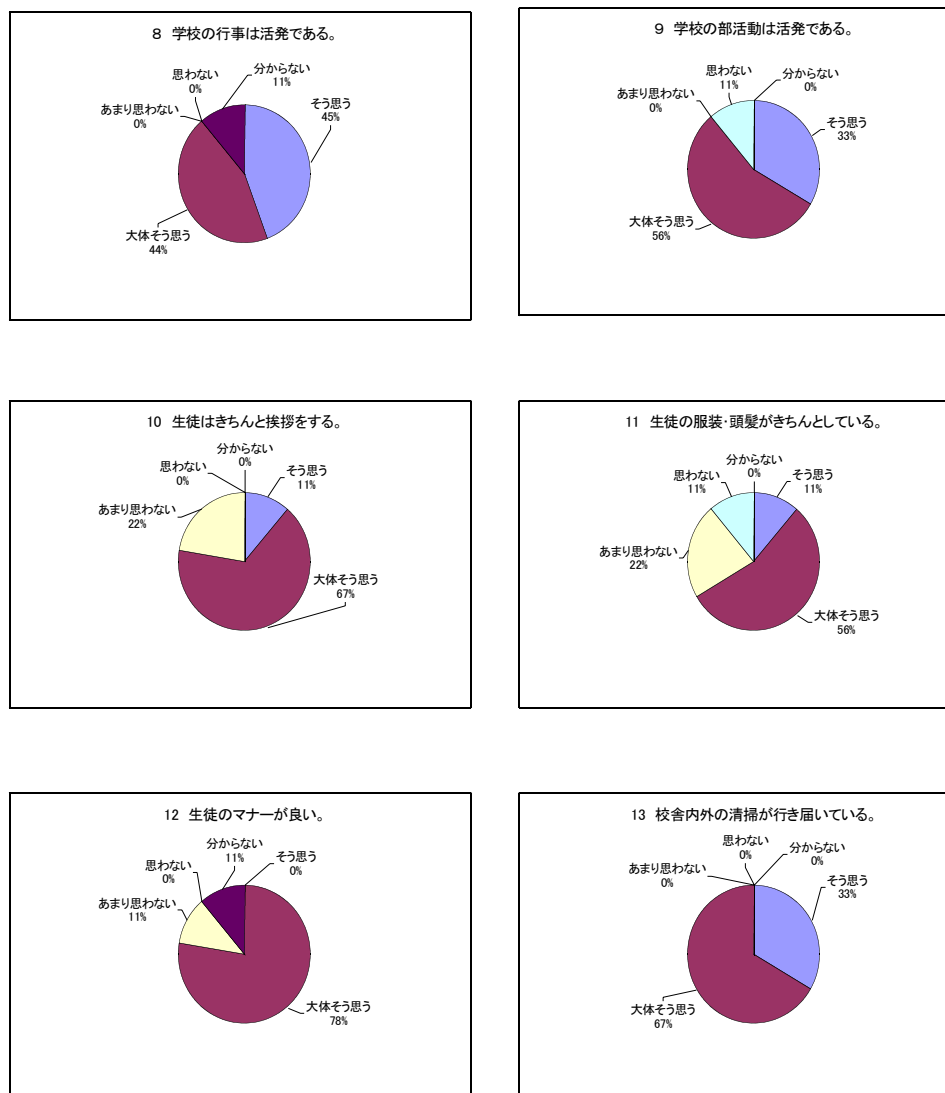


## エ 実施して

進学説明会や公開実習等で本校の学校経営計画を報告し協力を得た。以前にも学校評価という形ではないが公開実習等に関しては、必ずアンケートは実施しており、中学校のニーズに応えるべく努力はしている。

しかし、今回の評価結果の一部を図2で示すが、そう思う・大体そう思うを合わせても100%には達しない項目も多かった。今後も本校を中学校の先生に、より一層理解してもらえるよう努力することも一つの課題である。

図2 下館工業高校の印象について評価結果



## ② 学校評議員による評価について【資料3】(p. 90)

### ア 目的

本校が地域でどのように受け止められているかを知るとともに、本校生徒の様子を見てもらい、学校経営計画の達成状況の確認と助言を受ける。

### イ 集計方法

- ・委員会で行い、データの円グラフ化を図る。

- ・委員会で結果を考察する。

ウ 評価結果の扱いについて

職員会議で報告をして意見を募り、改善すべき点や方策等を検討し次年度へ反映させ学校経営計画を作成する。

エ 実施して期待できるもの

第1回目の学校評議員会において、学校評価の趣旨と学校経営計画を説明したところ、学校評議員は、この取組に大変興味をもたれたようであった。

学校評議員は、地域にかかわりの深い方々であることから、本校に対しての情報を収集することが容易にでき、かなり客観的な意見が得られる。また、文化祭や課題研究発表会等を見学していただくことで、本校においての生徒たちの活動を具体的にとらえた上での評価が期待できる。

③ 生徒の保護者による評価について【資料4】(p.91)

ア 目的

保護者が学校に期待したとおり、あるいは学校が計画したとおりの成長が生徒に見られるのかを確認する。

イ 集計方法

- ・アンケート結果は各学年で集計し、委員会で必要に応じグラフや5段階で処理する。
- ・委員会で結果を考察する。

ウ 評価結果の扱いについて

今後職員会議で報告をして意見を募り、改善すべき点や方策等を検討し、次年度へ反映させ学校経営計画を作成する。

エ 実施して期待できるもの

7月の支部別PTA総会で学校経営計画の説明と学校評価の趣旨を説明した。意見を自由に記載できるスペースも用意したことから本音を聞けるのではないかと推察できる。また、本校に対してどの程度の理解があるか、どの程度本校を認識しているかも同時に捉えることができるとともに、保護者からの協力も期待できる。

#### 4 本校からの提言

(1) 学校評価の理解と実施について

職員の学校評価に対する共通理解を得るために、その目的を今後も研修会等を開き深めることが重要である。

また、外部評価を行うためには、評価の趣旨を十分に理解してもらうとともに、目指す学校像の情報提供が大切である。

(2) 留意すべき点について

評価及びその結果の公表に関しては、1年間という範囲で考えるものと、評価を受けた時点で随時変更するものがある。年度途中で問題点を改善したり具体的方策を変更したりしても何ら問題はない。中間的な見解を地域に公表し、意見を問う姿勢すなわち常に改善を心がける姿勢が大切である。

【資料1】生徒の授業評価に必要な教科年間指導計画（抜粋）

平成16年度 第3学年 年間指導計画

科目（単位数）現代社会（3） 使用教科書（出版社）現代社会（東京学習出版）

指導者 \_\_\_\_\_ 実施クラス 建設工学科A組

指導目標	指導内容
<p>高校生に相応しい、「現代社会」に関する一般常識を習得し、特に就職試験・大学推薦入学試験等に必要な知識を身につける。現代の社会を理解し、考察する力を高める。</p>	<p>一般常識のプリント（質問形式）を使用して自主学習させ回答をするなかで説明等を行う。教科書は参考書として活用させ、生徒個々の実力を明確にし、希望者には課外を実施する。</p>

月	週	時間数	単元名（項目）	配当時間	指導目標	行事予定
9	5	3	5 労働と社会保障 ・労働関係の改善 ・企業と環境と消費者問題 ・社会保障	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康で安全な生活を享受できる裏に社会保障制度があることを気づかせる。</li> <li>金融や財政の果たす役割を理解させる。</li> </ul>	
10	1	3	6 貨幣と金融・財政 ・貨幣 ・通貨制度 ・銀行 ・財政	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央銀行の主な業務、機能を理解させる。</li> </ul>	
			7 国民経済と日本経済 ・経済主体 ・国民所得 ・戦後日本経済の復興 ・日本経済の課題	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後日本の高度経済成長の要因を明らかにし、現在の日本経済の問題点を考えさせる。</li> </ul>	
	2	2	8 2学期中間考査	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会における一般常識が身についたか確認する。</li> </ul>	

## 【資料2】授業評価票

下記に現代社会の授業評価票を示す。

教科：社会

教科名（科目名）		単元名	平和主義の精神	評 価
現代社会		平成 年 月 日（ ） 第3学年 全学科		
項 目	番号	内 容		
授業計画	1	単元目標は理解できた。		
学習教材	2	使用している教科書は理解しやすい。		
	3	補助教材は、学習に役立っている。		
単元内容	4	単元内容に興味をもてた。		
	5	単元内容は理解できた。		
授業展開	6	授業の進む速さは適切だ。		
評 価	7	試験問題の分量や難易度は適切だ。		
	8	成績の規準・方法等を理解できた。		
生徒の自 己評価	1	教科書、ノートは事前に用意している。		
	2	ノートを自分なりに工夫して作っている。		
	3	授業の予習・復習をしている。		
	4	自分は真剣に授業に取り組んでいる。		
	5	クラス全体が真剣に授業に取り組んでいる。		
	6	授業を受けて、さらに興味・関心がわく。		
その他				
自由に記入して下さい。				

各評価項目を5段階の点数で評価する。

※ 集計にあたっては、項目ごとに数値の平均を求め、さらにその数値に応じて、A：5.0～4.3（大変よい）、B：4.2～3.5（よい）、C：3.4～2.7（ふつう）、D：2.6～1.9（やや不十分）、E：1.8～1.0（不十分）として評価を行う。

【資料3】学校評議員評価用紙

評	A よくできている	B できている	C あまりできていない
価	D できていない	E わからない	

学校経営全般に関して

- 1 「目指す学校像」は適切であり，わかりやすく表現されている。  A B C D E
- 2 「本年度の重点目標」は本校における課題・問題を的確に捉えている。  A B C D E
- 3 学校の現況・現状分析，学校経営計画等がわかりやすく伝えられている。  A B C D E
- 4 保護者・学校評議員等の意見を学校経営に反映しようとしている。  A B C D E

教科指導に関して

- 1 授業振替・出張の精選等授業時間の確保がなされている。  A B C D E
- 2 普通教科・科目の基礎学力の充実に取り組んでいる。  A B C D E
- 3 ジュニアマイスターや資格取得等の推進を図っている。  A B C D E

特別活動に関して

- 1 学校行事は精選され，かつ充実した内容となっている。  A B C D E
- 2 実習公開，志工祭（文化祭）等学校行事に工業高校の特色を出すことができた。  A B C D E
- 3 主体的で実践力のある生徒会活動となっている。  A B C D E
- 4 地域へのボランティア・各種活動へ積極的に参加できた。  A B C D E

生徒指導に関して

- 1 服装指導等規範意識の高揚や指導は全職員共通理解のもと成果をあげている。  A B C D E
- 2 社会の一員としてのモラルの高揚，生徒の意識改革が計られている。  A B C D E
- 3 問題行動，不登校への対応は，指導担当・教育相談・保健室等の連携がなされ，適切かつ十分になされている。  A B C D E

進路指導に関して

- 1 進路指導部と各学年が連携した，3年間を通しての進路指導方針・計画の明示がなされている。  A B C D E
- 2 インターンシップ等を通しての，自己の適性発見や職業観の育成を早期から継続的に展開している。  A B C D E
- 3 生徒一人ひとりの希望達成に向けて，学力確保支援がなされている。  A B C D E

平成17年度工業高校活性化について，提言をお願いいたします。

## 【資料4】保護者による評価用紙

このアンケートは、本校の教育や生徒の学校生活の様子について、保護者の方々の考えを伺い、今後の教育活動を充実させることを目的として実施するものです。保護者の皆様の御協力をお願いいたします。

それぞれの項目について、現在の下館工業高等学校の様子から、下記の1～5を参考に評価の欄の該当するところに○を付けてください。

- 5 そう思う（よくあてはまる） 4 大体そう思う（ややあてはまる）  
 3 あまり思わない（あまりあてはまらない） 2 思わない（まったくあてはまらない）  
 1 分からない（分からない）

項目	番号	内 容	評 価				
			5	4	3	2	1
教育方針	1	学校の教育方針・教育目標はわかりやすく示されている。					
教育 課程	2	学校の授業内容や授業日数に満足している。					
	3	学校の授業内容は、将来職業に就いてから役に立つ。					
学 習 指 導	4	先生の授業がわかりやすいと聞いている。					
	5	先生は熱心に授業を行っていると言っている。					
	6	資格取得の指導に熱心に取り組んでいると言っている。					
特 別 活 動	7	学校の行事（文化祭、体育祭、クスマツ）は活発である。					
	8	学校の部活動は活発である。					
生 徒 指 導	9	先生は生徒を理解し、生徒にあった指導をしている。					
	10	先生は生徒に対し、公平に接している。					
	11	先生は生徒の悩みの相談にのっている。					
進 路 指 導	12	進路に関しての指導・面談がよく行われている。					
	13	進路に対応した課外指導がよく行われている。					
生 徒 の 活 動	14	生徒はあいさつをきちんとする。					
	15	生徒は意欲的に勉強している。					
	16	生徒の服装・髪型がきちんとしている。					
	17	生徒は充実した学校生活を送っている。					
教 育 環 境	18	学校の施設設備は、充実している。					
	19	清掃が行き届いている。					
全 体	20	この学校に入学させてよかったと思う。					
	21	学校の様子が家庭によく伝わっている。					
	22	開かれた学校づくりに努めている。					
その他 (自由に記入し てください)							

該当するところに○を付けてください。

生徒の在籍している学年	3年・2年・1年	生徒の在籍している科	機械・電気・建設工学・電子
-------------	----------	------------	---------------

## 実践事例 9 茨城県立水戸飯富養護学校

URL <http://www.mitoiitomi-sh.ed.jp>

### 1 学校の概要

水戸市の西端に位置する飯富から田野地区の畑や水田，成沢地区から水戸森林公園へと続く緑に囲まれ，自然に恵まれた環境の中に立地し，本年度創立20年目を迎えた。本校は，小学部から高等部まで設置する知的障害の養護学校である。児童生徒数は，小学部17学級62人，中学部13学級52人，高等部10学級54人の計40学級168人であり，102人の教職員で指導支援にあたっている。

#### (1) 本校の教育目標

児童生徒個々の障害の状態及び特性に対応する適切な教育を行い，一人一人の能力や可能性の伸長を図り，自立と社会参加を目指して，社会生活に主体的に適応できる児童生徒を育成する。

#### (2) 本年度の重点目標及び目標実現のための具体的施策

##### ① 個別の指導計画の検討・改善

- ア 研究推進係を中心とした個別の指導計画の検討・改善
- イ 保護者による授業評価の実施
- ウ 個別の指導計画の保護者への公表

##### ② 個別の教育支援計画及び個別移行支援計画の書式の作成

- ア 教育支援計画策定推進委員会の設置
- イ 個別の教育支援計画作成等に伴う連絡会の開催と外部評価の実施

##### ③ 教育相談体制確立のためのネットワークの構築

- ア 関係教育委員会や福祉関係機関等との連携
- イ 居住地校等との連携
- ウ 障害児就学指導地方研究協議会等の活用による小中学校との連携

##### ④ 専門的研修の推進

- ア 特殊教育免許取得の推進及び計画的な校内外の研修の推進
- イ 校内研究テーマに基づいた研修計画の充実
- ウ 教育相談部が中心となった諸検査の研修会の実施

##### ⑤ 余暇活動への校内支援体制の充実

- ア 部活動や文化的活動の推進及び各種イベントへの参加
- イ 部活動の指導体制の在り方の検討
- ウ 保護者との部活動懇談会の実施等，P T A等と連携した校内支援体制の強化

### 2 学校評価に関して特に力を入れてきた取組

#### (1) 前年度の学校自己評価結果に基づいた学校づくり

#### (2) 教育課程の改善に向けた学校評価

### 3 実践内容

#### (1) 前年度の学校自己評価結果に基づいた学校づくり

学校自己評価を学校経営の中に定着させ、教職員がその必要性和有用性を認識するようになるためにも、前年度の学校自己評価結果から得た課題をきちんと明確にし、その解決に向けた取組を計画的に実施していくことが重要ととらえた。そこで、課題とされた項目の中から特に5項目を最重点化し、今年度実現を図っていくことにした。

次に示す図は、5項目についての具体的な取組内容を示したものである。これを年度当初に全教職員に配布し、共通理解を図り、実践を進めてきた。



(\*ゴシック体で表記した部分は本研究に特に関連している内容を示す。)

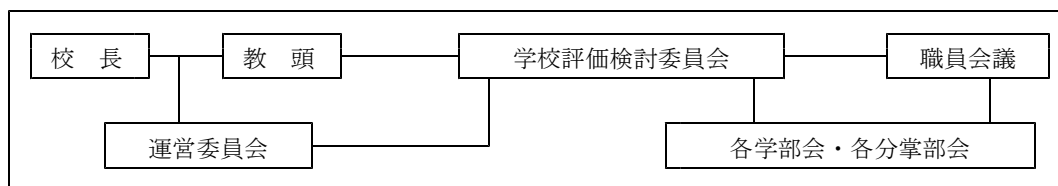


(2) 年間の評価計画

今年度は、主な学校評価を2学期末までに終了させ、できる限り早く次年度の課題が明確になるように計画した。また、学校評価を年間2回実施することとし、年度の前半と後半でどのような意識の変化があったかについて、比較検討できるようにした。

月	学 校	保護者・地域社会等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画の説明（校長：運営委員会と職員会議）</li> <li>学校自己評価項目と具体的方策の検討（各分掌部・各学部）</li> <li>教育支援計画策定推進委員会の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画と本年度の課題について説明（校長：PTA運営委員会とPTA総会）</li> <li>授業参観時の保護者アンケートの実施</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌部活動計画表の全教職員への配布（職員会議で共通理解）</li> <li>学校自己評価項目等の校内LANへの掲載</li> <li>個別の指導計画の作成</li> <li>学校経営計画のホームページへの掲載</li> <li>年間学習指導計画の作成と教員への配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別懇談会に関する保護者アンケートの実施</li> <li>個別の指導計画作成に向けた個別面談の実施</li> <li>地域交流活動事業推進運営協議会委員による学校評価の実施（第1回）</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の学校自己評価表の配布と解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者による学校評価の実施（第1回）</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価の実施（保護者による学校評価と同じ様式）と結果のまとめ（第1回）</li> <li>個別の指導計画の保護者への公表</li> <li>個別の教育支援計画の様式作成完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等部生徒による授業評価の実施</li> <li>保護者による授業評価の実施（第1回）</li> <li>学校評議員による学校評価の実施（第1回）</li> <li>保護者への学校評価結果の説明</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元別・題材別評価の実施（試行）</li> <li>学校自己評価項目の再検討</li> <li>家庭訪問による個別の指導計画の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画の指導目標や手立ての検討と改善</li> <li>卒業生の保護者による学校評価の実施</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価結果の説明</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員による授業評価の実施（授業研究会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自由参観の実施</li> <li>地域交流活動事業推進運営協議会委員や地域の方々への授業公開</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員による授業評価の実施（授業研究会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民へのアンケートの実施（文化祭）</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価の実施と結果のまとめ（第2回）</li> <li>単元別・題材別評価の実施（試行）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者による学校評価の実施（第2回）</li> <li>保護者による授業評価の実施（第2回）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価結果の解説と次年度の課題事項の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流活動事業推進運営協議会委員と学校評議員による学校評価の実施（第2回）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部や分掌部での評価結果の検討</li> <li>次年度の学校経営計画の検討・改善</li> <li>次年度の学校経営計画の提示（改善された教育目標・努力事項等の提示）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者による学校評価と授業評価の結果の公表，学校自己評価結果の公表</li> <li>個別の指導計画の評価に関する個別面談の実施</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価結果の報告（県）</li> <li>学校評価結果のホームページへの掲載</li> <li>次年度の学校評価計画の概要の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画の評価の保護者への配布</li> <li>次年度の改善策及び学校経営計画の提示</li> </ul>

### (3) 学校評価への組織的な取組



昨年度は、特別委員会として学校評価検討小委員会を設置し、教職員の要望を中心に学校評価項目を検討した。各学部から代表者を選ぶことで、学校評価に関する意識の広がり、認識の深まりが見られた。また、委員の中から授業づくりについて検討しようという声が上がリ、授業評価への関心が内発的に高まることになった。

このような成果を踏まえ、本年度は、学校評価検討小委員会を学校評価検討委員会と名称を変更し、学校評価に取り組んできた。2年目ということもあり組織的にはほとんど問題なく円滑に機能した。特に校長を中心とした運営委員会は、評価項目の見直しや実施方法の伝達等についてその役割を十分に果たし、学校評価を一層取り組みやすいものとした。

このような経緯から、学校評価に関する取り組みがある程度軌道に乗り、その成果が見えてくるようになれば、既成の校務分掌部で学校評価を推進していくことが可能であると判断している。次年度は、校務分掌部の精選や既存の組織を生かすという観点から、運営委員会や教務部企画係等を中心として学校評価に取り組むこととし、学校評価検討委員会は設置しない予定である。

### (4) 教育課程の改善に向けた学校評価の取組

様々な障害を抱えている児童生徒個々のニーズに応じた教育を実現していくためには、その課題を明確にすることや長期目標と短期目標を立て、長期的・総合的視野に立って取り組むこと等が必要である。そのためには、個別の教育支援計画の作成と個別の指導計画や年間指導計画の作成が必須であり、それらに基づいた指導支援が不可欠である。

そして、これらの諸計画の日常적인見直しを図り、指導内容・方法の充実を図ることが最終的に教育課程の改善につながると考えている。

その改善策を講じるための基礎的なデータの収集と児童生徒がわかる楽しい授業づくりのために、「授業評価」と「単元別・題材別評価」を中心に取り組んでいくことにした。

#### ① 授業評価の取組

ア 在校生の保護者による授業評価の実施【資料1】(p.98)

【資料1】は、小学部の保護者に実施した授業評価の様式である。評価項目を6項目にし自由記述欄を大きくした。これに対して中学部と高等部は9項目とし、小学部よりも細かな観点から評価を実施できるようにした。

全ての学部・学年・学級で実施したが、この回収率は6割を超えている。評価結果は概ね良く、自由記述についても建設的な意見が多かった。温かみのある評価の中にも、きちんと要望が加味されており、改めて障害のある児童生徒の保護者の意識と児童生徒一人一人への学習活動に対する関心の高さを実感した。指導内容・方法に言及した保護者も多く、児童生徒へのかかわり方や教材教具の作り方、その提示の仕方等について、参考となる意見も多かった。

評価結果は、全て各学部で回覧し、自分以外の職員の授業がどのように評価されたかについてもわかるようにした。

#### イ 職員による授業評価の実施

学習指導研究部を中心に実施している授業研究会の時に、職員による授業評価を実施した。様式の一部は下記のとおりである。具体的な評価項目は12項目とした。

期日	年 月 日	時間	第 校時	指導形態名		
授業者名			児童生徒数		学部・学年	
大項目	具体的な評価項目				評価	アドバイス
学習内容について	学習内容のわかりやすさについて	児童生徒の障害の実態に応じた内容である。(難しすぎない・簡単すぎない)				
学習指導について	学習指導場面の工夫について	全体的に教材や教具がよく整備され、場に応じた活用がなされていた。				
※感想などがありましたらご自由にお書きください。						

特に、厳しい評価をした場合には、できる限りアドバイス欄に対処法等を記入するように共通理解した。実施した結果、全体に評価結果は高く、厳しい意見はほとんど見られなかった。授業の良いところ、参考となる部分を積極的に評価し、共通理解しようとする傾向が見られた。

今後、授業の課題などを明らかにしていくためには、授業内容により評価項目を変更し、評価の観点を絞る等、様式をさらに工夫していく必要がある。

#### ウ 児童生徒による授業評価の実施

右表のように評価項目を簡易にし、高等部の生徒に対し実施したが、十分な結果を得ることはできなかった。

しかし、自分の考えや要望を記入した生徒もおり、実施することの大切さを実感した。本人の意見を聞くという機会を定期的に設けていくことで、生徒と教員双方の成長が期待でき、生徒一人一人のより興味関心に応じた授業の展開が可能になってくると思われる。

#### ② 単元別・題材別評価の実施

本校では年間指導計画をもとに、個別の指導計画と関連させながら単元・題材別の指導計画を立て、日々の学習支援にあたっている。ティーム・ティーチングによる指導形態が多いことから、学習活動に入る前の打合せや終了後の反省は日常的に行われている。そこで、単元や題材という一つのまとまりに対して、【資料2】(p.99)のように、具体的な評価項目を設定し、それらについて評価することにより、年間指導計画や個別の指導計画の改善を図るための基礎的なデータが得られるのではないかと考え、単元別・題材別評価を実施することにした。

<p>○このアンケートは、あなたの<sup>がくしゅう</sup>学習をよりよくするために<sup>しつもん</sup>行うものです。それぞれの<sup>ないう</sup>質問の内容にあてはまる<sup>ばんごう</sup>番号に○印をつけてください。</p> <p>1 今日<sup>きょう</sup>の<sup>じゅぎょう</sup>授業はおもしろかったですか。 (①はい ②だいたい ③あまり ④いいえ)</p> <p>2 今日<sup>きょう</sup>の<sup>じゅぎょう</sup>授業はわかりましたか。 (①はい ②だいたい ③あまり ④いいえ)</p> <p>—以下略—</p> <p>6 今日<sup>きょう</sup>の<sup>せんせい</sup>学習で先生になにかこうしてほしいという<sup>きぼう</sup>きぼうがありますか。</p>
---

単元や題材の数が膨大な量になるため、本年度は、各学部から計5学級を抽出し試行することにした。課題別学習と生活単元学習を中心に、それらを実施した後に、【資料2】(p.99)の評価表を活用して評価を行った。さらに、夏季休業中に評価結果をもとに、指導計画の見直しを行った。その結果、意外に量的な負担を感じることなく実施することができ、次年度の年間指導計画の実実施時数や、2学期の方向性、個別の指導計画の中の「手立て」等の見直しにつながった。ティーム・ティーチングを行った教員同士で検討しながら評価したため、指導方法等を共通理解する上でも効果的であった。また、単元別・題材別評価をする場合、評価の観点が整理されていると、割合容易に評価することが可能であることがわかった。今後評価表への記入を日常化していく方向で検討している。

#### (5) 在校生の保護者や卒業生の保護者による学校評価の取組

学校評議員や地域交流活動事業推進運営協議会委員等の学校関係者による学校評価を実施してきたが、参考となる意見や評価が多かった。中でも効果的であった2つの取組について紹介する。いずれも保護者によるものであり、改めて障害のある児童生徒の保護者の意識、関心の高さを実感した。自由記述欄に記された事項は、学校経営に関連するものも多く、大変参考となるものであった。保護者との連携強化という本年度のねらいからも収穫の多い取組であった。

##### ① 在校生の保護者による学校評価

【資料3】(p.100)がその様式である。7月と1月の年2回実施した。1回目の評価表の回収率が72%で、2回目は50%であった。2回目の回収率は低下したものの、1回目との比較ができるようになり、保護者からの意見聴取や保護者との連携、児童生徒個々のニーズに応じた教育の実践等に関する項目では、評価が1回目より高くなる等、成果も確認することができた。

##### ② 卒業生の保護者による学校評価

【資料4】(p.101)がその様式である。卒業後に役に立ったこととして、作業学習を通して得た作業への取組方や、日常的な挨拶の仕方、体育や運動部活動等を通して体力がついたこと等があげられていた。その反面、文字をもう少し書けるようになって欲しかったこと等、言語・数量的な内容に関して物足りなさを指摘した保護者が多かった。これらは、特に高等部での教育を考える上で示唆的な指摘であり、高等部の重点施策を検討したり、教育課程の指導内容・方法の改善を図る上で参考となった。

#### 4 本校からの提言

- (1) 在校生の保護者による授業評価を実施することにより、指導内容・方法、児童生徒へのかかわり方、教材教具の作り方、その提示の仕方などについての参考となる意見が得られ、学習内容の見直しや児童生徒個々のニーズに応じた授業づくりに役立つ。
- (2) 教員による単元別・題材別評価の実施により、単元・題材の指導計画の見直しが行われ、年間指導計画等の改善が図られる。
- (3) 在校生の保護者や卒業生の保護者による学校評価を実施することにより、指導内容・方法等の改善に生かせる様々なデータが得られる。

【資料1】

平成16年度 授業に関する保護者アンケート（小学部用）

茨城県立水戸飯富養護学校

このアンケートは、保護者の皆様に授業を参観しての感想をお寄せいただき、より充実した授業になるよう参考にさせていただくためのものです。ご協力をお願いします。

本日の授業について、評価欄に、「そう思う」場合は「1」、「だいたいそう思う」場合は「2」、「あまりそう思わない」場合は「3」、「そう思わない」場合は「4」をご記入ください。

また、内容について特に何かアドバイスになるようなことがあれば、ご記入ください。

期日	年 月 日	時間	第 校時	授 業 名	
授業者名				学部・学年	
内 容				評価欄	ア ド バ イ ス
お子さんの課題に合っている内容だと思いますか。					
お子さんにとってわかりやすい内容になっていると思いますか。					
お子さんが、自ら進んで学習に参加しようとする場面が見られましたか。					
お子さんに使われた教材は、工夫されわかりやすかったですか。					
お子さんに対して、適切なことば掛けがなされていきましたか。					
お子さんにあった机の配置やグループ分けが行われていたと思いますか。					
【ご意見・ご要望をお書きください】					

【資料2】

平成16年度 単元別・題材別評価（教員用）アンケート

平成 年 月 日  
茨城県立水戸飯富養護学校

氏名 \_\_\_\_\_

〔評価基準〕

- 1 よい（適当である）      2 ややよい（ある程度適当である）  
3 やや不十分（一部改善が必要である）      4 不十分（改善が必要である）

指導形態名	単元・ 題材名		実施期間		
学部等	部	年	組		
重点評価項目	具体的な評価項目			小項目別 評価	特記事項
学習内容について	学習内容の わかりやす さ	児童生徒の障害の実態に応じた内容であったか。			
		児童生徒にとって学習のしがいのある内容であったか。			
		児童生徒にとってわかりやすい内容であったか。			
	学習内容への 関心	児童生徒が主体的に学習に参加していたか。			
		児童生徒が他の子ども達と一緒に学習に取り組める構成になっていたか。			
		児童生徒の質問や授業者とのやりとりから、学習への興味・関心が感じられたか。			
学習指導について	学習指導面の 工夫	教材・教具の準備が適切になされ、場に応じた活用ができていたか。			
		T1が学習活動の全体を把握し、学習をリードすることができていたか。			
		教員間の共通理解のもとにT Tが円滑に行われていたか。			
	学習指導の 達成度	児童生徒にとって概ね学習のねらいや目標が達成されたか。			
学習環境	児童生徒個々の特性や状態に応じた小グループ編成等の工夫がなされていたか。				
単元及び題材について	本単元の前後に実施された単元との関係から本単元の実施時期は適切であったか。				
	配当された学習時間数は適切であったか。				
	本単元のねらいや目標の達成度から次年度の単元として取り入れたいか。				
	年間学習計画との関連が十分に図られていたか。				
	個別の指導計画との関連が十分に図られた単元構成や個人目標等になっていたか。				



【資料4】

平成16年度 学校に関する卒業生の保護者アンケート調査

茨城県立水戸飯富養護学校

平素より、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、これからの「開かれた学校」「特色ある学校」づくりの参考とするために、本校の教育実践に対して、卒業された皆様からもご意見・ご要望をお寄せいただきたいと考えております。

つまきましては、下記の項目について、在学中のこと等を振り返って評価いただければ幸いに存じます。ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

※1 お子さんは何年度の卒業ですか。(平成 年度卒業)(第 回生)

※2 お子さんの現在の所属はどこですか。(該当する項目を○で囲んでください)  
( 一般事業所 ・ 社会福祉関係施設 ・ 在宅 ・ その他 )

〔評価基準〕

- 1 よかった(適当であった) 2 ややよかった(ある程度適当であった)  
3 やや不十分だった(一部改善が必要であった)  
4 不十分であった(改善が必要であった) (※分からない場合は斜線をお引きください。)

	項 目	評 価
1	学校教育の内容や方法などについて、保護者の皆様からの意見や要望を取り入れていたと思いますか。	
2	ご家庭との連携を密にし、将来の様々な生活につながる本校の教育活動に関して、保護者の皆様に分かりやすく説明していたと思いますか。	
3	おさんは、安心して楽しく学校に通学することができていましたか。また、そのような雰囲気作りに職員が努めていたと思いますか。	
4	おさん一人一人の個性を生かし、それぞれの必要に応じた教育が行われていたと思いますか。	
5	将来の社会自立のために必要な基礎的・基本的な知識・技能・態度の育成に向けた取り組みが行われていたと思いますか。	
6	職員は、一人一人のおさんの障害の状態に応じて、優しく丁寧な態度で接することができていましたか。	

※裏面の質問にもお答えください。

- 1 養護学校で学んだことで、卒業後に特に役に立ったこと、あるいは役に立った経験がありますか。  
( ある ・ 特にない )

「ある」と答えた方へ：具体的にどんなことですか。

- 2 卒業されてから、養護学校でこんな学習をしておけば良かった、あるいはこんな学習をして欲しかったと思うことがありますか。( ある ・ 特にない )

「ある」と答えた方へ：具体的にどんなことですか。

- 3 養護学校に期待すること、またこうあって欲しいと思うことがありましたらご自由にお書き下さい。

※ ご協力ありがとうございました。



## 第4 学校改善につながる学校評価の在り方に関する意識・実態調査 (平成16年度)

### 1 調査の概要

#### (1) 調査のねらい

現在、茨城県教育研修センターが取り組んでいる「学校改善につながる学校評価の在り方」について、各学校における実施状況等を把握し、その調査結果を今後の研究に生かす。

#### (2) 調査方法及び調査内容

質問紙調査〔学校評価に関するアンケート調査（回答）用紙【資料】（p.106）〕

#### (3) 調査時期

平成16年10月

#### (4) 調査対象及び回答者

平成15年度茨城県教育研修センター研究発表会学校評価部会参加者

平成16年度学校評価研修講座受講者

（本教育研修センターが研究を進めている「学校改善につながる学校評価の在り方」について、説明を受けた人）

### 2 調査の結果

#### (1) 集計結果の表示

県内公立小学校，同じく中学校，県立高等学校，県立特殊教育諸学校の校長及び教員から寄せられた回答用紙を校種ごとに集計した。

小学校を小，中学校を中，高等学校を高，特殊教育諸学校を特とそれぞれ略して示す。また，[ ]内の番号は，学校評価に関するアンケート調査（回答）用紙【資料】（p.106）の設問項目の番号である。

#### (2) 調査回答者

全回答者は162人（小93人，中40人，高19人，特10人）であり，どの校種も教諭の回答が多い。

#### (3) 集計結果

##### ① 学校評価の結果を生かした学校改善の状況 [1 (1)]

小，中，特では，90%以上の人々が，「学校評価の結果を生かして教育活動が改善されている」と答えている。高では，「学校評価の結果が教育活動の改善に生かされていない」と答え

図1 調査回答者

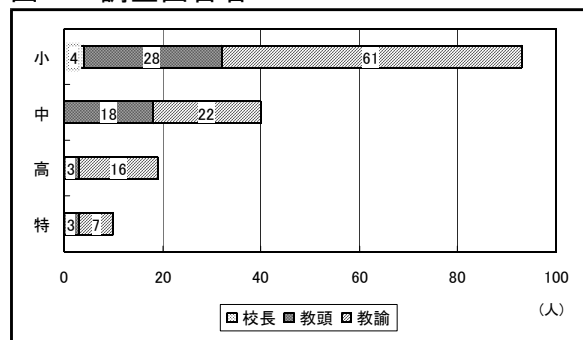
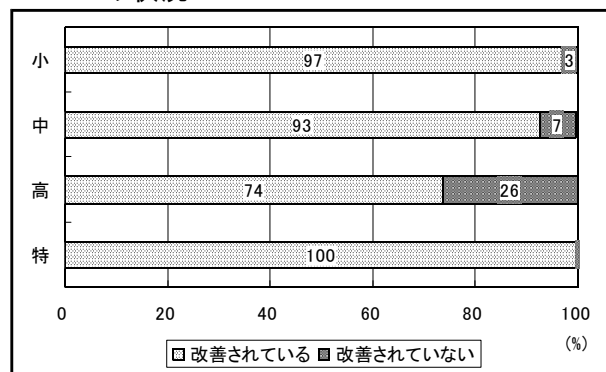


図2 学校評価の結果を生かした学校改善の状況



た人が26%いた。

② 改善されていると思う理由・改善されていないと思う理由 [1 (1)理由]

<改善されていると思う理由>  
 ○授業の改善がなされた。○教師同士の話し合いが活発になった。  
 ○学校評価に関する教職員の意識が向上し、学校改善に向けての全校的な意志の結束が高まった。○具体的な課題の解決に取り組むようになった。  
 <改善されていないと思う理由>  
 ○評価の時は意識するが、改善のための話し合いはしていない。  
 ○まだ、学校評価自体を認識している教職員が少なく、話題となることもあまりない。

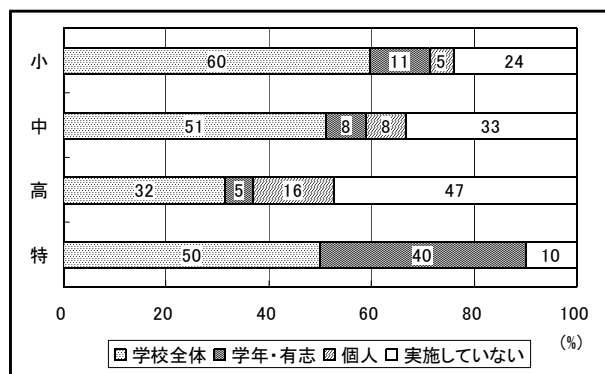
③ 今年度、学校評価の項目や方法等についてどのように改善したか [1 (2)]

<改善した主な点>  
 ア 「学校評価の評価項目の内容やその作成方法を改善した」…106人（複数回答）  
 ○評価項目を変更した。 ○学年部会など職員で評価項目を検討して実施した。  
 イ 「学校評価の評価者を見直した」…49人（複数回答）  
 ○行事や学校公開日にも保護者に対してアンケートを実施した。  
 ○生徒と学校評議員にも実施した。  
 ウ 「学校評価の実施方法を改善した」…26人（複数回答）  
 ○職員会議の時に評価を行う時間を設けた。

④ 授業評価の実施状況 [2 (1)]

授業評価の実施状況は、小76%、中67%、高53%、特90%であり、そのうち「学校全体で実施している」割合が高い。高では、他の校種と比べて実施している割合が低い。

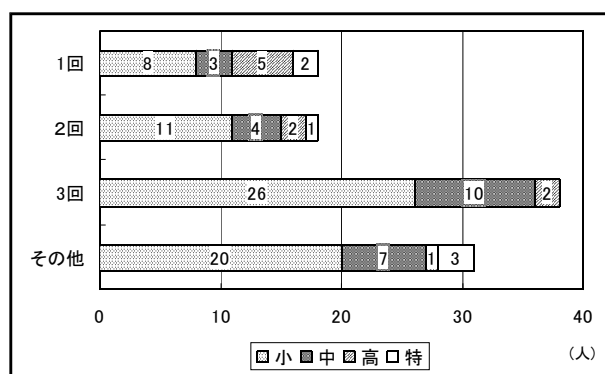
図3 授業評価の実施状況



⑤ 授業評価の実施回数 [2 (1)実施回数]

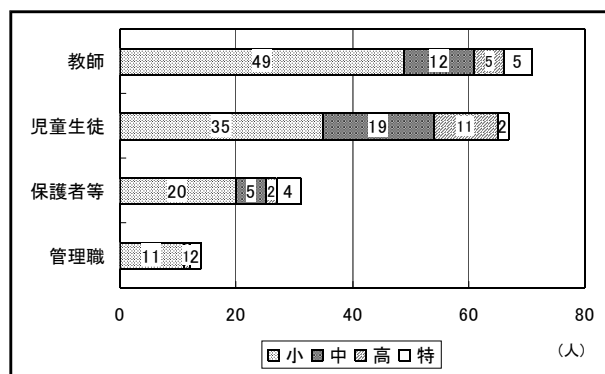
授業評価の実施回数は、「3回」との回答が多い。実施時期は、学期末が非常に多いが、「授業参観時」、「研究授業時」や「随時」などの回答もあった。

図4 授業評価の実施回数



- ⑥ 授業評価の実施者 [ 2 (1) 評価者 ]  
 授業評価の実施者は、「教師」が71人、  
 次いで、「児童生徒」が67人、「保護者等」  
 が31人、「管理職」が14人であった。

図5 授業評価の実施者



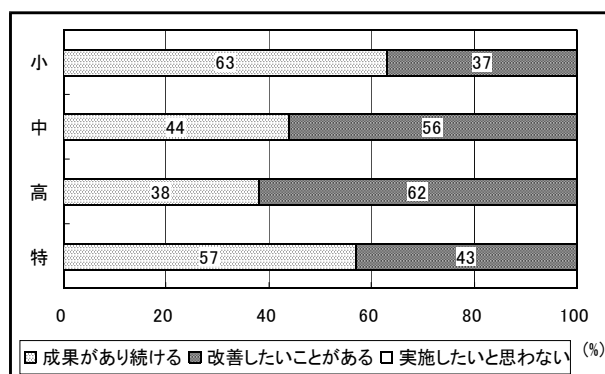
- ⑦ 評価の視点 (評価項目) について [ 2 (1) 評価の視点 ]

- 授業のねらいはどの程度達成できたか、指導内容は適切か。
- 指導形態は適切か、指導法に問題はなかったか。各教科ごとに具体的な方策を立てているか。
- 授業の興味・関心、学習の理解度、授業への要望等。
- 確かな学力の定着を図るための視点、授業改善のための視点、学校の教育目標の達成のための視点等。

- ⑧ 授業評価を実施しての結果 [ 2 (2) ]

授業評価を実施していると回答した人は117人 (小71人, 中27人, 高10人, 特9人) であり, その中で, 「成果があったので続けたい」と答えた人の割合は, 小と特で約60%, 中と高で約40%であり, 残りは「実施したが改善したいことがある」と答えた。「実施してみたがこれから実施したいとは思わない」と答えた人はいなかった。

図6 授業評価を実施しての結果



- ⑨ 授業評価の成果と改善点 [ 2 (2) 理由等 ]

< 成果 >

- わかる授業を目指して授業研究を重ねるようになった。
- 評価の結果や要望が授業改善の視点となった。
- 個々の先生方が行っていた指導方法等が全体に広まる機会となったので, 若い先生方から好評であった。
- 教師や生徒の授業への取り組む姿勢に変化が見られた。

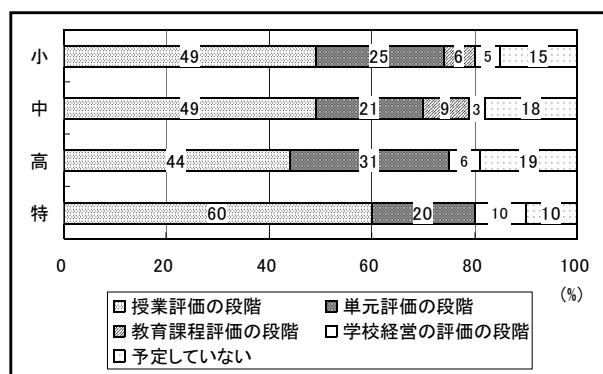
< 改善点 >

- 評価項目に具体性がなかったので結果から傾向はわかるが、改善につながりにくい。
- 学校全体で授業評価について研修を深めなければならない。
- 担任の授業について他者評価（児童・保護者・同僚）を行うことに対しては、まだ抵抗感を持っている教職員がいる。

⑩ 授業評価を起点とした学校評価の実施段階 [3]

授業評価を起点として、単元評価、教育課程評価、そして学校経営の評価にまでつなげた学校評価の実施状況については、どの校種でも「授業評価の段階」でとどまっている割合が最も高く、44%～60%を占めている。次に、「単元評価の段階」が、20%～31%となっている。また、「教育課程評価の段階」と「学校経営の評価の段階」まで実施している学校は少ない。

図7 授業評価を起点とした学校評価の実施段階



⑪ 実施方法、実施しての成果、実施した感想や問題点等 [3方法、成果、問題点等]

<方法>

「授業評価の段階」

- 授業担当者が担当クラスの全生徒に実施している。
- 生徒に対し、自由記述式のアンケートで実施している。
- 学校評価の中に授業評価の項目がいくつかある。
- 校内に学校評価、特に授業評価のプロジェクトチームを作っている。

「単元評価の段階」

- 学習カルテを使った学習の理解度を把握する方法を通して、授業における指導の成果を評価し、保護者にもその状況を伝えている。
- 月1回、学期1回の教師による自己評価と、授業や単元ごとの生徒による授業評価等により実施している。

「教育課程評価の段階」

- 評価を基に教育計画検討委員会にて、次年度の教育課程編成に生かしている。

<成果>

- 授業の工夫・改善や指導力の向上につながっている。○単元構成に改善が見られる。
- 保護者が学校教育に対する意見を自由に述べられる。
- 生徒自身の学習意欲が向上している。

<問題点>

- 職員の意識と評価に対する共通理解が不足している。○評価を検討する時間がない。
- 授業評価を起点とした学校評価の方法がよくわからない。
- 学校評価は、生徒指導や進路指導などの分掌の評価ととらえている教職員が多い。

【資料】

学校評価に関するアンケート調査(回答)用紙 学校名 \_\_\_\_\_ 職名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

1 教職教育課では学校改善につながる学校評価について研究しています。学校評価を学校改善にどのように結びつけているか、次の質問にお答えください。

(1) あなたの学校では、学校評価の結果を生かして日常的、継続的に教育活動が改善されていると思いますか。どちらかを選び理由もお書きください。

① 改善されていると思う	番 号	理 由
② 改善されていないと思う		

(2) 今年度は学校評価の項目や方法等についてどのように改善しましたか。あるいは改善しようとしていますか。成果や課題等を含めて具体的にお書きください。

--

2 教職教育課では、学校改善につながる学校評価の在り方として、「授業評価を起点とした学校評価」を提言しました。授業評価の実施状況について次の質問にお答えください。

(1) 実施状況を下の①～④の中から選び、記号でお答えください。実施していない場合には、4の学校評価に関する疑問、課題、意見等の欄にその理由等をお書きください。

① 学校全体で実施している。	② 学年や有志で実施している。	
③ 個人(本人)で実施している。	④ 実施していない。	

実施時期・回数	評価の視点(評価項目)は	評価者は

(2) 教職教育課が提案した授業評価を実施した方 [2(1)で①～③を答えた方] にお伺いします。授業評価を実施してどうでしたか。①～③の中から1つ選び、その理由等もお書きください。

- ① 実施した結果、成果があったので続けたい。 (どんな成果ですか) —
- ② 実施したが、改善したいことがある。 (どんな問題ですか) —
- ③ 実施してみたが、これからは実施したいとは思わない。 (それはなぜですか) —

番 号	理 由 等	
		←

3 教職教育課では、学校改善につながる学校評価の在り方として、授業評価の結果を単元等の評価に生かし、その単元等の評価の結果を教育課程評価に生かし、さらに教育課程評価の結果を学校経営の評価に生かしていくことを提言しました。この「授業評価を起点とした学校評価」は、現在、学校でどの段階まで行われていますか。1つ選び、実施方法、実施しての成果、実施した感想や問題点等についてもお書きください。

- ① 授業評価の段階
- ② 授業評価→単元等の評価の段階
- ③ 授業評価→単元等の評価→教育課程評価の段階
- ④ 授業評価→単元等の評価→教育課程評価→学校経営の評価の段階
- ⑤ このような「授業評価を起点とした学校評価」は予定していない。

方法, 成果, 問題点等
--------------

4 学校評価に関する疑問、課題、意見等ございましたらご自由にお書きください。

--

## 第5 研究の成果と今後の課題

### 1 研究協力校での学校評価実践の歩みから見える成果

本研究の趣旨を踏まえ、学校評価をどのように実施すれば改善に結びつくかという視点から、各研究協力校が実践的研究に取り組んできた。そこから見えてきた成果について、先に提示した10のポイントと関連させながら述べることにする。

#### (1) 学校評価の目的と主体を全教職員が共通理解すること

評価の第一の目的が学校改善にあり、評価の主体が教職員であることへの共通理解を図るために、学校長による経営計画の説明とともに、その実践に向けての組織の編成や見直しが行われている。また、年度当初の説明だけでなく、実際に授業評価を始めとする評価活動を実施したり、結果について話し合ったりする過程でも共通理解が深まり、協働性が高まるという成果が見られた。

#### (2) 学校経営計画が具体的で評価可能であること

各学校とも、自校の教育目標の実現のために当該年度の具体的な目標と方策が設定されており、項目によっては数値化されている。このように学校経営計画が具体的で評価可能なものであれば、評価項目も無理なく設定され、改善の方向性も得られやすくなる。

#### (3) 学校評価の起点を授業評価とし、単元評価、教育課程評価につなぐこと

児童による授業評価を毎時間授業終了時に実施して、児童の理解度に応じた対応がすぐ可能になったという小学校での実践があるが、そのような実践をある期間実施した上で、授業評価をその単元の評価の観点を加えて単元末にのみ行うように変更したところ、毎時間の評価の形骸化や実施にかかる時間確保の問題を避けられたり、単元計画の改善点が見だしやすくなったという中学校での報告もある。教師自身による授業評価と併せて単元末に実施する児童生徒による授業評価の結果は、単元評価のための重要な資料となり、教育課程の見直しをする上でも重要なものとなる。記録の蓄積を継続させたい。

高等学校においては、授業評価を実施することへの共通理解を図ることが第一の課題であったが、今年度すべての教科で教師自身による授業評価と生徒による授業評価を実施した結果、教師個人の指導上の課題ばかりでなく、教科経営上の課題も明確になり、大きな成果となったことが報告されている。養護学校においても、可能な範囲での生徒による授業評価を実施したところ、自分の考えや要望を記入した生徒もいて、授業評価のもつ意義が報告されている。

単元評価の方法については、例えば高等学校では、評価項目も「理解」と「進歩」の二つの観点のみを設定し、特別な評価シートを使用せず、日常の観察、小テスト、定期考査、外部団体模擬試験結果等を利用しているところもある。小・中学校においても、児童生徒の自己評価や授業評価あるいは教師自身の自己評価の結果だけでなく、各教科のテスト結果などを資料として分析に活用することが重要である。全県的に実施している学力診断のためのテストなどを単元評価結果の分析に生かしている中学校の例もある。学年間、あるいは学校間での分析データの交換や協同での分析作業も、単元の改善や長期的に実施する教育課程の改善のためには有効な資料になっていくものと思われる。

なお、教育課程の改善点を検討する際には、教育課程の編成と実施を支える諸条件も含めて考えることが必要である。

#### (4) 組織を生かし、計画的に評価を実施すること

「学校評価検討委員会」とそれに類する組織を新たに立ち上げた学校がある。また、「教育方針検討委員会」の下部組織として「教育施策検討部会」「教育課程検討部会」の二つを設置した学校もある。あるいは学校評価について企画運営する「学校評価検討委員会」を、既存の「教育課程検討委員会」に統合し、教育課程の編成と評価、改善を一つのまとまりとしてとらえることにより、学校改善に向けて動き易くなったという学校の例もある。いずれにしても、校長のリーダーシップの下で、各組織のリーダーの活躍や、教科会、学年会あるいは分掌ごとの部会の活性化など、すべての組織が機能することで学校改善につながるようになる。また、一度編成した組織であっても、学校の実情などから、機能しやすいかどうかを点検し、必要に応じて組織の改編を図ることも有効であると言える。

特に評価活動を機能させるためには、計画的に評価を実施することが大切であり、何のために、だれが、どの時期に、何について、どのような方法で評価をし、その結果及び改善策をどのように公開していくのかななどを明確にした年間評価計画を立てておくことが必要である。

#### (5) 教職員以外による評価

学校評価の基本は教職員による自己評価であるが、他に児童生徒を始めとして在校生の保護者、地域住民、ゲストティーチャー、場合によって他校の教師、卒業生、卒業生の保護者などからも意見を聴取したとの報告がある。また、学校評議員からの評価を得ている場合もある。ほとんどの学校において、授業改善及び単元計画の見直しへの視点を見いだすことに役だったとの成果が出ている。ここで重要なのは、それぞれの評価者に、評価する目的、評価の対象の実態等が十分理解されていることと、評価のための資料を提供することである。その意味で、保護者には授業参観の折に授業評価を依頼している学校もある。

## 2 今後の課題

- (1) 平成16年度の調査結果から、小学校、中学校、特殊教育諸学校では、学校評価を実施したことにより、90%以上が教育活動の改善が図られていると回答している。具体的な学校評価の意義とその方法を、全教職員が十分に理解していることにより実践に結びついているといえる。しかし、実質的な授業評価が未実施の学校では、まず「授業改善プロジェクト」というような組織を立ち上げ、授業評価を計画的に実施するところから着手したい。
- (2) 現段階において、調査対象となった学校における評価の実態は、おおむね単元評価の段階にある。今後、単元評価の資料を蓄積することにより、教育課程評価に進めることが必要である。そのためには、教材の妥当性、教科内容の特質や順序性、配当時間の適切さ、指導形態などの構成要素に着目した単元評価の項目を設定し、単元評価の結果を年間指導計画の評価・改善につなげていくことである。また組織の在り方として、教育課程経営を推進していくチームを設けることも、一つの方策として考えられる。

## 〔資料〕 ー授業評価、単元評価のためのシート例ー

本資料は、特に教科の授業評価及び単元評価に役立てていただけるように、各研究協力校での実践を踏まえて、本教育研修センター教職教育課が作成したものです。授業評価は児童生徒用として、単元評価は教師用（授業者自身及び同僚教師）として評価の内容項目を設定しています。

授業評価シートについては、基本的に、単元のどの段階での授業にも使える様式ですが、中学校の例は単元末に行うものを提示しています。共通的な項目として、児童生徒のその授業での目標の実現状況に関する設問、学習の場の雰囲気に関する設問、教師の説明の仕方や授業の進め方等指導方法や技術に関する設問などを設定しています。中学校の場合は、単元末に実施するという想定ですので、生徒に単元全体を振り返って評価してもらうような項目を設定しました。特に内容の習得に関する項目を加える場合は、評価の観点ごとに具体的に項目を設定したり、その単元で育てたい能力について取り上げたりすることも考えられます。また、小学校の場合は、学年によって様式を変える必要が生じますが、ここでは高学年用を掲載してあります。授業評価者である児童生徒に氏名を記載させるような様式になっているのは、教師がその声を聴き取り、その後の個々の児童生徒への指導に生かすことを重視しようとしたもので、その点を児童生徒にも事前に十分理解させておくことが必要です。

単元評価シートは、高等学校の場合はある特定の単元を想定して作成してありますが、その他の学校の例は、どの教科の、どの単元でも使えるような内容項目を示してあります。授業者自身が、単元末テストの結果や授業評価の結果、授業中の補助簿の記録等を参照しながら、単元全体の振り返りを行い、気づいた点をこのシートにメモしていきます。同僚教師が同じ単元の評価をすることができる場合は、このシートに意見を記録しておき、あとで単元の指導計画等について協議する際の資料とします。単元評価の結果は、教育課程評価の参考になるように累積していきます。

これらのシート作成にあたっては、形式やいくつかの項目は校種間で統一せずにそれぞれ特徴をもたせていますので、各学校で作成する際に、その点も参考にいただければ幸いです。



## 小学校

授業評価(高学年・児童用)

### 授業についてのアンケート

教科名( ) 年 組 番 氏名( )

この授業評価シートは、授業をよりよいものにするために、児童のみなさんに意見を聞き、参考にするためのものです。授業をふりかえって、自分の思うとおりに答えてください。

( A : そう思う B : ややそう思う C : あまりそう思わない D : そう思わない )  
として、あてはまる記号を○で囲んでください。

No.	評 価 項 目	評価の段階
1	何を学習するかがはっきりわかりましたか。	A B C D
2	自分で考える場面がありましたか。	A B C D
3	今日の学習内容がわかりましたか。	A B C D
4	先生の説明はわかりやすかったですか。	A B C D
5	先生の板書はわかりやすかったですか。	A B C D
6	授業の進め方はよかったですか。	A B C D
7	先生はあなたの考えを認めてくれましたか。	A B C D
8	わからないところを質問しやすいふんいきでしたか。	A B C D
9	友達と協力して活動できましたか。	A B C D
10	友達の意見がよく聞けましたか。	A B C D

授業について、希望したいことを書いてください。

単元評価（教師用）

記入日：平成 年 月 日  
 記入者：（ ）

教科		単元名	
----	--	-----	--

評価（改善点無し：○ 改善点有り：△）

No.	評価項目	評価	具体的な改善策
1	単元のねらいが達成できたか。		
2	時間配分は適切であったか。		
3	学習形態の工夫があったか。		
4	教材・教具・資料等は適切であったか。		
5	指導方法の工夫が見られたか。		
6	発問や説明の仕方は適切であったか。		
7	児童の考えや意見を授業の中で生かしていたか。		
8	授業の進み具合は適切であったか。		
9	児童の授業に臨む態度はよかったか。		
10	学校の教育目標を意識した授業をしていたか。		

その他、気づいた点



単元評価（教師用）

教科・単元名		日時	月 日 ( )
		評価者	

単元構成	指導内容	指導形態・方法等
第1時		
第2時		
第3時		
第4時		
第5時		
第6時		

\*参考資料：単元末テスト結果，生徒による授業評価結果，その他授業の記録等

評価項目	気づいた点や具体的な改善策等
1 本単元の目標や内容は改善の必要が 〔 ある ・ ない 〕	
2 本単元の評価規準は改善の必要が 〔 ある ・ ない 〕	
3 本単元の構成は改善の必要が 〔 ある ・ ない 〕	
4 本単元の指導時数は改善の必要が 〔 ある ・ ない 〕	
5 指導方法や指導形態等について，改善の必要が 〔 ある ・ ない 〕 <input type="checkbox"/> TT <input type="checkbox"/> コース別学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 教材・教具の適切な使用等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
6 単元末テスト問題は改善の必要が 〔 ある ・ ない 〕	
7 その他	

高等学校

授業評価（生徒用）

\_\_\_\_年\_\_\_\_組（男・女）

この時間の授業について

各設問の該当する箇所に○印をつけてください。

1 先生の授業の準備は、よくなされていたと思いますか。

- よくなされていた。
- だいたいなされていた。
- 準備不足であった。

2 授業内容は、理解できましたか。

- 十分理解できた。
- だいたい理解できた。
- あまり理解できなかった。
- ほとんど理解できなかった。

3 説明は、わかりやすかったですか。

- とてもわかりやすかった。
- わかりやすかった。
- わかりにくかった。

4 あなた自身は、授業に集中して取り組みましたか。

- 集中して取り組んだ。
- ある程度集中して取り組んだ。
- 集中して取り組んだとはいえない。

5 クラス全体の授業への取り組みはどうでしたか。

- 大変よく取り組んでいた。
- どちらかといえばよく取り組んでいた。
- あまりよく取り組んでいなかった。

6 授業には満足ですか。

- 満足のいく授業であった。
- 満足度はまずまずであった。
- あまり満足できる授業ではなかった。（どんな点か、下記に記入してください）

7 授業を受けて、もう一度内容を復習したり、関連する内容を調べてみたり、さらに先の内容を勉強したりしようと思いましたが、いくつ選んでも結構です。

- もう一度、教科書や問題集で復習しようと思う。
- 関連する内容を、事典や書物で調べようと思う。
- 次に行われる授業の内容を調べてみようと思う。
- 特に、何もしようと思わない。

8 先生への要望等を記入してください。

単元評価（数学の微分法の例）（教師用）

平成 年 月 日

評価者 \_\_\_\_\_

評価項目	評価内容
<p><b>1 生徒の学習状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微分法の概念の理解</li> <li>・導関数の計算の習熟</li> <li>・導関数を用いて関数の変化を捉えること</li> <li>・3次関数のグラフをかくこと</li> </ul>	
<p><b>2 授業についての技術的な側面等に関する状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明と演習のバランス（時間配分等）</li> <li>・個別の指導や補充指導</li> <li>・その他</li> </ul>	
<p><b>3 微分法に対する教材観</b></p> <p>以前に指導した場合と比べて、教材観にどのような変化があったかを記す。初めての指導であればその感想を記す。</p>	
<p><b>4 教材研究について</b></p> <p>この単元を扱うにあたり、教師として、教科の指導内容の範囲を越えて、どのような研究や研修を実施したか、その内容を記す。</p>	
<p><b>5 その他</b></p> <p>自由に記述する。</p>	

## 特殊教育諸学校

授業評価(高等部・生徒用)

### 授業についてのアンケート

第 学年 名前 ( )

平成 年 月 日

この時間の授業をふりかえり、それぞれの質問について、あてはまる番号に○印をつけましょう。

このアンケートの結果は、先生方の授業づくりに生かしていきます。

- 1 授業はおもしろかったですか。  
①はい ②だいたい ③いいえ
- 2 学習したことがわかりましたか。  
①はい ②だいたい ③いいえ
- 3 学習する量はよかったですか。  
①はい ②多かった ③少なかった
- 4 授業の進みぐあいはよかったですか。  
①はい ②はやい ③おそい
- 5 授業中にわからないことを先生に聞くことができましたか。  
①はい ②少し ③いいえ
- 6 先生はあなたの意見を聞いてくれましたか。  
①はい ②少し ③いいえ
- 7 授業で、「先生に何かこうしてほしい」というきぼうを書きましょう。

単元評価（教師用）

単元・題材評価シート

平成 年 月 日

記入者（ ）

評価（○：課題特になし △：課題あり）

指導形態			単元・題材名		
学部等	部 年 組		実施期間		
項目	評価内容			評価	気づいた点及び改善策等
学習状況	1	個人の目標を実現できたか。			
	2	興味・関心をもって学習していたか。			
学習内容	1	障害の実態に適した内容であったか。			
	2	わかりやすい内容であったか。			
指導方法	1	個に応じた指導が行えたか。			
	2	教材・教具は適切であったか。			
	3	学習形態は適切であったか。			
	4	TTは有効に機能していたか。			
指導計画	1	指導計画通りに実施できたか。			
	2	個別の目標は適切であったか。			
	3	指導時間数は適切であったか。			
	4	実施時期は適切であったか。			
	5	年間指導計画に基づいて実施されているか。			
	6	個別の指導計画との関連が図られているか。			
その他	1	教育資源を有効活用できたか。			
	2	次年度も同学年で実施すべき内容か。			
備考					



## 〔参考文献〕

- 田中統治 「特色ある教育課程とカリキュラムマネジメントの展開」 児島邦宏・天笠茂編『学校経営を変える管理職の条件 2 柔軟なカリキュラムの経営』ぎょうせい 2001.9
- 「学年・学級の指導点検とカリキュラム開発」木岡一明編『チェックポイント・学校評価No.1』教育開発研究所 2003.5
- 「カリキュラムマネジメントを進める組織開発」木岡一明編『チェックポイント・学校評価No.2』教育開発研究所 2003.7
- 「確かな学力保障と指導組織設計・協働態勢づくり」木岡一明編『チェックポイント・学校評価No.2』教育開発研究所 2003.7
- 「カリキュラム評価による学校改善の方法」中留武昭・論文編集委員会編『21世紀の学校改善－ストラテジーの再構築』第一法規 2003.1
- 「学習指導要領部分改訂への対応と学力保障」『教育展望』教育調査研究所 2004.1・2
- 「[生きる力]をはぐくむ教育課程のために」『初等教育資料』東洋館出版社 2004.4
- 「自己点検・自己評価の結果をどう活用するか」高階玲治編『誰もが活用したい「学校自己評価・外部評価」100の実践ポイント』教育開発研究所 2004.10
- 安彦忠彦 「カリキュラムの評価的研究」安彦忠彦編『新版カリキュラム研究入門』勁草書房 2000.10
- 「教育課程の評価と自己点検・自己評価の研究」有園 格編『“診断と対策”新教育課程下の学校経営No.5 弾力的なカリキュラム編成』教育開発研究所 2001.1
- 『カリキュラム開発で進める学校改革』明治図書 2003.10
- 中留武昭 『学校と地域とを結ぶ総合的な学習・カリキュラムマネジメントのストラテジー』教育開発研究所 2002.11
- 「学校改善 (School Improvement) 研究ノート」中留武昭・論文編集委員会編『21世紀の学校改善－ストラテジーの再構築』第一法規 2003.1
- 「学校改善の方策と組織マネジメント」高階玲治編『学校の自己点検・自己評価の進め方』教育開発研究所 2003.2
- 中留武昭 「高校における特色あるカリキュラムマネジメントの創造(2)」『月刊高校教育2003.7月号』学事出版 2003.7
- 田村知子
- 木岡一明 「学校評価の基本問題」木岡一明編『チェックポイント・学校評価No.1』教育開発研究所 2003.5
- 『新しい学校評価と組織マネジメントー共・創・考・開を指向する学校経営ー』第一法規 2003.7
- 浜田博文 「校長の経営ビジョンと特色ある学校づくり」木岡一明編『チェックポイント・学校評価No.1』教育開発研究所 2003.5
- 「学校の組織と経営」『最新教育基本用語』小学館 2003.6
- 小松郁夫 「求められる社会的説明責任と学校「経営」時代の到来」『進研ニュースVIEW21 June 2003』ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総研 2003.6
- 天野正輝 『総合的学習のカリキュラム開発と評価』晃洋書房 2000.7
- 八尾坂修 『現代の教育改革と学校の自己評価』ぎょうせい 2001.4
- 小島 宏 『学校の自己点検・自己評価の手引 小学校版』明治図書 2002.11
- 台東区教育委員会 『東京都台東区立小学校学校評価基準及び取り扱い資料』 2002.2

## 〔研究関係者一覧〕

### 1 研究助言者

筑波大学教授 田中 統治

### 2 研究協力校・研究協力員

桂村立坏小学校	教諭	関 一司
鹿嶋市立鹿島小学校	教頭	松岡 重喜
水海道市立豊岡小学校	教諭	栃木恵津子
大洗町立南中学校	教諭	中根 達矢
日立市立泉丘中学校	校長	石川 潤
千代田町立千代田中学校	教諭	岡 保裕 (平成16年度)
同	教諭	岡野 剛史 (平成15年度)
県立土浦第二高等学校	教諭	矢口 悦朗
県立下館工業高等学校	教頭	高橋 貞一 (平成16年度)
同	教頭	塩幡 裕 (平成15年度)
県立水戸飯富養護学校	教諭	鈴木 功

### 3 教育庁

義務教育課指導主事	塚本 秀樹 (平成16年度)
同	川又 暢 (平成15年度)
高校教育課指導主事	石崎 弘美 (平成16年度)
同	野内 俊明 (平成15年度)
特別支援教育課指導主事	加瀬 俊一
保健体育課指導主事	大木 一雄

### 4 教育研修センター

所 長	大金 文郎
次 長	北澤 勝行
次長兼教職教育課長	中原 一博
教職教育課指導主事	松延 和典
同	稲生 耕一 (平成16年度)
同	梅里 節子
同	黒田 裕之 (平成16年度)
同	岡本 聡
同	石井 誠二
同	古川 善久
同	黒澤 明良
同	大林 邦仁 (平成16年度)
同	永塚 卓 (平成15年度)
同	丹 文男 (平成15年度)
同	柴山 久 (平成15年度)
特別支援教育課指導主事	椎木 久夫

学校評価に関する研究  
学校改善につながる学校評価の在り方  
平成15・16年度

平成17年3月発行

編集 茨城県教育研修センター教職教育課

発行 茨城県教育研修センター

〒309-1722

茨城県西茨城郡友部町平町字山ノ神1410

TEL 0296(78)2121 (代表)

FAX 0296(78)2122

URL <http://www.edu.pref.ibaraki.jp/center>